

## Ⅱ. 評定尺度調査の分析結果

### 【評定尺度調査の分析にあたって】

今回用いた評定尺度は、「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」による4段階評価である。本報告書においては、データの理解や分析のしやすさを考慮し、便宜的に4段階のカテゴリーに4～1の点数を振り、その平均値を算出することによって、データの代表値とした。ただし評定尺度の各カテゴリーに振られた「数字」を「数値」として加減乗除の演算をすることは、厳密に言えば統計処理として適切でない。3が2よりもあてはまる程度が大きいことは言えても、4と3の間と3と2の間が等距離（つまり1の間隔）だという保証はどこにもないからである。しかし4つのカテゴリーごとの相対度数（パーセント）から何らかの傾向を掴み取ることは容易ではないため、平均値を回答の傾向を推察する目安の1つとして用いたい。

また、ここでの平均値は何らかの単位を持つものではないので、データ同士の相対比較でのみ、その傾向を読み取ることになる。仮にある項目の平均値が、他の項目より低かったとしても、大部分の回答者がその項目に対して肯定的な評価をしていれば、その項目の評価は低いと簡単に断言できるものではないからである。つまり絶対的な評価が把握しにくいと言える。そこで、「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答した対象者の割合を同時に提示した。これによって、その評価項目に対し肯定的評価をしている学生がいかほどの割合で存在するかを推測する目安とする。

さらに回答者の属性ごとの回答者数を提示する。本来ならば、グラフ等のデータごとに回答者数を示すべきであるが、データの構造上、全てのデータに回答者数を掲載すると極めて煩雑になるため、ここに一括して掲載することにした（次頁表2-1）。以下、本章においては、常に次頁の回答者数に基づいてデータを見る必要がある。特に回答者数の少ない層ほど誤差も大きく出る可能性があるため、注意が必要である。たとえば、学部の年齢階層別「19歳以下」、職業別「農業等」「他大学等の学生」、大学院の年齢階層別「20～29歳」等の場合である。なお、大学院の職業別「農業等」「他大学の学生」は極端に回答者数が少ないため、本報告書の分析からはずした。

表 2 - 1 回答者数一覧

【学部】				【大学院】			
全体		(単位：人)		全体		(単位：人)	
メディア		年齢階層		メディア		年齢階層	
テレビ科目 (TV)	3,704	19歳以下	26	テレビ科目 (TV)	226	20～29歳	43
ラジオ科目 (R)	2,197	20～29歳	430	ラジオ科目 (R)	922	30～39歳	121
職業		30～39歳	735	職業		40～49歳	244
公務員等	437	40～49歳	1090	公務員等	154	50～59歳	307
教員	348	50～59歳	1079	教員	212	60～69歳	310
会社員	1,004	60～69歳	1627	会社員	174	70歳以上	110
個人営業・自営業	396	70歳以上	879	個人営業・自営業	78	プログラム	
農業等	32	コース		看護師等	79	生活健康科学	304
看護師等	538	基礎科目	642	家事専業	69	人間発達科学	323
家事専業	520	共通科目：人文系	634	パート・アルバイト	88	臨床心理学	242
パート・アルバイト	617	共通科目：社会系	195	無職	200	社会経営科学	44
他大学等の学生	42	共通科目：外国語	376	その他	61	人文学	186
無職	1,627	生活と福祉	896			情報学	28
その他	235	心理と教育	628			自然環境科学	21
		社会と産業	616				
		人間と文化	358				
		情報	132				
		自然と環境	566				
		総合科目	740				
		夏季集中科目	118				

※職業及び年齢には無回答があるため、職業及び年齢階層の回答者数をそれぞれ合計しても、全体の回答者数とは一致しない。

## Ⅱ－1. 学部の分析結果

### Ⅱ－1－1. 項目平均から見た全体的傾向

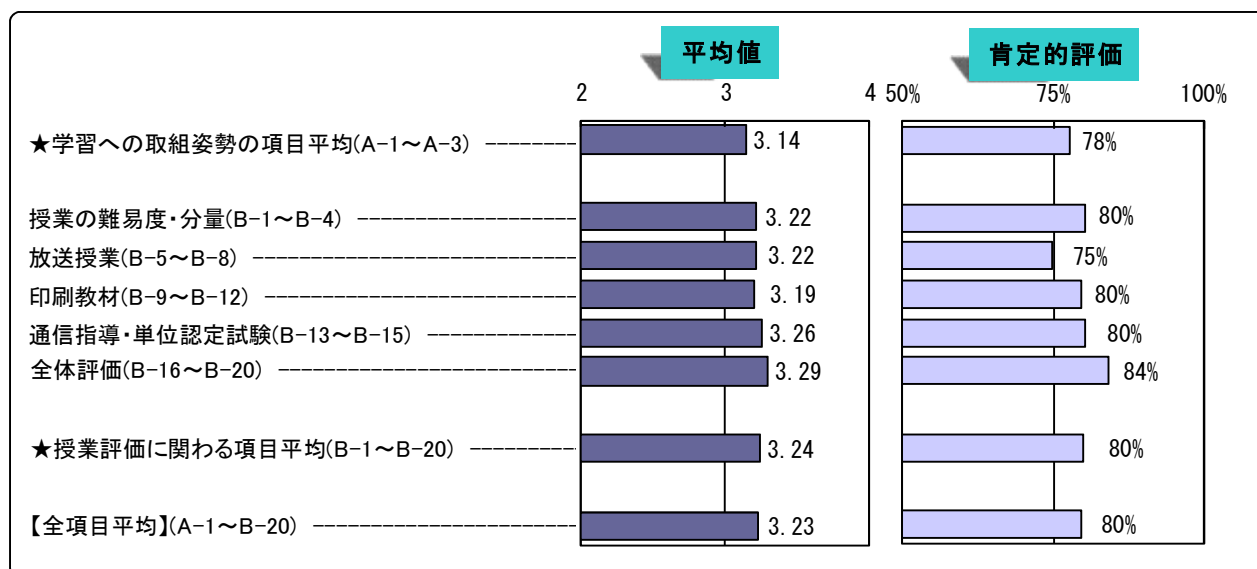
学部の回答者全体について、評価項目の内容ごとにその平均を算出したのが（図 2－1）である。まずはこの図によって評価の全体的傾向を把握しておくこととする。

今回の調査における項目平均は、いずれもまずまずの高評価と言える。

『学習への取組姿勢の項目平均』は平均値 3.14、肯定的評価（「あてはまる」＋「ややあてはまる」）78%、同様に『授業評価に関わる項目平均』も平均値 3.24、肯定的評価 80%と高い値を示している。

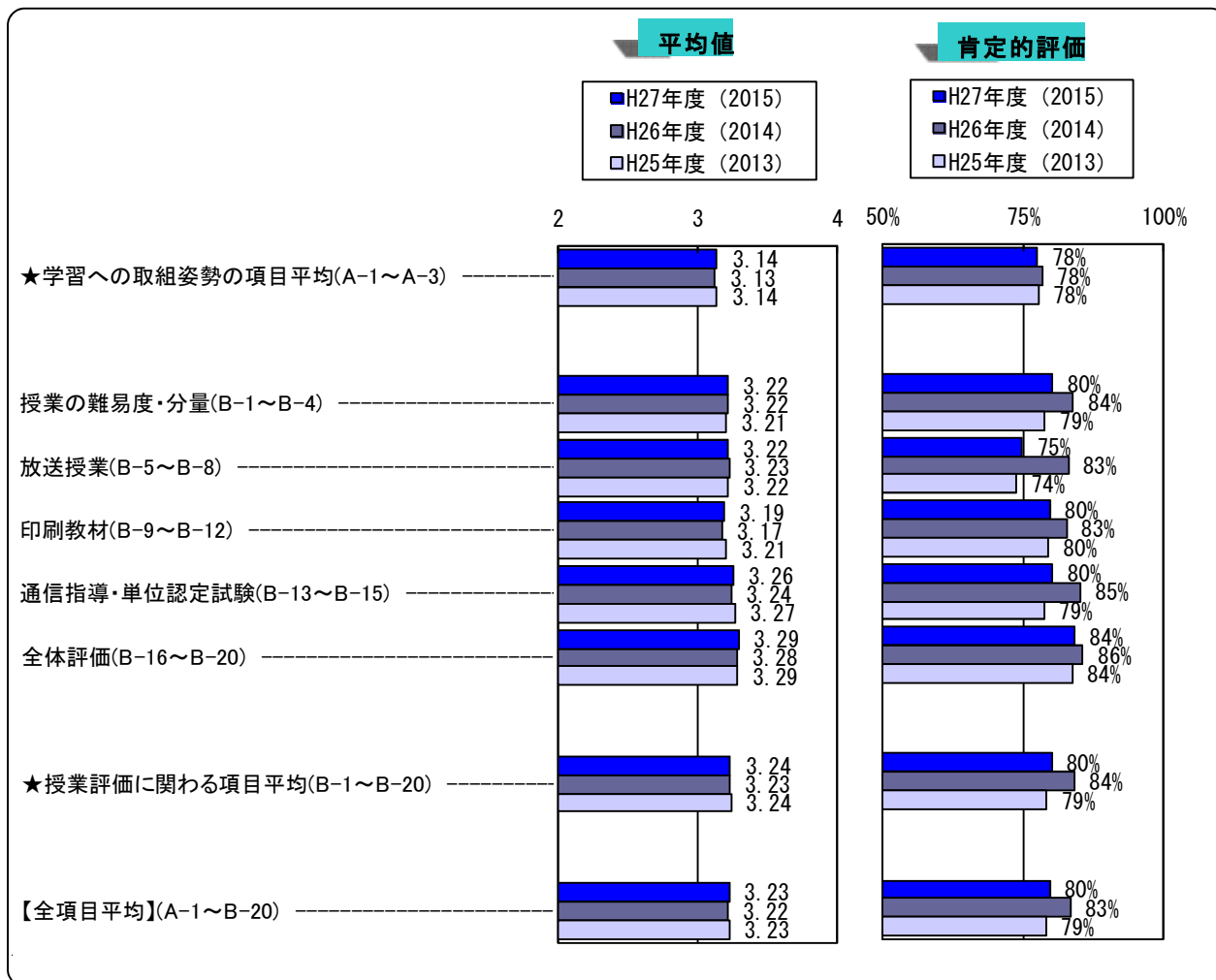
『学習への取組姿勢の項目平均』をさらに内容ごとにみると、『全体評価』は肯定的評価をしている人が 84%と高い。その他の項目もある程度平均的であるが、『放送授業』の評価は 75% と他と相対的に低めである。

図 2－1 【学部】項目平均による全体的傾向



評価項目平均を科目の開設年度で比較した時(図2-2)、2015年度新規開設科目は、2014年度新規開設科目に比べ、平均値ではほぼ同じ水準を維持しているが、肯定的評価の割合は授業評価に関わる項目の全てにおいて、2014年度より低くなっている。

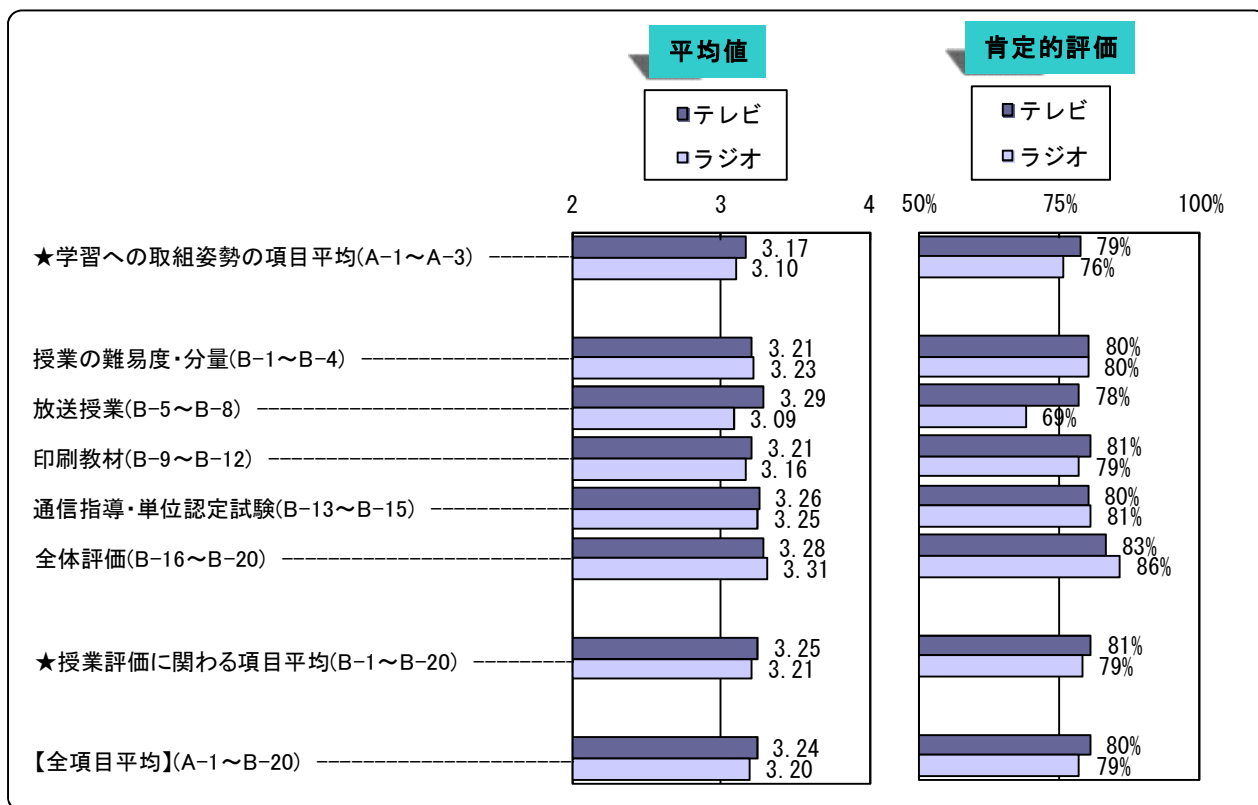
図2-2 【学部】項目平均による全体的傾向(開設年度比較)



メディア別に 2015 年度新規開設科目の評価項目の平均を見ると（図 2-3）、『全体評価』は、ほぼ同じ値であり、『授業の難易度・分量』、『全体評価』の項目を除き、テレビ科目がラジオ科目を上回っている。

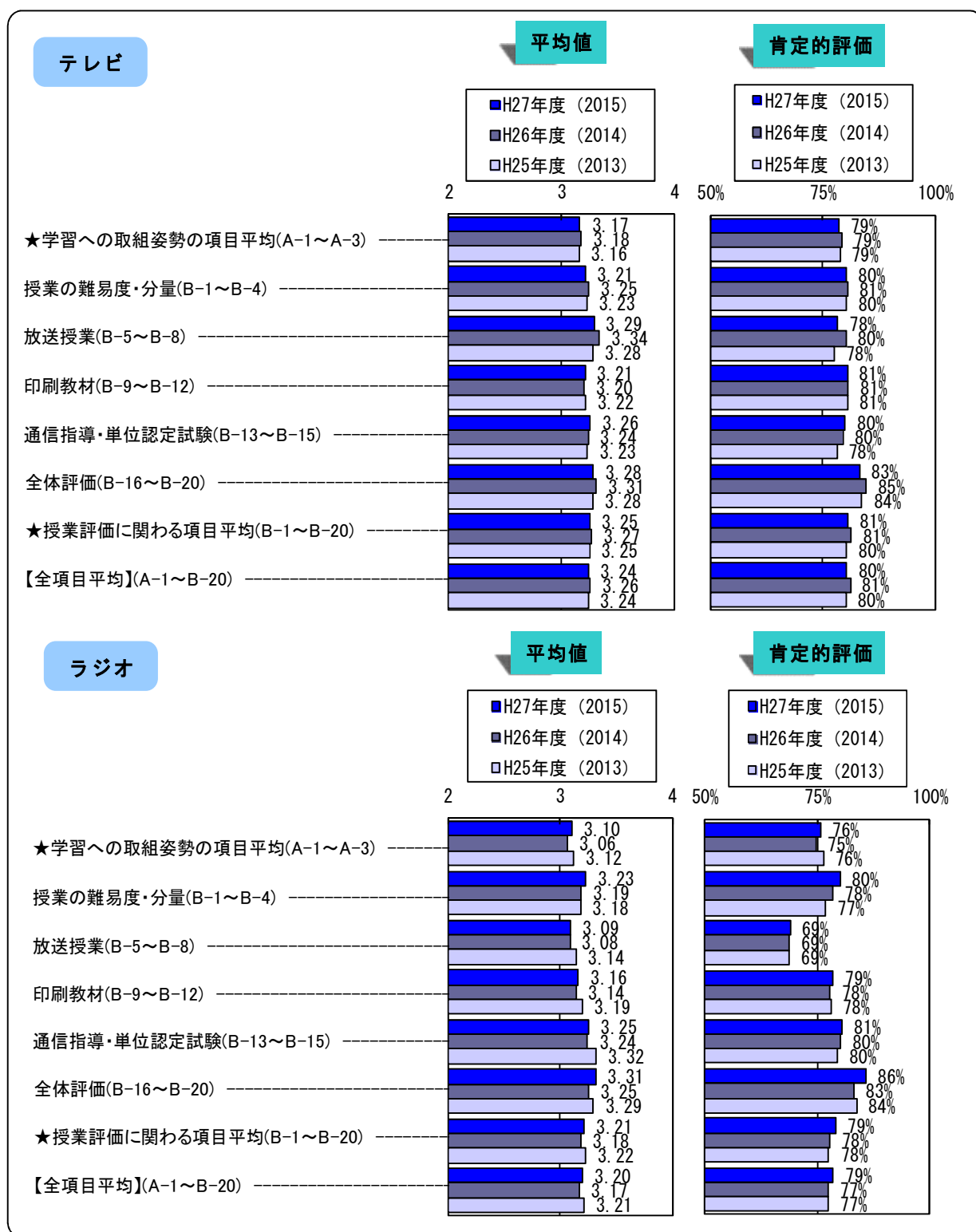
肯定的評価についても、概ね平均値の結果をそのまま反映していると言えるが、『通信指導・単位認定試験』と『全体評価』で平均と結果が逆転している。

図 2-3 【学部】項目平均によるメディア別全体的傾向



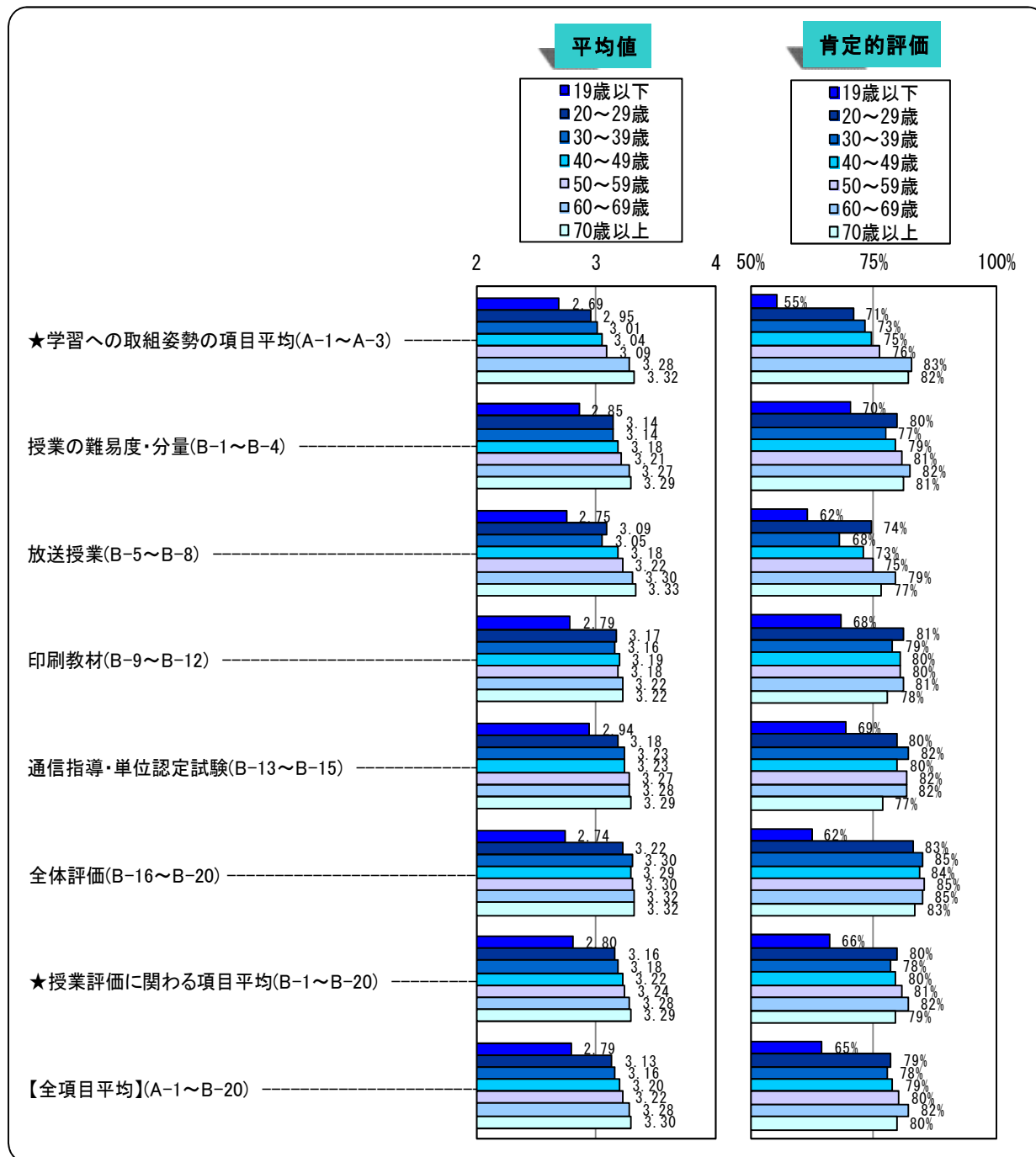
次にメディア別の項目平均を科目の開設年度で比較してみると（図2-4）、テレビ科目は、「印刷教材」、「通信指導・単位認定試験」以外の項目平均で2014年度より若干低い値となっているが、全体的には2013年度からほぼ同じ数値で推移している。ラジオ科目では、いずれの項目平均でも昨年度の水準を上回っており、昨年度よりやや改善の傾向がうかがえる。肯定的評価についても、平均値の結果がそのまま反映されている。

図2-4 【学部】項目平均によるメディア別全体的傾向（開設年度比較）



回答者の年齢階層別に 2015 年度新規開設科目の項目平均を見ると（図 2-5）、ほとんどの項目において、年齢層が高くなるほど評価平均が高くなっている。一方で、19 歳以下の平均が、全項目で著しく低い。

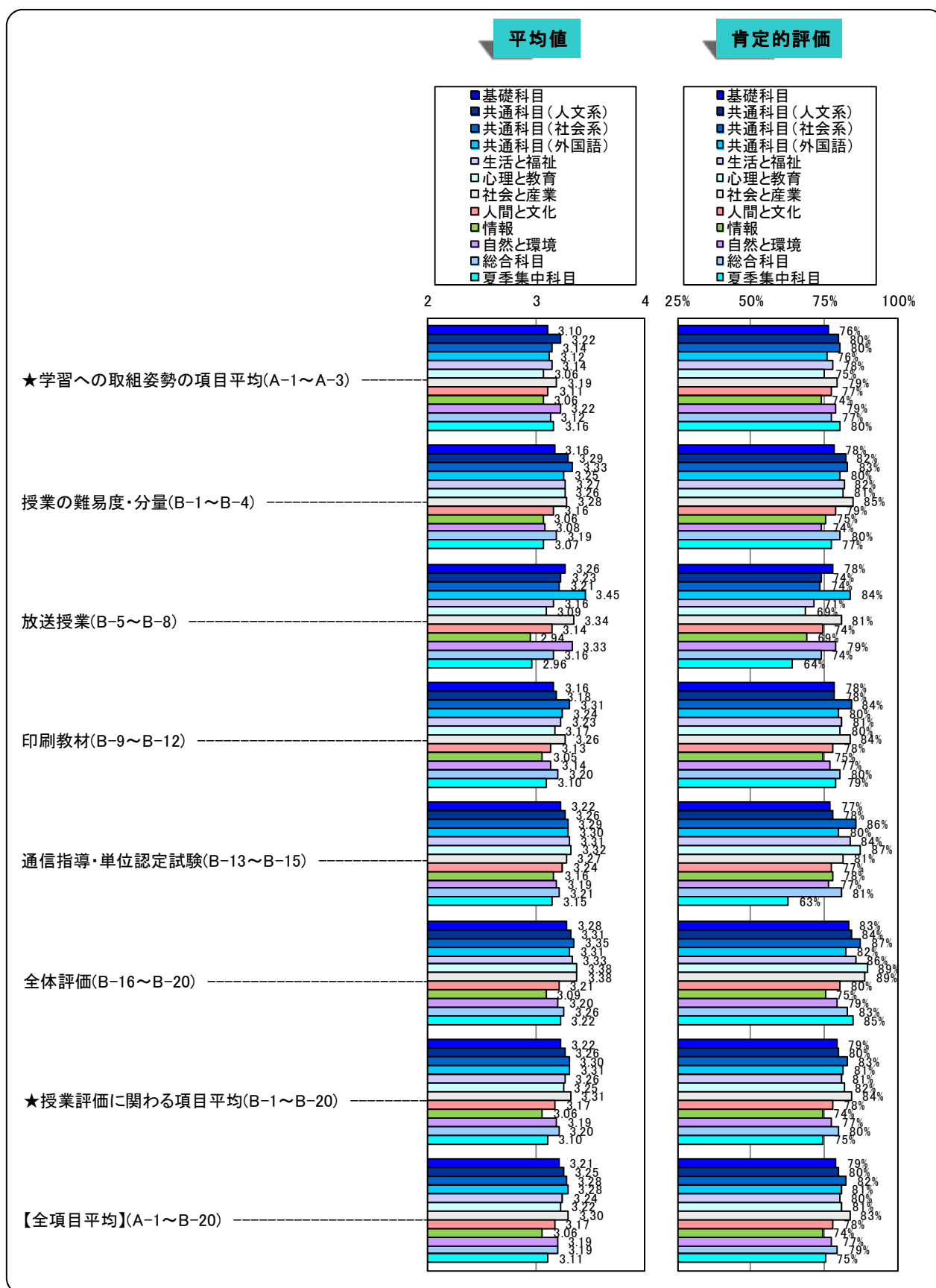
図 2-5 【学部】項目平均による年齢階層別全体的傾向



科目の所属コース別に項目平均を見ると(次頁図2-6)、ほとんどの項目において「共通科目(社会系)」と「社会と産業」は評価が高い傾向にあるが、「情報」と「夏季集中科目」の評価が低い傾向にあり、改善が求められる。他は大きな差異は認められず、どのコースもそれなりの評価を得ていると言えるが、「放送授業(B-5~B-8)」の項目においては、科目によって評価の高いコースや低いコースとばらつきが大きい。



図 2 - 6 【学部】 項目平均による所属コース別全体的傾向

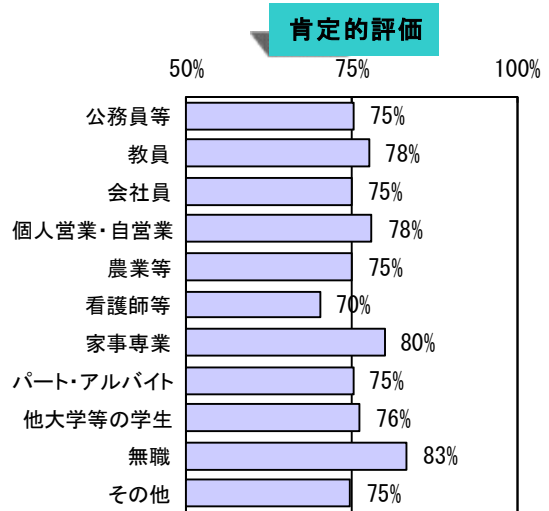
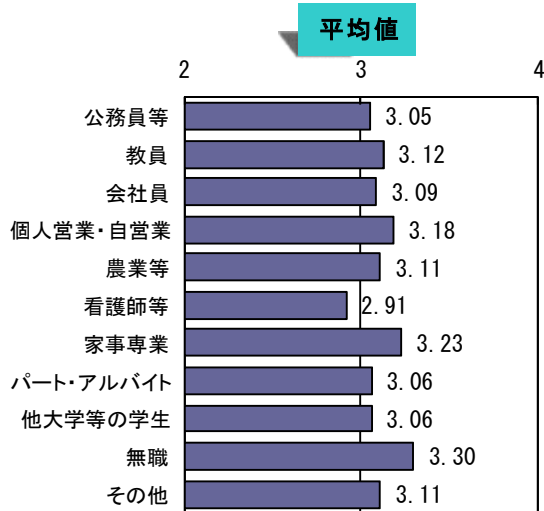


回答者を職業別に見ると(次頁図2-7)、『学習への取組姿勢の項目平均』は、「無職」、「家事専業」、「個人営業・自営業」の順で高く、在宅者の取組姿勢が高いといえる。『授業評価に関わる項目平均』、『全項目平均』では、「農業等」が高い値となっている。肯定的評価を見ても、いずれの項目でも「農業等」の評価が高い一方、「看護師等」、「他大学等の学生」、「その他」の評価が低い結果となっている。

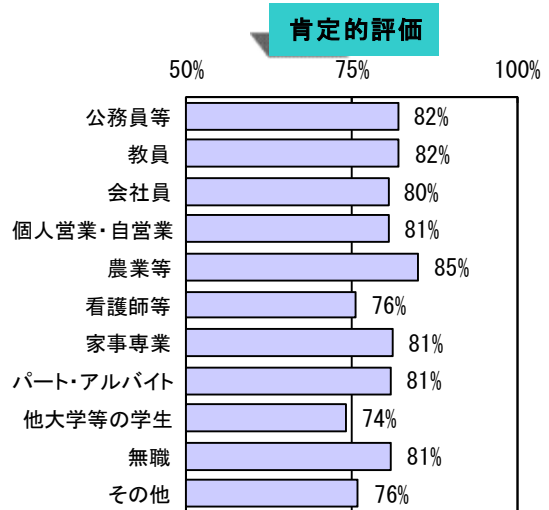
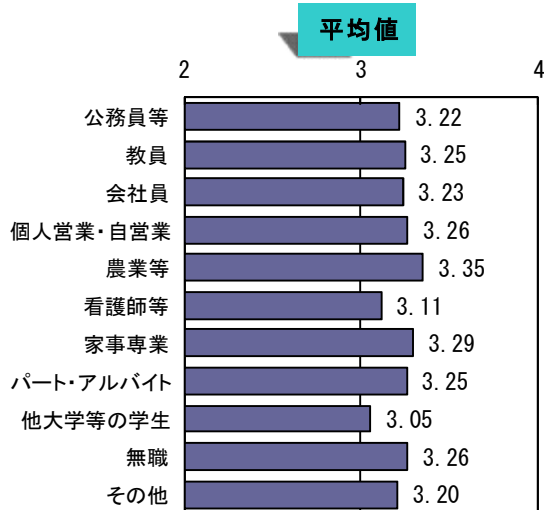
現役学生と専門職の評価が低いことは、一考すべき課題である。

図 2 - 7 【学部】項目平均による職業別全体的傾向

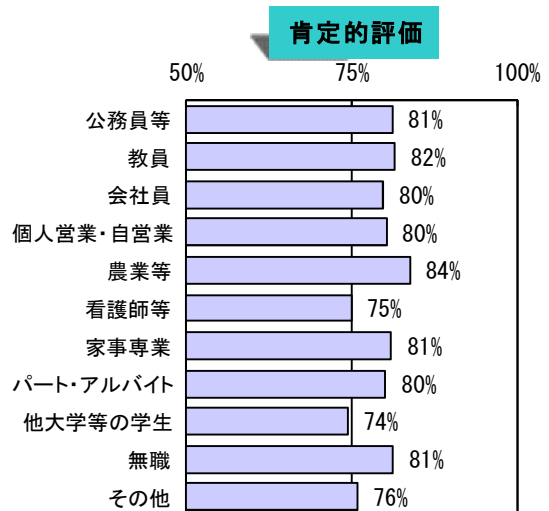
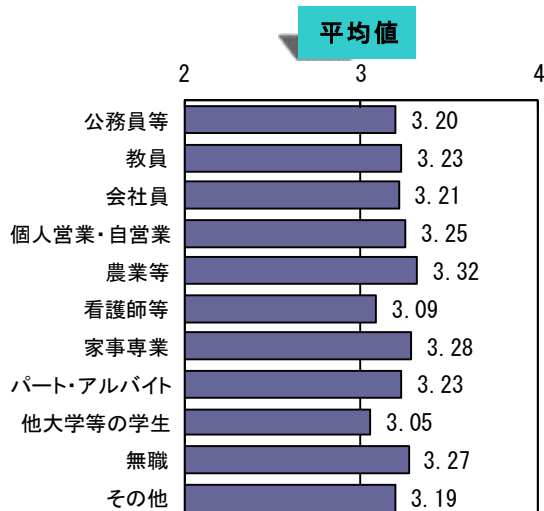
★学習への取組姿勢の項目平均(A-1～A-3)



★授業評価に関わる項目平均(B-1～B-20)



【全項目平均】(A-1～B-20)

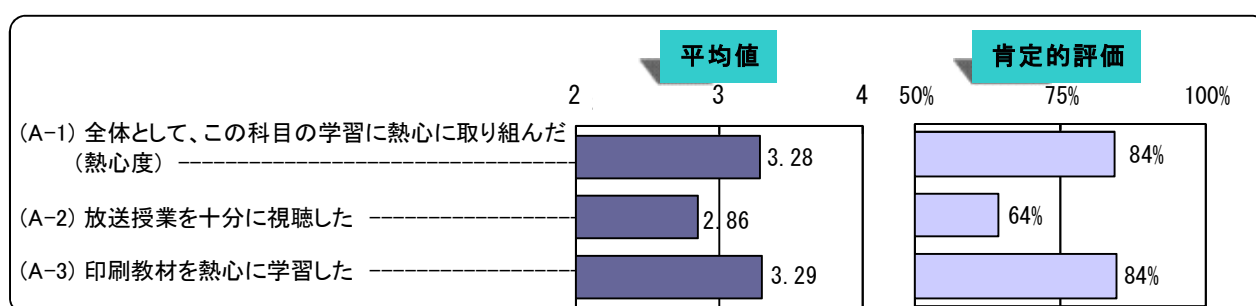


## Ⅱ-1-2. 学習への取組姿勢

ここからはそれぞれ評価項目ごとに調査結果を見ていく。

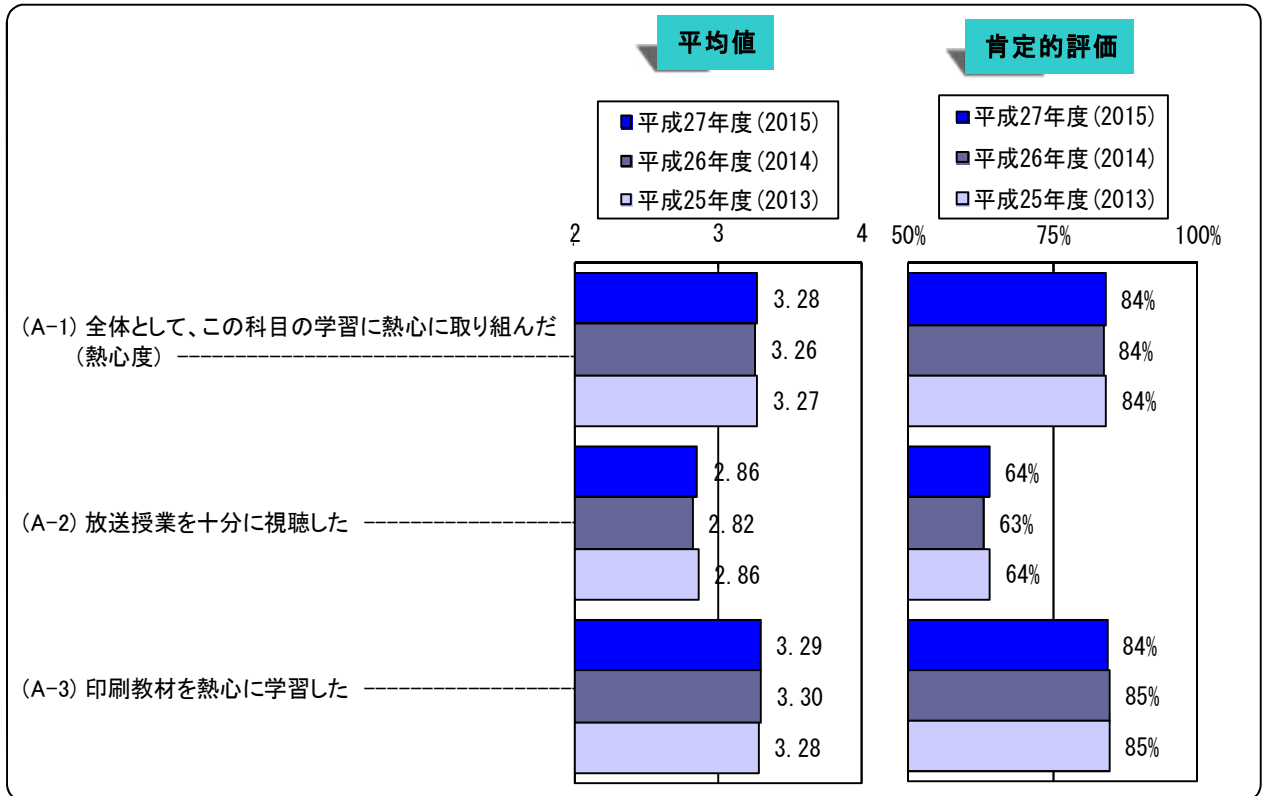
学習への取組姿勢（図2-8）では、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」が平均値 3.28、肯定的評価 84%と、総じて熱心に学習していることが表れている。同様に (A-3)「印刷教材を熱心に学習した」も平均値 3.29、肯定的評価 84%と高い。しかしこれらに比べると、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は、平均値 2.86、肯定的評価 64%と低く、学習は印刷教材中心という傾向を示している。

図2-8 【学部】回答者全体の取組姿勢



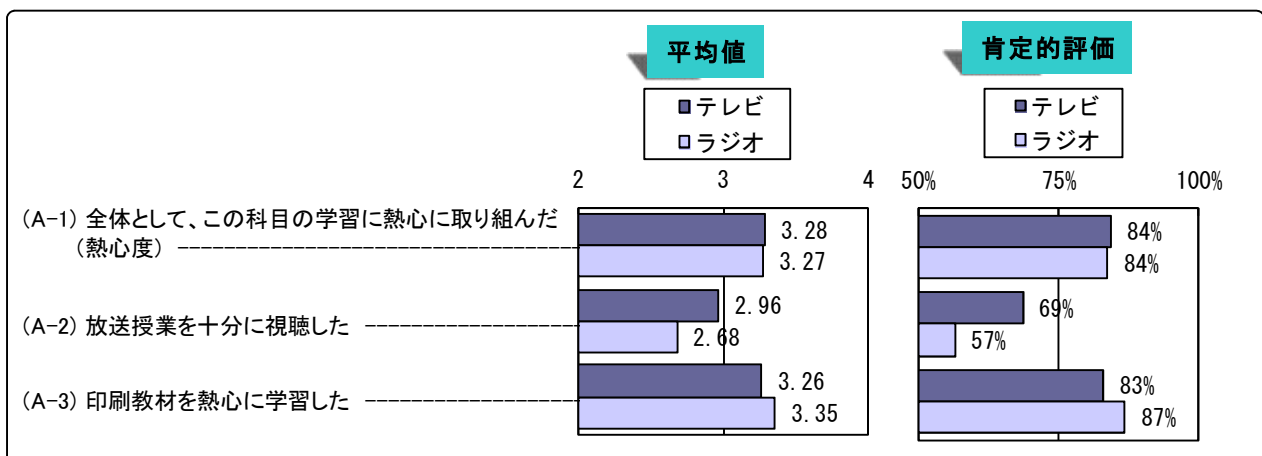
取組姿勢を時系列で見ると（次頁図2-9）、いずれの項目においても、平均値、肯定的評価ともに前回とほぼ同じ水準である。年度によっての変化は認められないが、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」の項目は低いままである。この傾向が続いていることを考えれば、その原因を追求し、今後の授業内容の改善を試みることにより取組姿勢も向上するものと考えられる。時間に制約がある放送授業ではインターネットやオンデマンドなどでの番組提供を増やすことにより、時間に制約されない視聴環境を作っていくことも必要であろう。

図 2 - 9 【学部】回答者全体の取組姿勢（時系列）



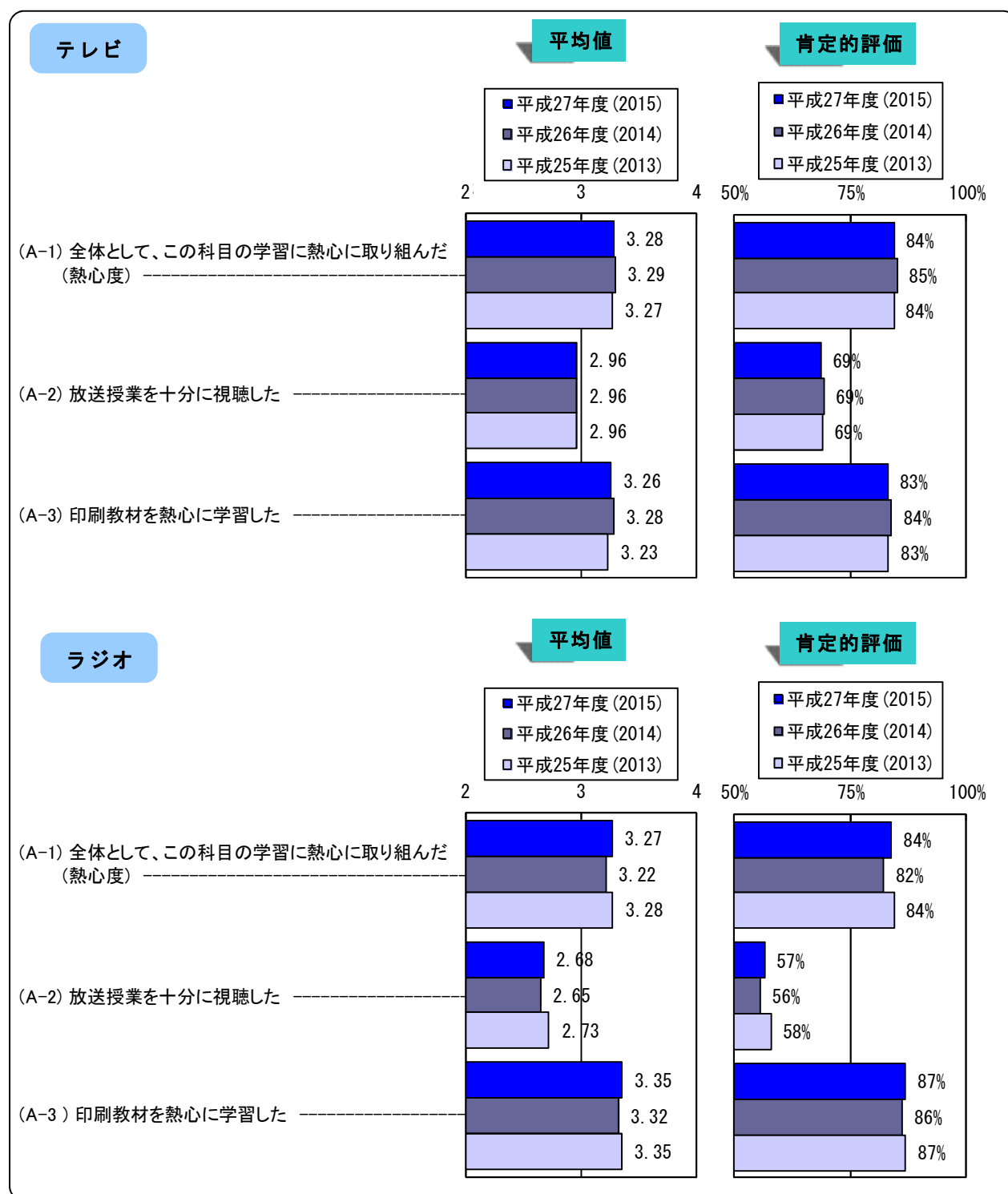
次にメディア別に取り組姿勢を見ると（図 2 - 1 0）、(A-1)「全体として、この科目の学習に取り組んだ」の項目ではテレビ科目とラジオ科目が拮抗しているが、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」の項目ではテレビ科目の方がラジオ科目を大きく上回る評価となっている。逆に (A-3)「印刷教材を熱心に学習した」という項目ではラジオ科目の方がテレビ科目より高い。

図 2 - 1 0 【学部】メディア別の取組姿勢



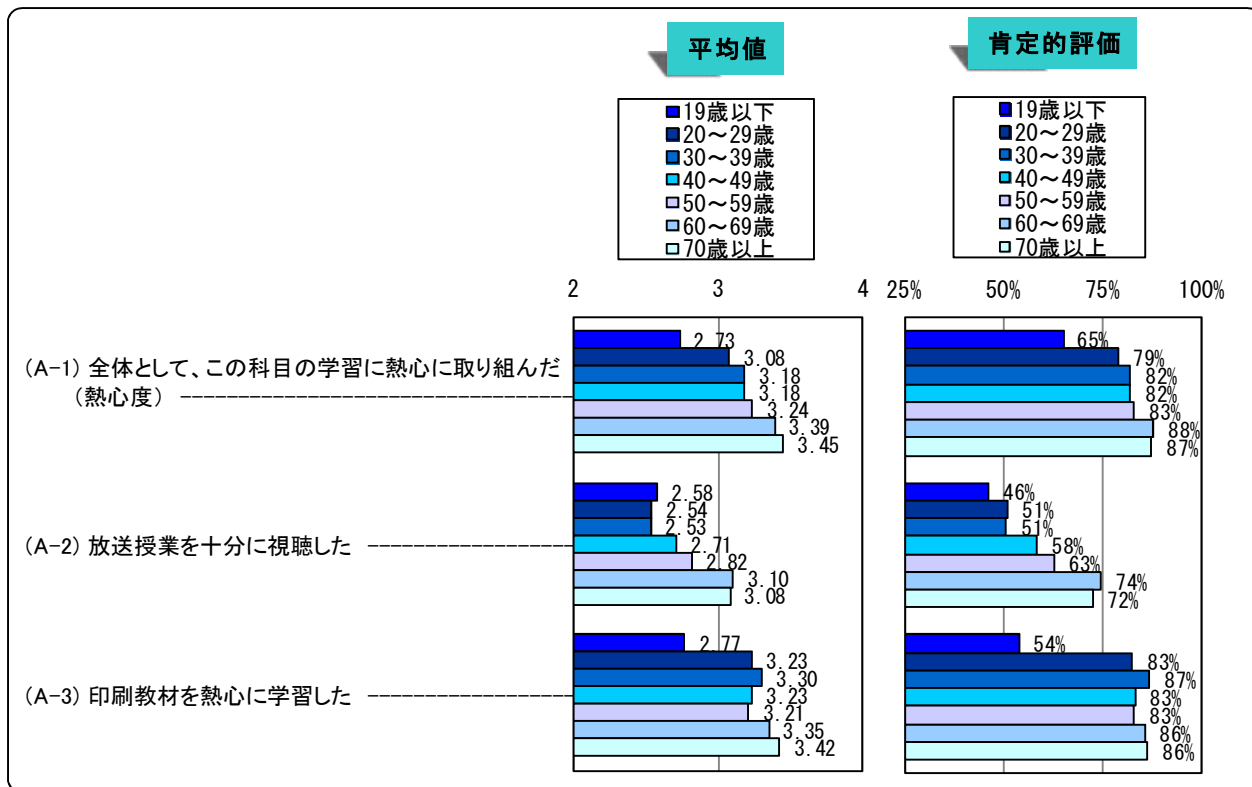
メディア別の取組姿勢を時系列で見ると（図2-11）、テレビ科目は、2014年度に比べ、(A-1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ」(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」の項目でやや下がっている。ラジオ科目については、いずれの項目においても僅かに上がっている。これらについては、『図2-4【学部】項目平均によるメディア別全体的傾向』（24ページ）も参照されたい。

図2-11 【学部】メディア別の取組姿勢（時系列）



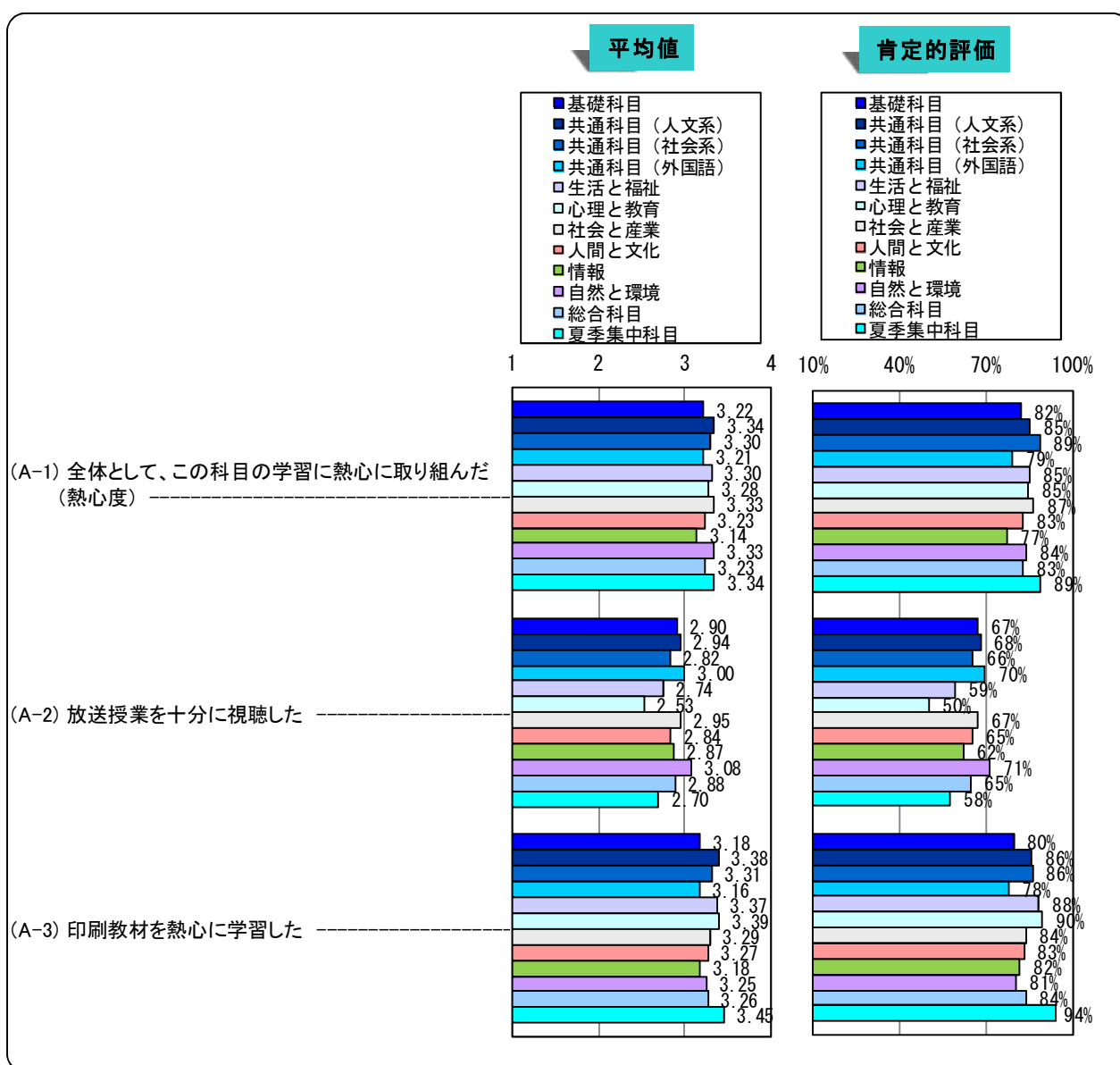
年齢階層別に取り組姿勢を見ると（図2-12）、年齢階層が上がるほど値が高くなっていくのが特徴的である。しかし（A-3）「印刷教材を熱心に学習した」の項目において、40～49歳、および50～59歳の値が低くなっている。学習意欲はあるものの、仕事などによって教材に取り組む時間がなかったのではないかと推測される。

図2-12 【学部】年齢階層別に取り組姿勢



所属コース別に取り組姿勢を見ると（図2-13）、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は、「心理と教育」、「夏季集中科目」の値が極めて低くなっている。他のコースも平均値で3.00を下回っているものがほとんどである。「夏季集中科目」については授業内容以外の要素もあると思われるが、いずれにせよ、放送授業に潜在的な改善の必要があり、視聴を増加させる工夫が必要かと思われる。(A-1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ」と(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」は全体的に高い値となっている。また、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」と(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」を比べると、前者の値が高いと後者の値が低くなり、逆に前者が低いと、後者が高くなる傾向がある。

図2-13 【学部】所属コース別の取組姿勢





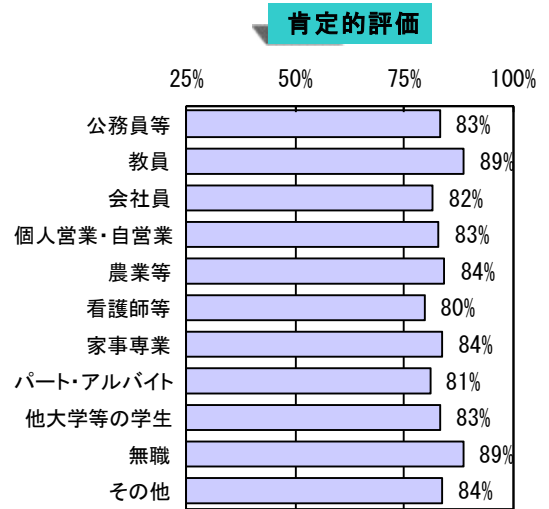
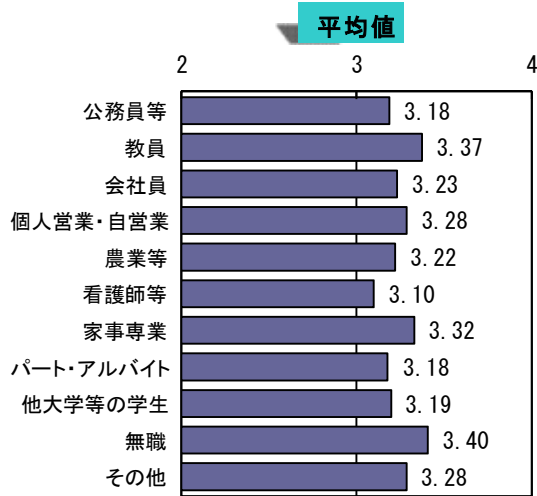
職業別に取り組姿勢を見ると（次頁図 2 - 1 4）、(A-1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ」は、「看護師等」の値がやや低いものの全体的に値が高い傾向にある。

(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」も、全体的に高い値となっている。

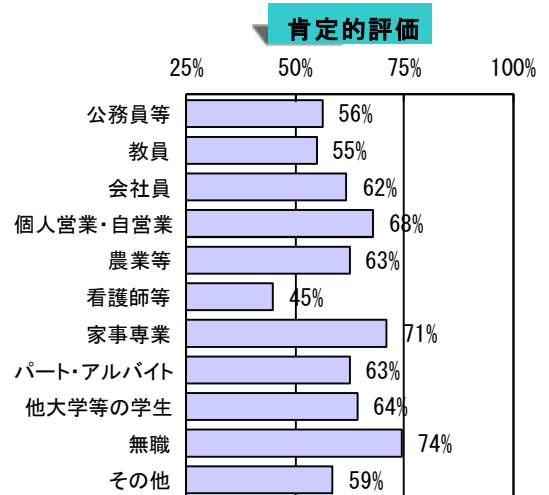
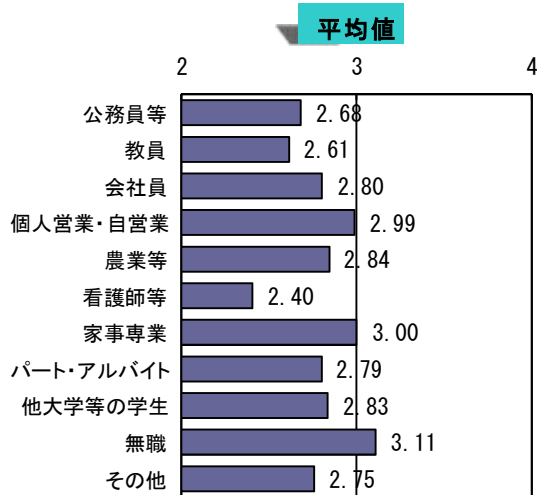
(A-1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ」と (A-3)「印刷教材を熱心に学習した」に比べ、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」の値が全体的に低いのは特徴的である。「看護師等」は値が極めて低いが、これは職業ならではの事情が背景にあると思われる。放送時間に都合をつけやすい「無職」「家事専業」「個人営業・自営業」では相対的に値が高くなっているが、全体的に値が低いのは、テレビ・ラジオ以外で受講できるシステムの構築など、講義提供手段を増幅・充実させることが求められている現れである。

図 2 - 1 4 【学部】職業別の取組姿勢

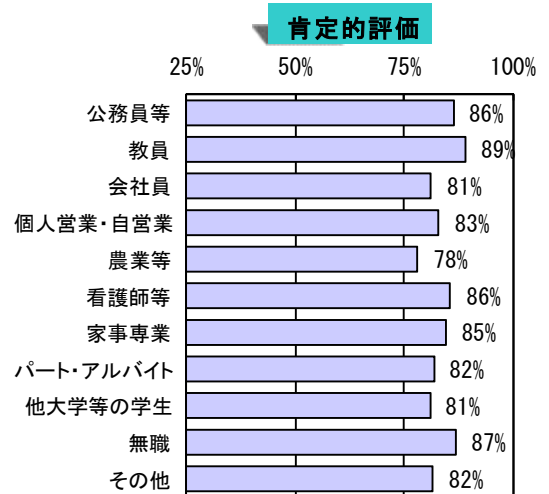
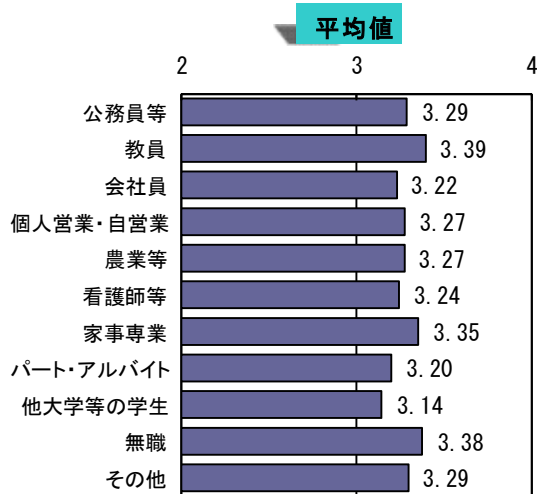
(A-1) 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ



(A-2) 放送授業を十分に視聴した

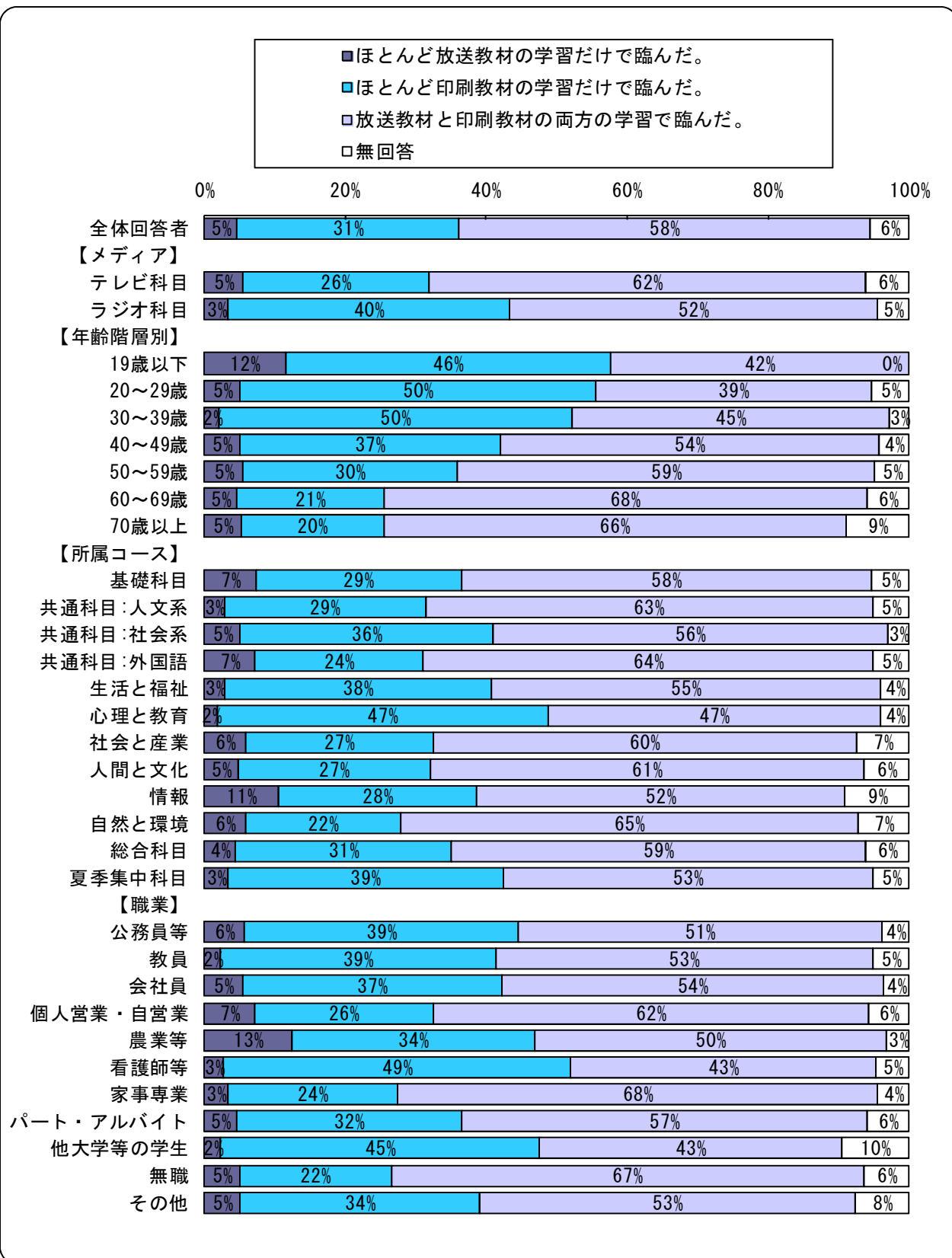


(A-3) 印刷教材を熱心に学習した



単位認定のための学習方法（次頁図 2-15）は、全体では『放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ』が 58% を占めており、最も値が高い傾向にある。年齢階層別では高齢層になるほど値が高くなる傾向があり、年齢とともに教材学習のバランスが良くなる傾向がみられる。次に『ほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ』は全体で 31% を占めており、メディア別では「テレビ科目」に比べて「ラジオ科目」が高い。これは「ラジオ科目」という特質上、印刷教材で視覚的に学習を補おうとしたためと受け取れる。職業別では「看護師等」が印刷教材での学習だけで臨む比率が最も高く、交替制の勤務体系で、決まった時間に放送授業を受けられなかったのではと推測される。『ほとんど放送教材の学習だけで臨んだ』は全体で 5% 程度の割合であり、『ほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ』の 31% と比べても、受講生がいかに印刷教材を重視しているかがうかがえる。自由な時間に繰り返し読むことができる印刷教材と、視聴に制約のある放送教材という違いはあるにしても、この傾向に、放送教材の問題点が逆説的に浮かびあがっていると考えることもできる。

図 2 - 1 5 【学部】 単位認定のための学習方法



## Ⅱ－1－3. 学部の授業評価

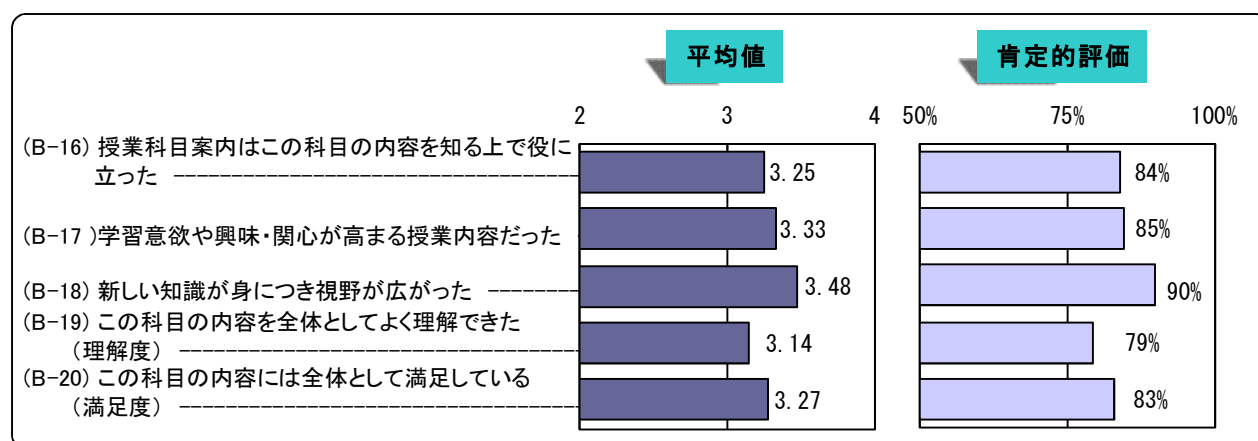
### (1) 全体評価

ここからは学部の授業評価について、評価項目ごとに見ていくこととする。

まず全体評価の各項目を見ると（図2－16）、(B-18)「新しい知識が身につく視野が広がった」は平均値 3.48、肯定的評価 90%とかなり高い評価を得ている。また (B-17)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」も平均値 3.33、肯定的評価 85%と高くなっている。

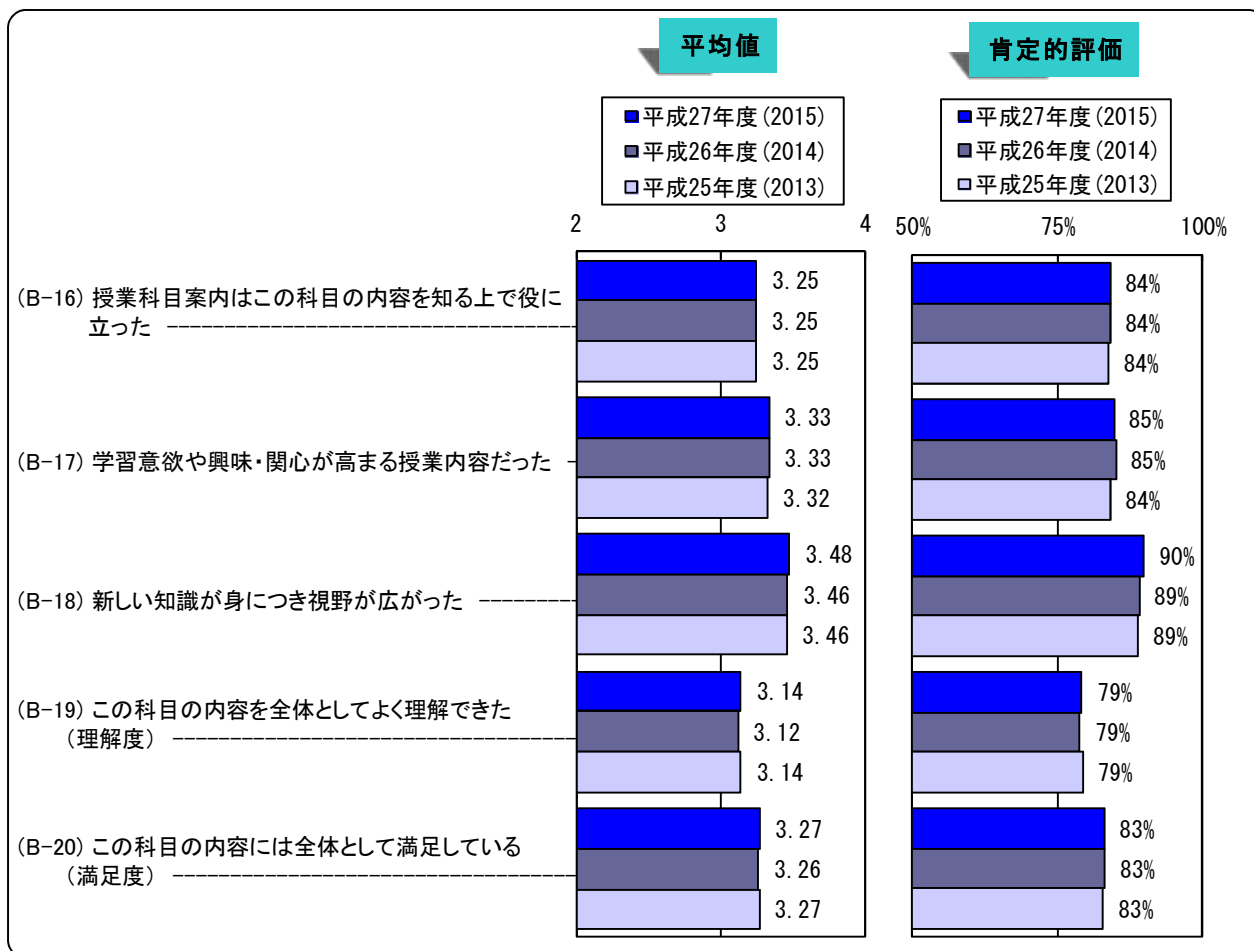
さらに(B-20)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」も平均値 3.27、肯定的評価 83%、(B-16)「授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った」は平均値 3.25、肯定的評価 84%と、比較的高い評価と言える。ただ理解度については満足度に比べると値が低い。これは履修生自身の理解能力も関係しているであろうが、「実際に履修したが、難しくてついていけなかった。自分の思っていた内容と違った」という声はかなり存在することを考えれば、内容について、さらに詳しく説明・解説する必要性が感じられる。

図2－16 【学部】回答者全体の全体評価



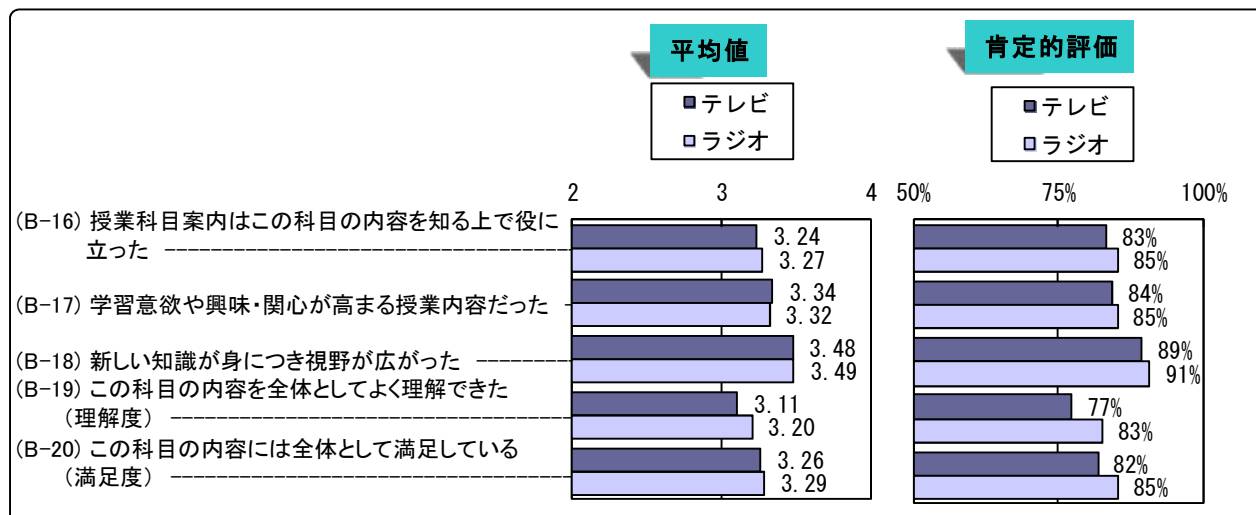
全体評価を時系列で見ると（図2-17）、全体的に2014年度とほぼ同じ水準の高い値を維持しているが、(B-18)「新しい知識が身につく視野が広がった」(B-19)「この科目の内容を全体として理解できた（理解度）」(B-20)「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」においては昨年度の平均値をわずかながら上回っている。

図2-17 【学部】 回答者全体の全体評価（時系列）



メディア別に全体評価を見ると（図2-18）、(B-17)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」の平均値を除く全ての項目においてラジオ科目の方がテレビ科目より高くなっている。

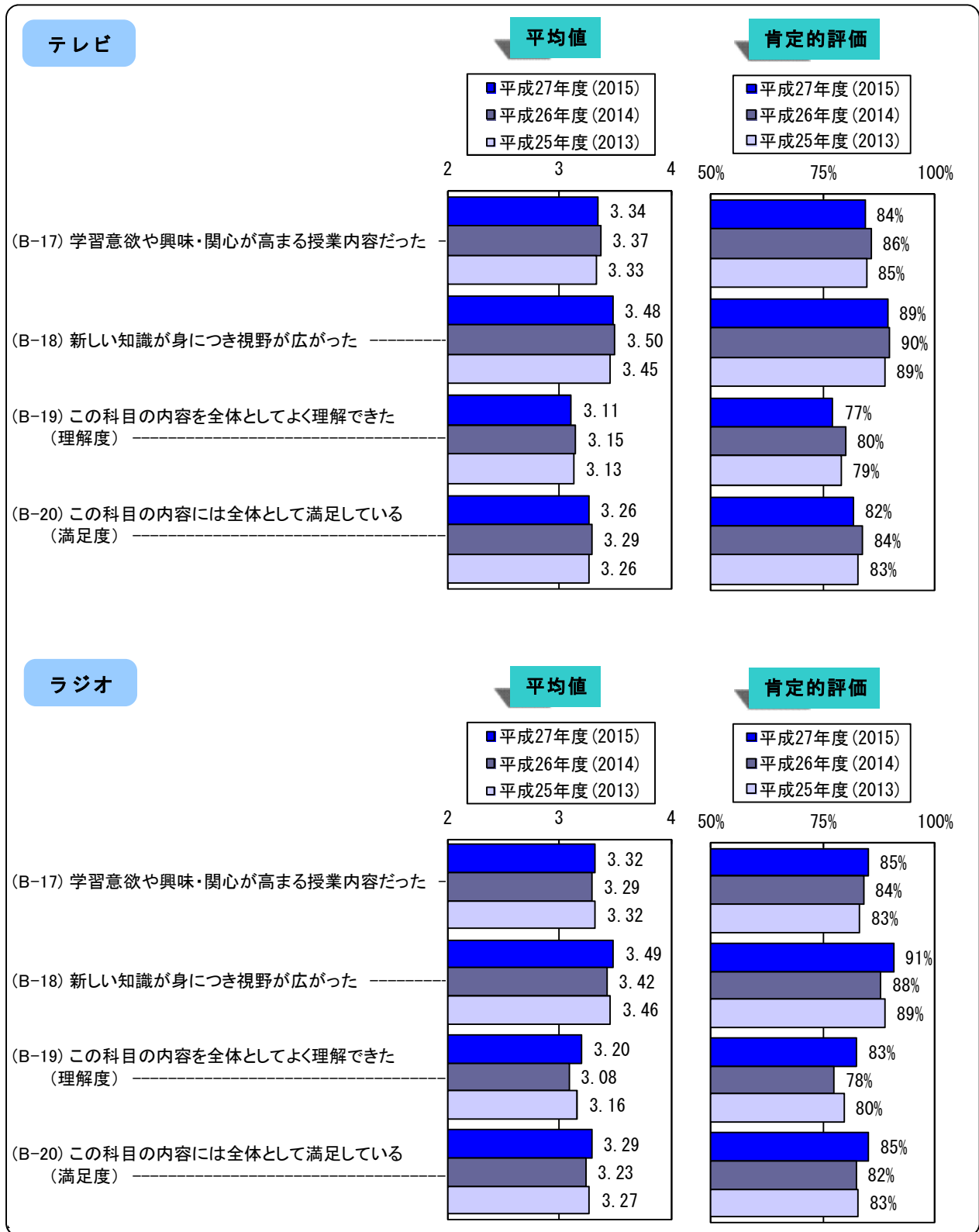
図2-18 【学部】メディア別の全体評価



メディア別の全体評価を時系列で見ると（次頁図2-19）、テレビ科目ではどの評価においても2014年度より低い数値となっているが、ラジオ科目ではいずれの項目でも2014年度より高い数値となっている。

これらについても、『図2-4【学部】項目平均によるメディア別全体的傾向』（24ページ）を参照されたい。

図 2 - 1 9 【学部】メディア別の全体評価（時系列）



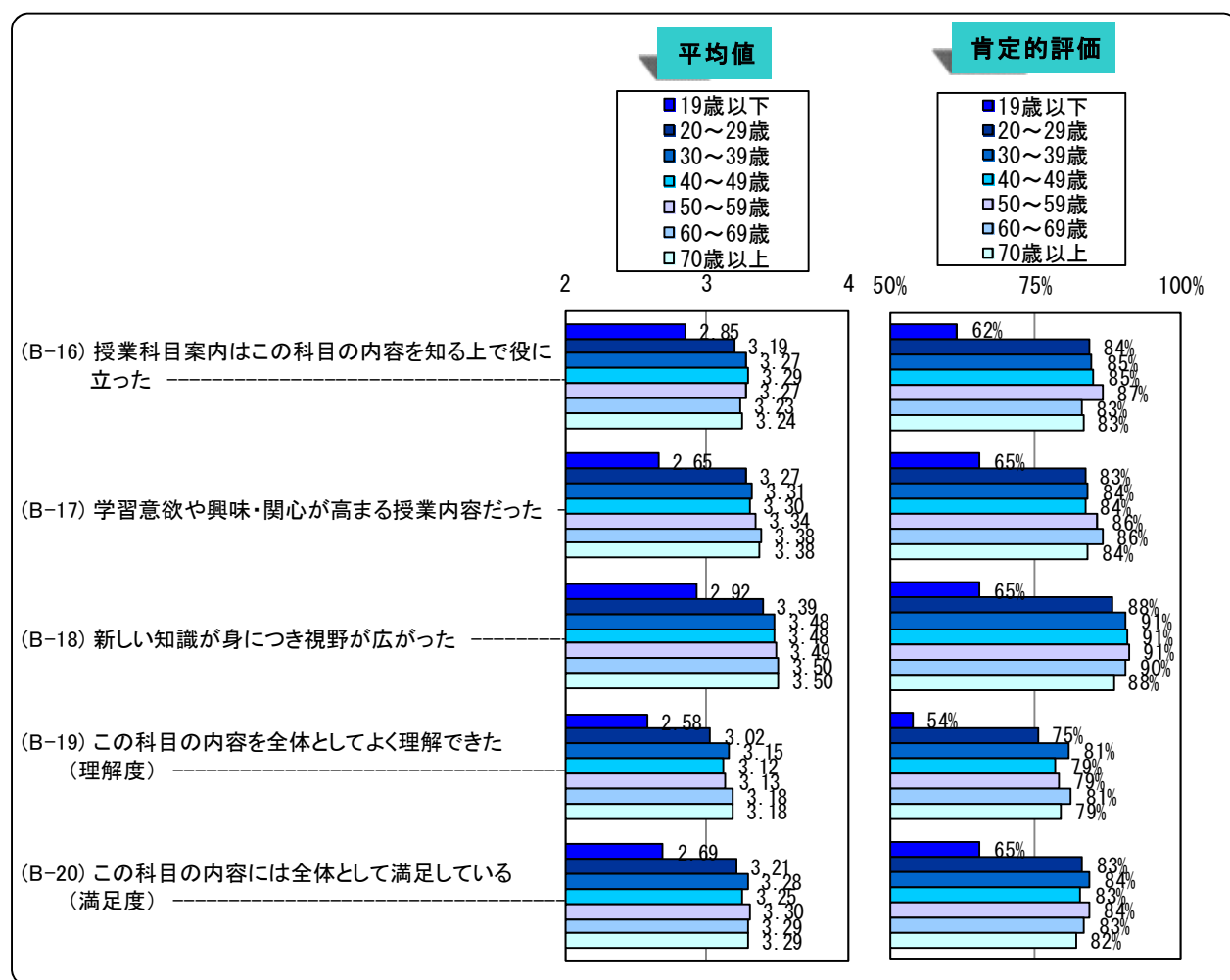


年齢階層別に全体評価を見ると（図2-20）、19歳以下を除けば、どの項目でも評価は高い傾向にある。（B-18）「新しい知識が身につく視野が広がった」は、いずれの年齢階層でも評価が高い傾向にある。

しかし（B-19）「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」は、他の項目に比べて全体が低い傾向にあり、19歳以下ではさらに低い評価となっている。

19歳以下の平均値は全てにおいて3を下回っていることから、19歳以下では肯定的な印象がなく、納得いく学習ができていないことがうかがえる。

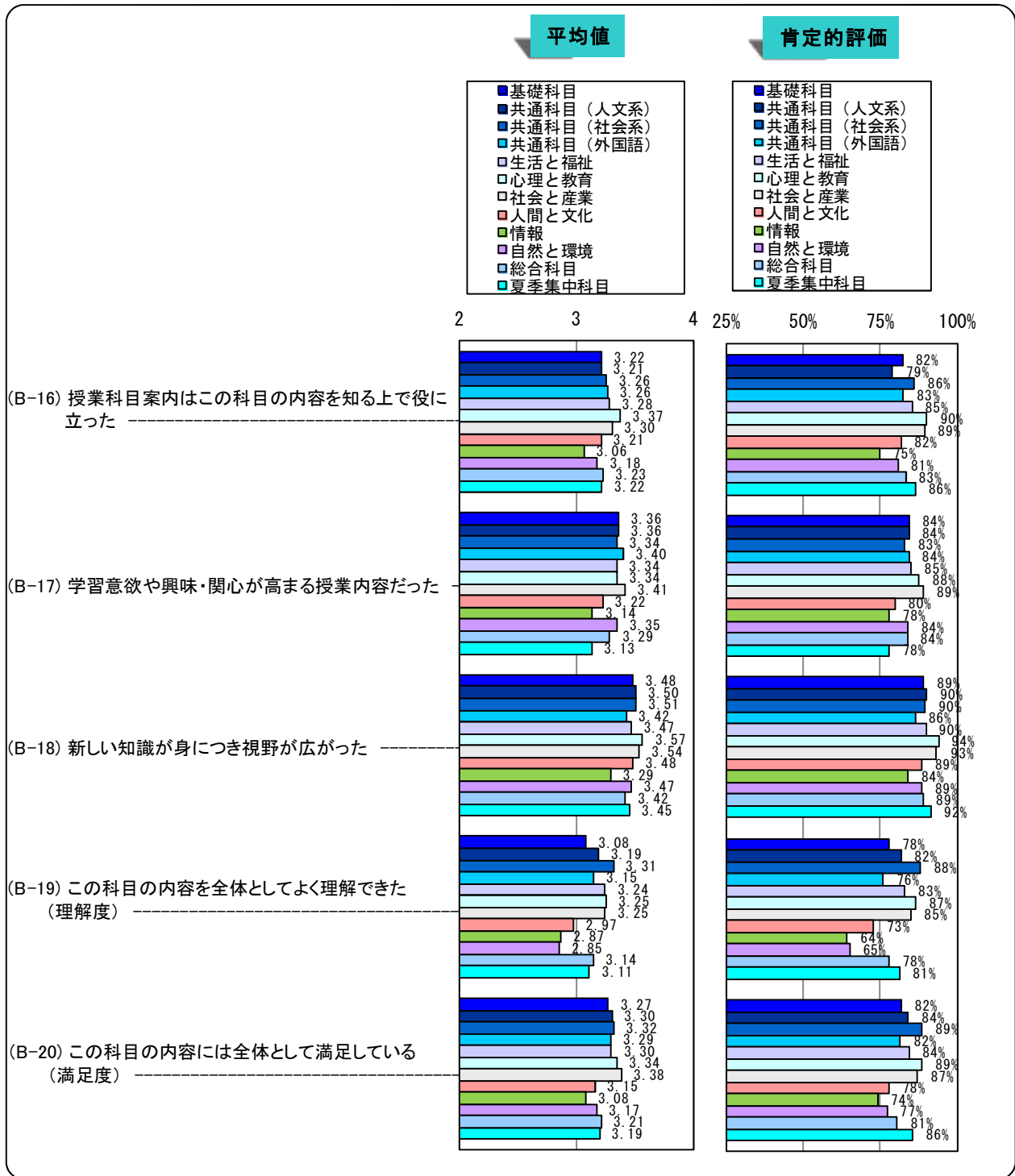
図2-20【学部】年齢階層別の全体評価



所属コース別に全体評価を見ると（次頁図 2 - 2 1）、全体的には肯定的であるが（B-19）「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」において「人間と文化」「情報」「自然と環境」では 3 を下回っているのが特徴的である。このコースにおいては、興味を引く新しい情報は提供できたものの全体的な理解には結びついていない様子がうかがえる。学生の理解をさらに高めるような、講義内容・指導が求められている。

また、「共通科目：社会系」「生活と福祉」「心理と教育」はいずれの項目でも評価が高いことから、現在の水準を維持しつつ、さらに向上を心がけるべきであろう。

図 2 - 2 1 【学部】所属コース別の全体評価

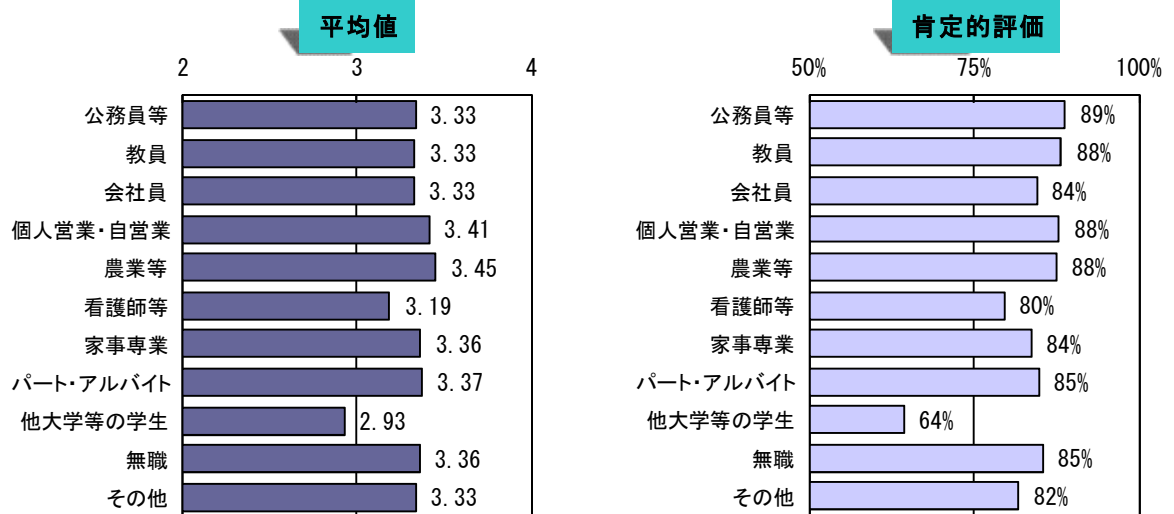


職業別に全体評価を見ると（次頁図 2 - 2 2）、平均値において（B-17）「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」は、「他大学等の学生」が、（B-19）「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」は、「農業等」が、（B-20）「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」は、「他大学等の学生」でわずかではあるが 3 を下回っている。また、全てにおいて「他大学等の学生」からの評価が低く「公務員等」「教員」においては高い評価を得ているのが特徴である。

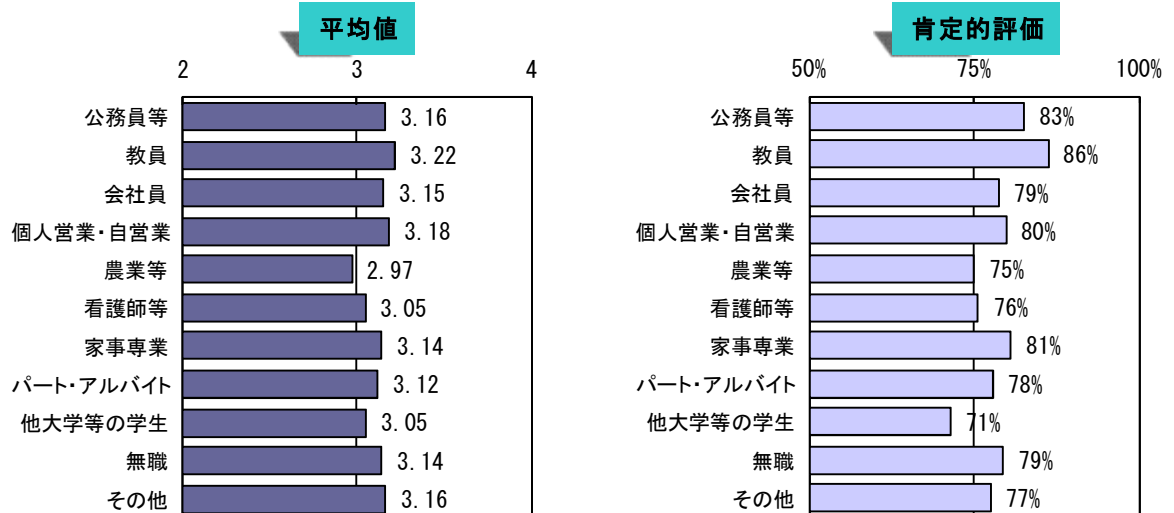
評価の低い職業が絞られているので、その職業に対する対応が効果的な改善につながると思われる。

図 2 - 2 2 【学部】 職業別の全体評価

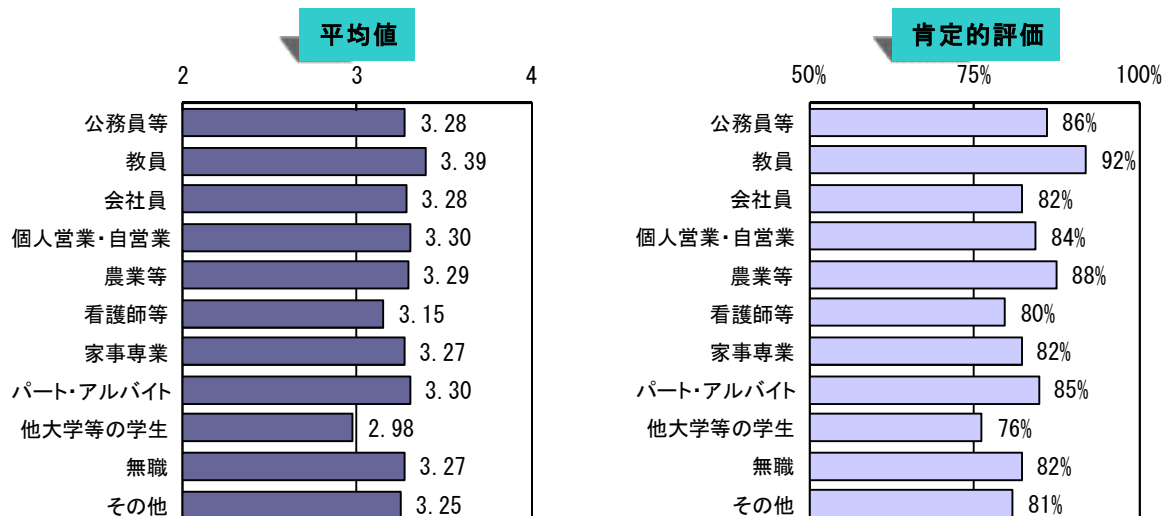
(B-17) 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった



(B-19) この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)



(B-20) この科目の内容には全体として満足している(満足度)

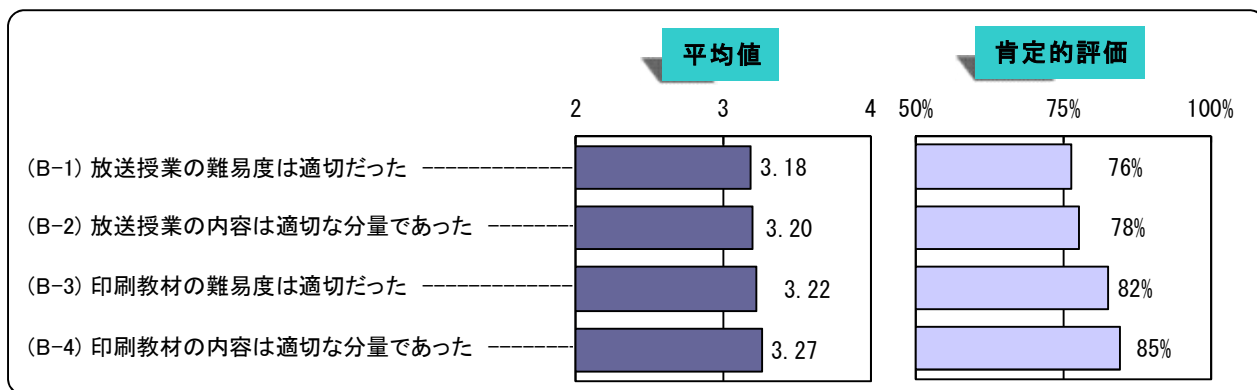


## (2) 授業の難易度・分量

次に授業の難易度・分量について、評価項目ごとに見ていくこととする。

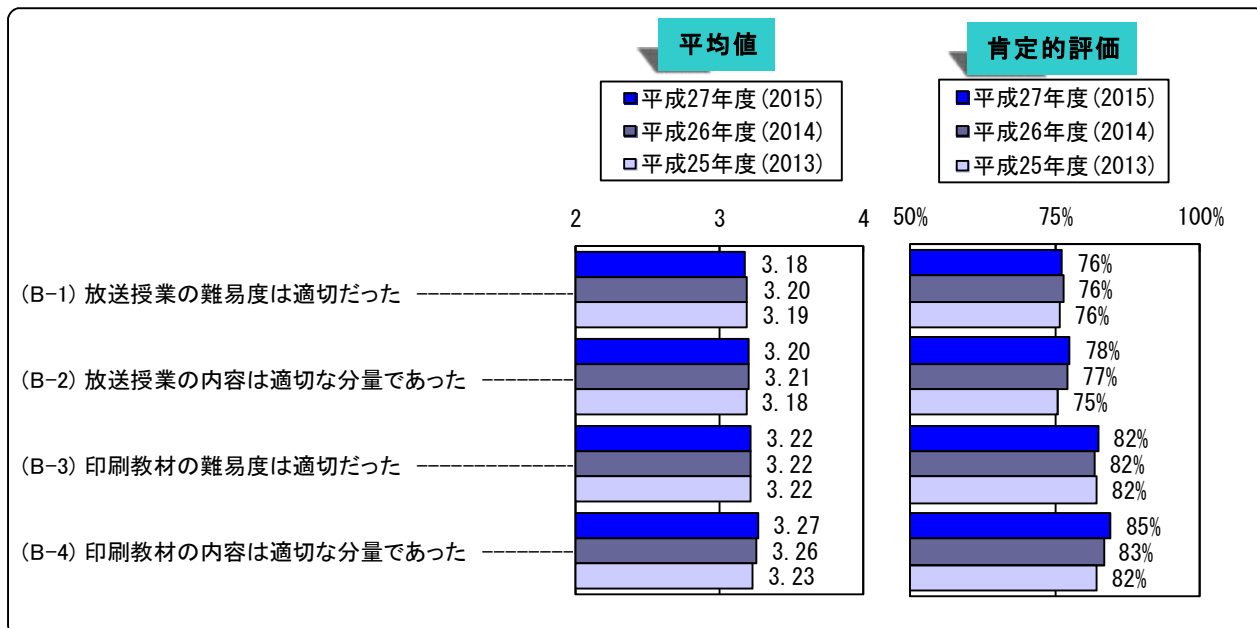
難易度・分量については(図2-23)、平均値で見ると放送授業・印刷教材ともに比較的高い評価となっているが、肯定的評価の割合で比較すると放送授業よりも印刷教材についての評価が高い。放送教材については特に難易度・分量ともに改善の必要性が大きい。

図2-23 【学部】回答者全体の授業難易度・分量の評価



授業の難易度・分量を開設年度で比較すると(図2-24)、分量においては平均値・肯定的評価の両方で放送授業・印刷教材ともに2014年度よりほぼ同じか、若干高い評価となっている。難易度に関しては放送授業・印刷教材ともに2014年度とほぼ同じ水準を保っている。

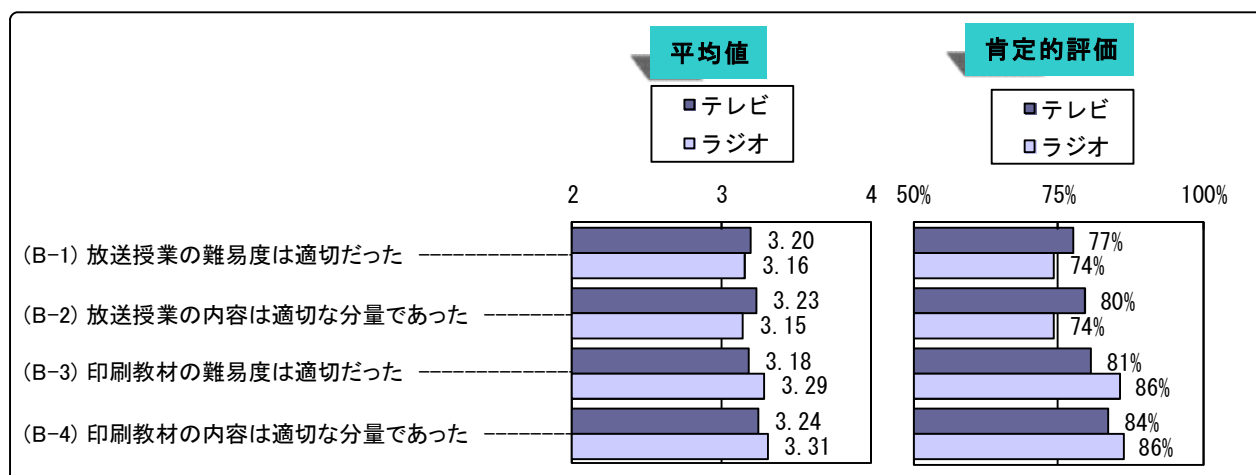
図2-24 【学部】回答者全体の授業難易度・分量の評価(開設年度比較)



メディア別に授業の難易度・分量を見ると（図2-25）、放送授業の項目でテレビ科目がラジオ科目を上回っている。特に肯定的評価の割合においてはその傾向が顕著である。ラジオ科目については、難易度・分量ともに工夫を求められていることがうかがえる。

また、印刷教材の項目では、反対に難易度・分量ともにラジオ科目の方がやや高い。音声のみで受講するので、反対に印刷教材（活字）に集中するということがあるのかもしれない。

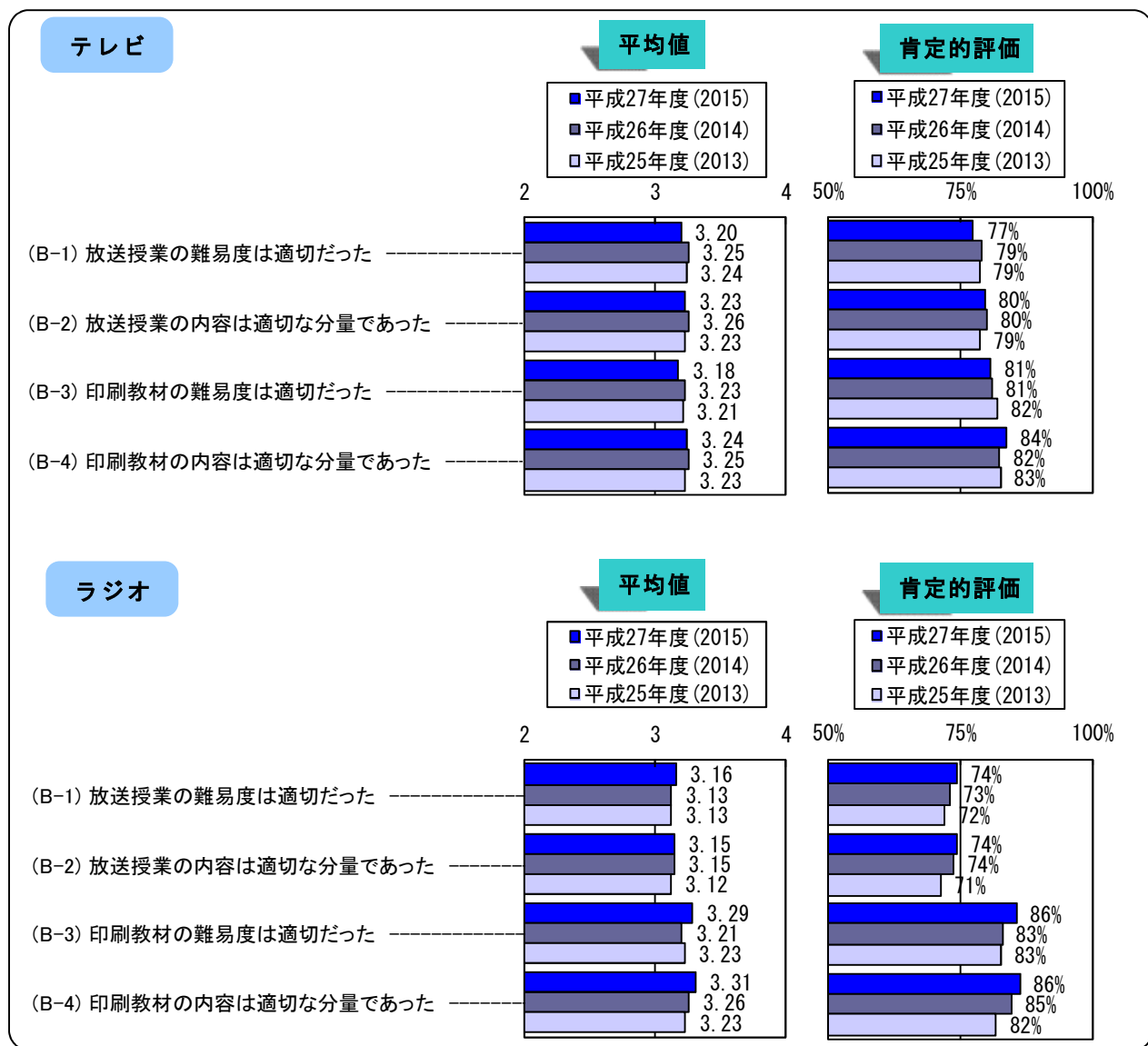
図2-25 【学部】メディア別の授業難易度・分量の評価



メディア別の授業の難易度・分量を開設年度で比較すると（図2-26）、2014年度に比べてテレビ科目は全ての項目で平均値がやや下がっている。肯定的評価は印刷教材の方が上がっており、放送授業はやや下がっている。

ラジオ科目はほぼ全ての項目で2014年度より、評価がやや上がっているが、肯定的評価全体においては放送授業の割合がかなり低いため、放送授業そのものにさらなる改善が必要と考えるべきである。

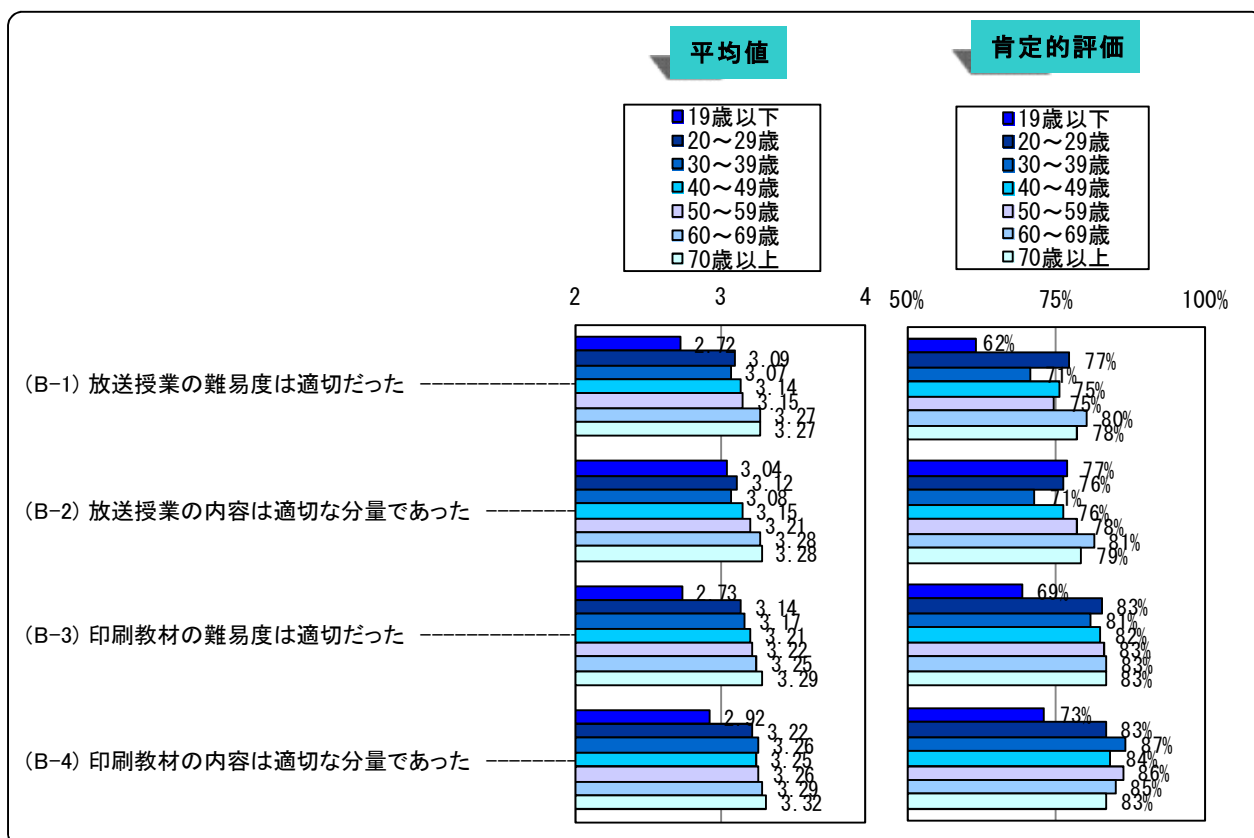
図2-26 【学部】メディア別の授業難易度・分量の評価（開設年度比較）





年齢階層別に授業の難易度・分量を見ると（図2-27）、(B-1)「放送授業の難易度は適切だった」、(B-3)「印刷教材の難易度は適切だった」、(B-4)「印刷教材の内容は適切な分量であった」の項目で19歳以下の評価が低いですが、ここからは、この年代にとって「物足りないのか、難しすぎるのか」は推し量ることができない。しかし、印刷教材の評価は全体として高い傾向にある。

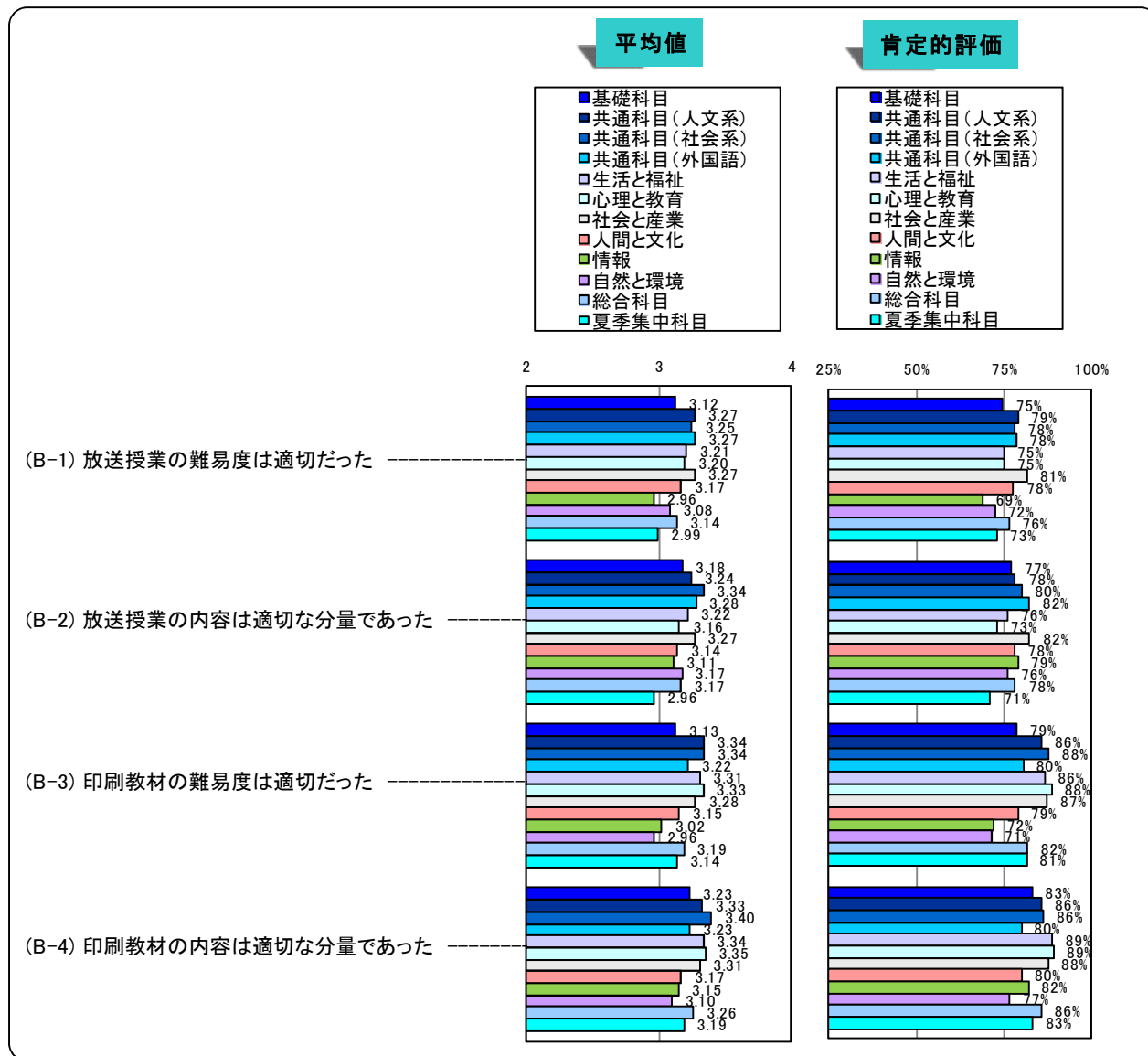
図2-27【学部】年齢階層別の授業難易度・分量の評価



所属コース別に授業の難易度・分量を見ると（図2-28）、放送授業、印刷教材ともに、難易度と分量は、「社会と産業」で評価が高くなっている。

一方、放送授業に対する「夏季集中科目」の評価はやや低い。これは短期集中という「時間的制約」が影響していることも考えられる。

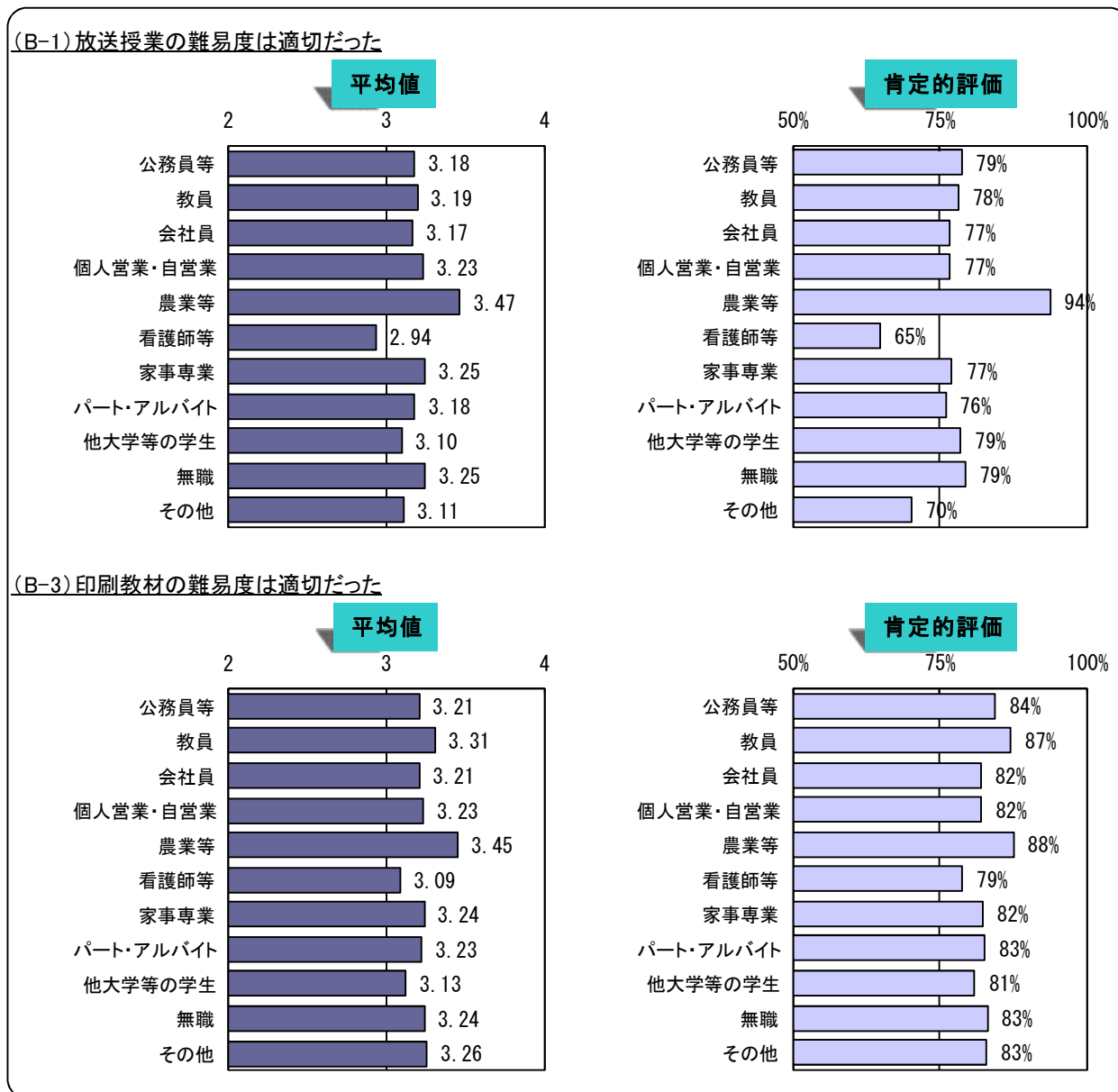
図2-28 【学部】所属コース別の授業難易度・分量の評価



職業別に授業の難易度を見ると（図2-29）、放送授業の難易度は、「看護師等」で評価が低く、「農業等」で評価が高くなっているのが際立つ。取組姿勢の分析結果に表れたように、「看護師等」は時間的制約がある職業であり、そもそも放送授業を視聴することが難しいことや現場での実践と授業内容との関係性が関連していると思われる。

授業の難易度は、科目そのものの難易度、授業方法、そして学生個人個人の取組姿勢や学習意欲などが互いに影響し合い、評価がされていると考えられる。

図2-29 【学部】職業別の授業難易度の評価

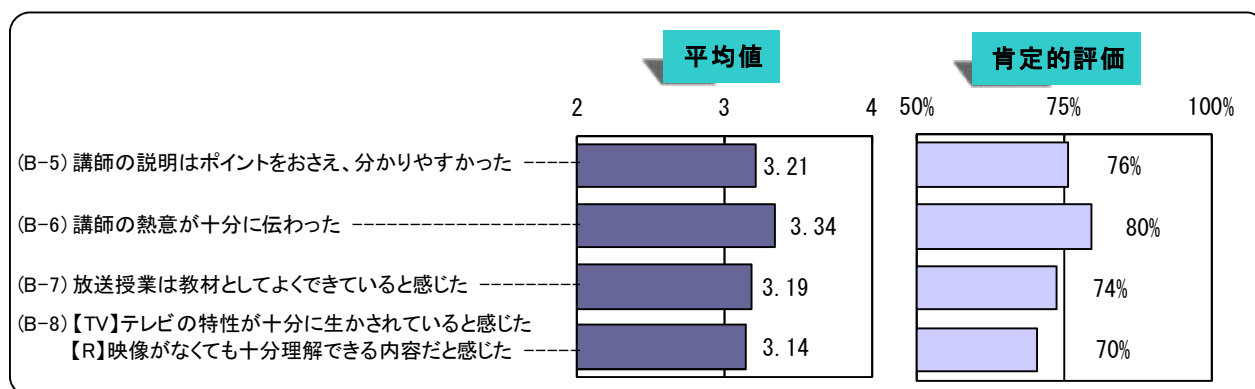


### (3) 放送授業

ここからは放送授業について、評価項目ごとに見ていくことにする。

放送授業に関する評価項目で最も評価が高いのは（図2-30）、(B-6)「講師の熱意が十分に伝わった」であり、平均値 3.34、肯定的評価 80%となっている。しかし、放送授業の総合評価でもある (B-7)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」は、平均値 3.19、肯定的評価 74%とやや低めである。なお、(B-8)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた／【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」も、平均値 3.14、肯定的評価 70%とやや低い水準である。放送上の構成や演出にも一工夫が必要である。

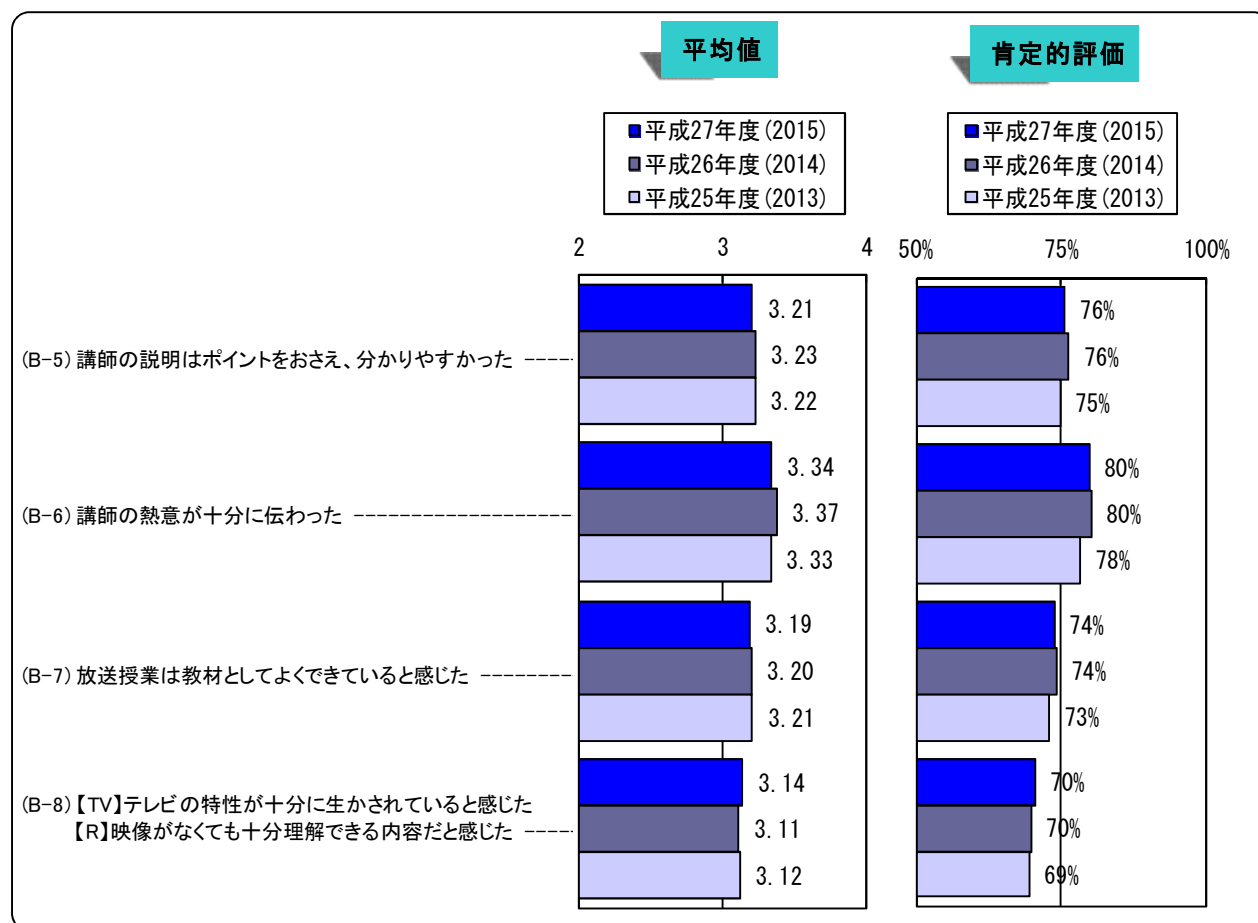
図2-30 【学部】回答者全体の放送授業の評価



放送授業の評価の平均を時系列で見ると（図2-31）、(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」(B-6)「講師の熱意が十分に伝わった」(B-7)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」の平均値は2014年度より若干低くなっているものの、(B-8)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた／【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」の平均値は2014年度よりやや高くなっている。

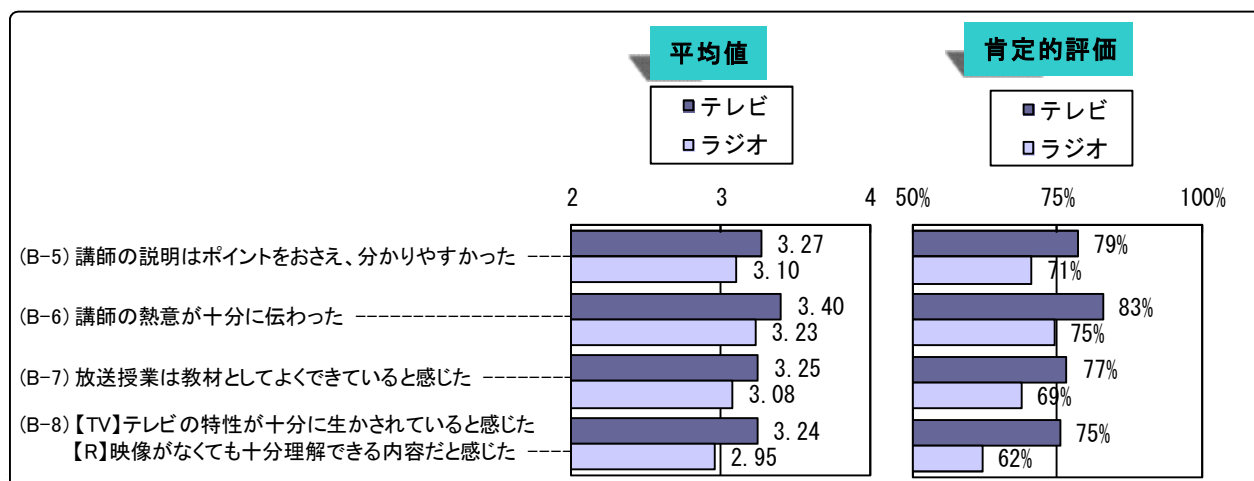
しかし、いずれも低めの水準であり、さらなる改善が望まれる。

図2-31 【学部】回答者全体の放送授業の評価（時系列）



メディア別に放送授業の肯定的評価を見ると（図2-32）、いずれの項目もテレビ科目がラジオ科目を上回っている。

図2-32 【学部】メディア別の放送授業の評価

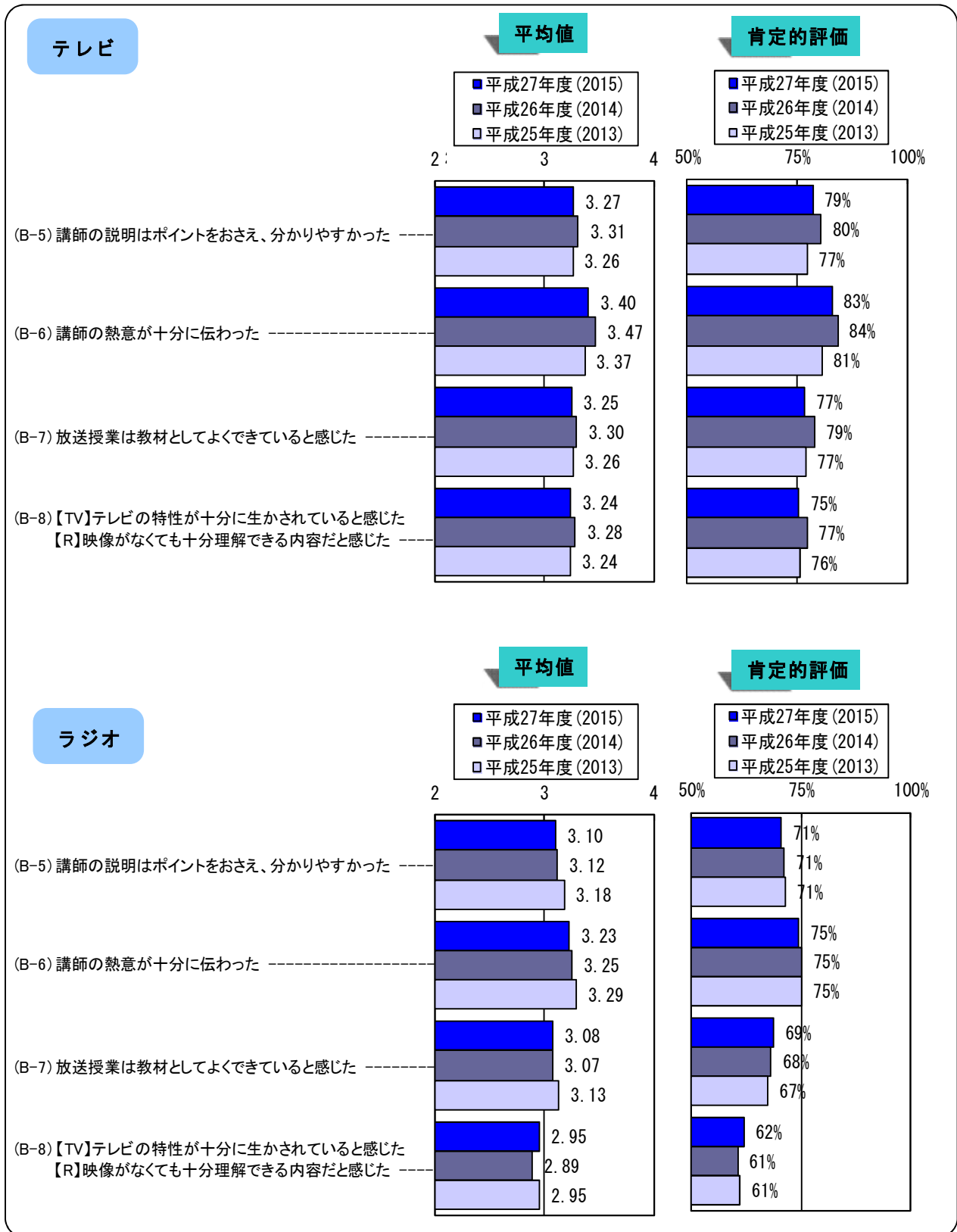


また、メディア別の放送授業の評価を時系列で見ると（次頁図2-33）、テレビ科目では、いずれの項目も2014年度に比べ、低い評価となっている。

ラジオ科目においては、(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」(B-6)「講師の熱意が十分に伝わった」の平均値は2014年度に比べ低くなっているが、(B-7)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」(B-8)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた／【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」の平均値・肯定的評価はともにやや高くなっている。

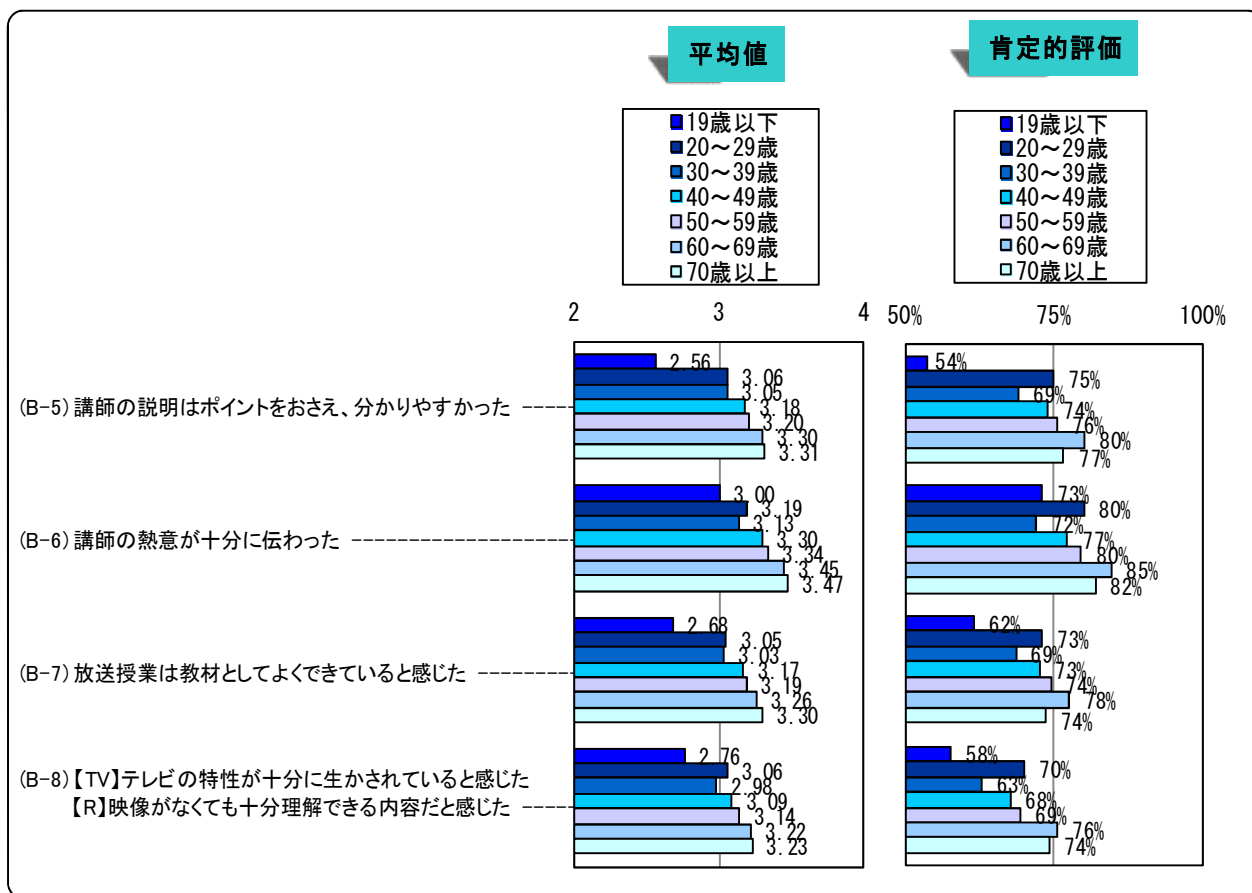
放送授業そのものは評価されても、講師によって評価にばらつきが生じた結果と受け取れる。

図 2 - 3 3 【学部】メディア別の放送授業の評価（時系列）



年齢階層別に放送授業の評価を見ると（図2-34）、いずれの項目も、60歳代、70歳以上は評価が高く、19歳以下の評価は低い水準である。

図2-34 【学部】年齢階層別の放送授業の評価

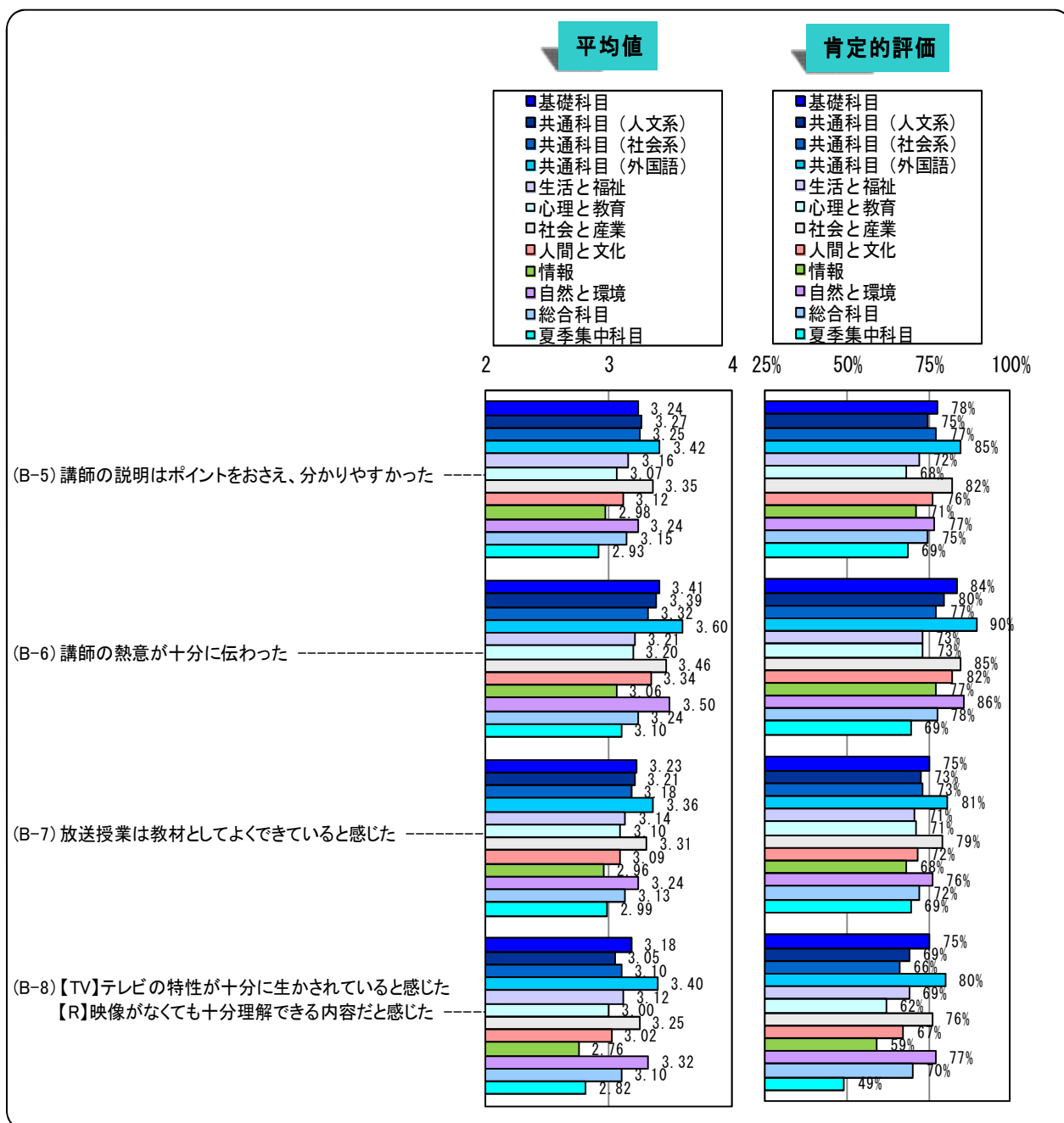




所属コース別に放送授業の評価を見ると（図2-35）、すべての項目において「共通科目：外国語」の評価が高く、それ以外の科目では、「社会と産業」「自然と環境」の評価がいずれの項目でも高い水準にある。

一方、「夏季集中科目」「情報」はいずれの項目でも評価は低い水準にとどまった。

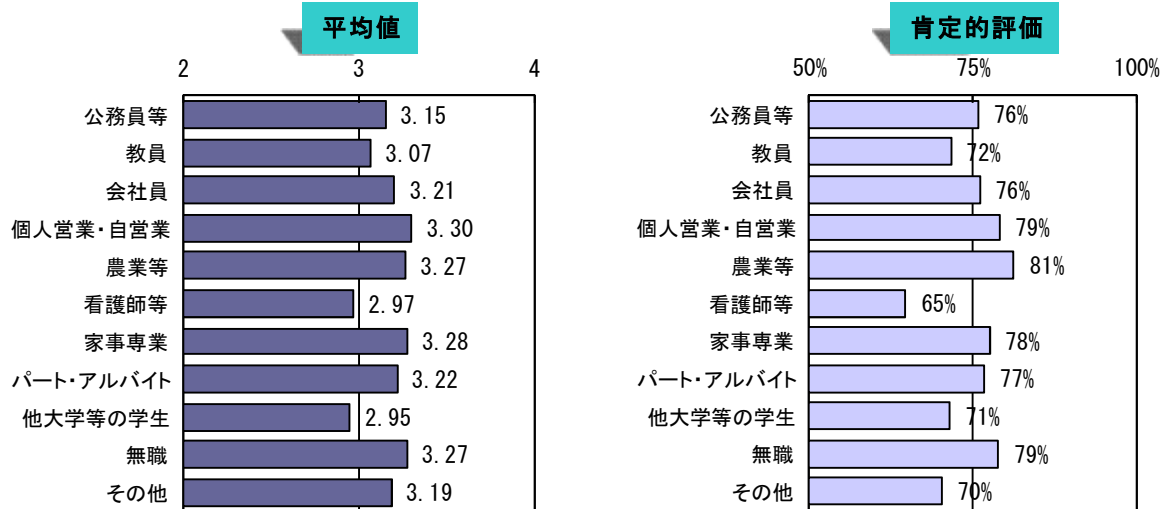
図2-35 【学部】所属コース別の放送授業の評価



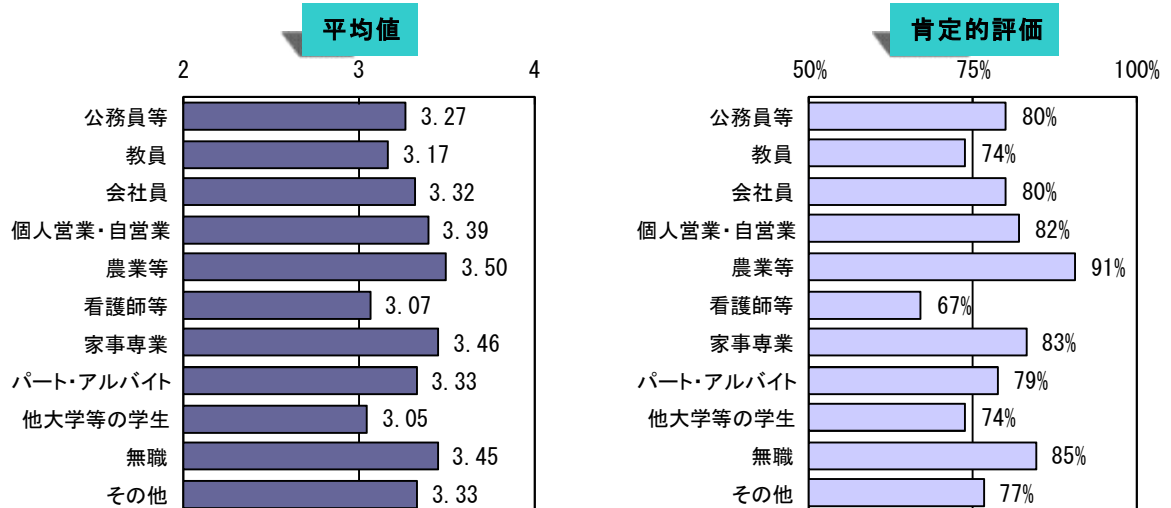
職業別に放送授業の評価を見ると（次頁図 2-36）、全体的に「看護師等」の評価が低く、不規則な職業のため放送時間に合わせての視聴が難しい状況や、彼らの講義内容に対する要求の高さがうかがえる。一方、「農業等」の評価はいずれの項目も評価が高い。

図 2 - 3 6 【学部】職業別の放送授業の評価

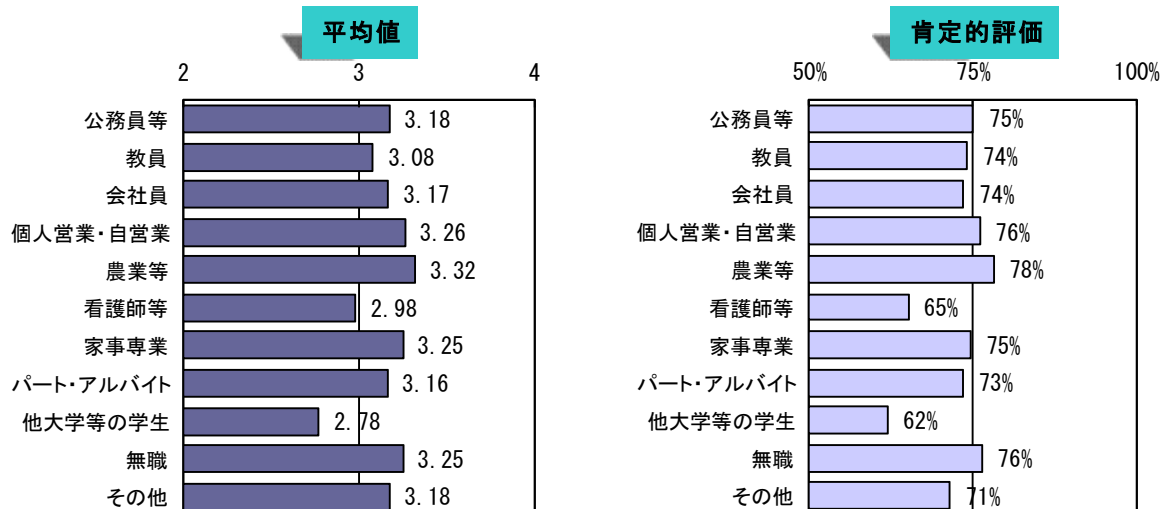
(B-5) 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった



(B-6) 講師の熱意が十分に伝わった



(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた

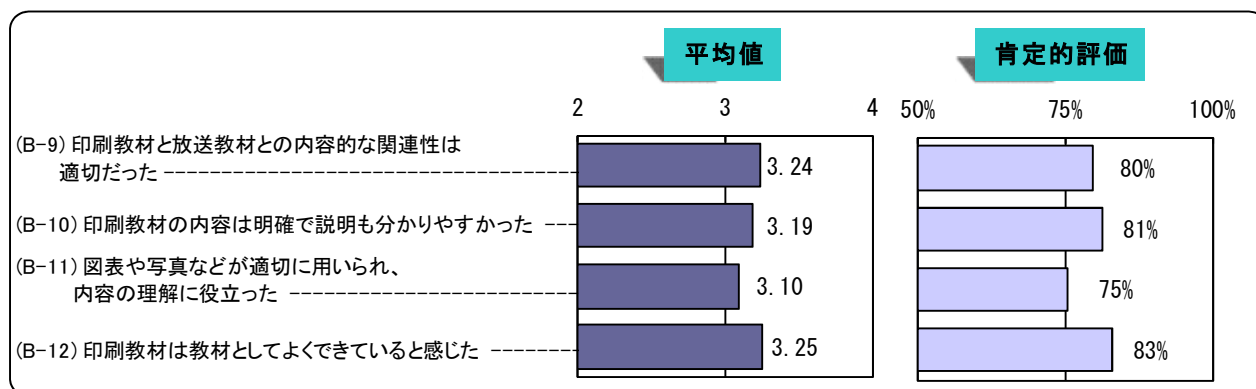


#### (4) 印刷教材

ここからは印刷教材について、評価項目ごとに見ていく。

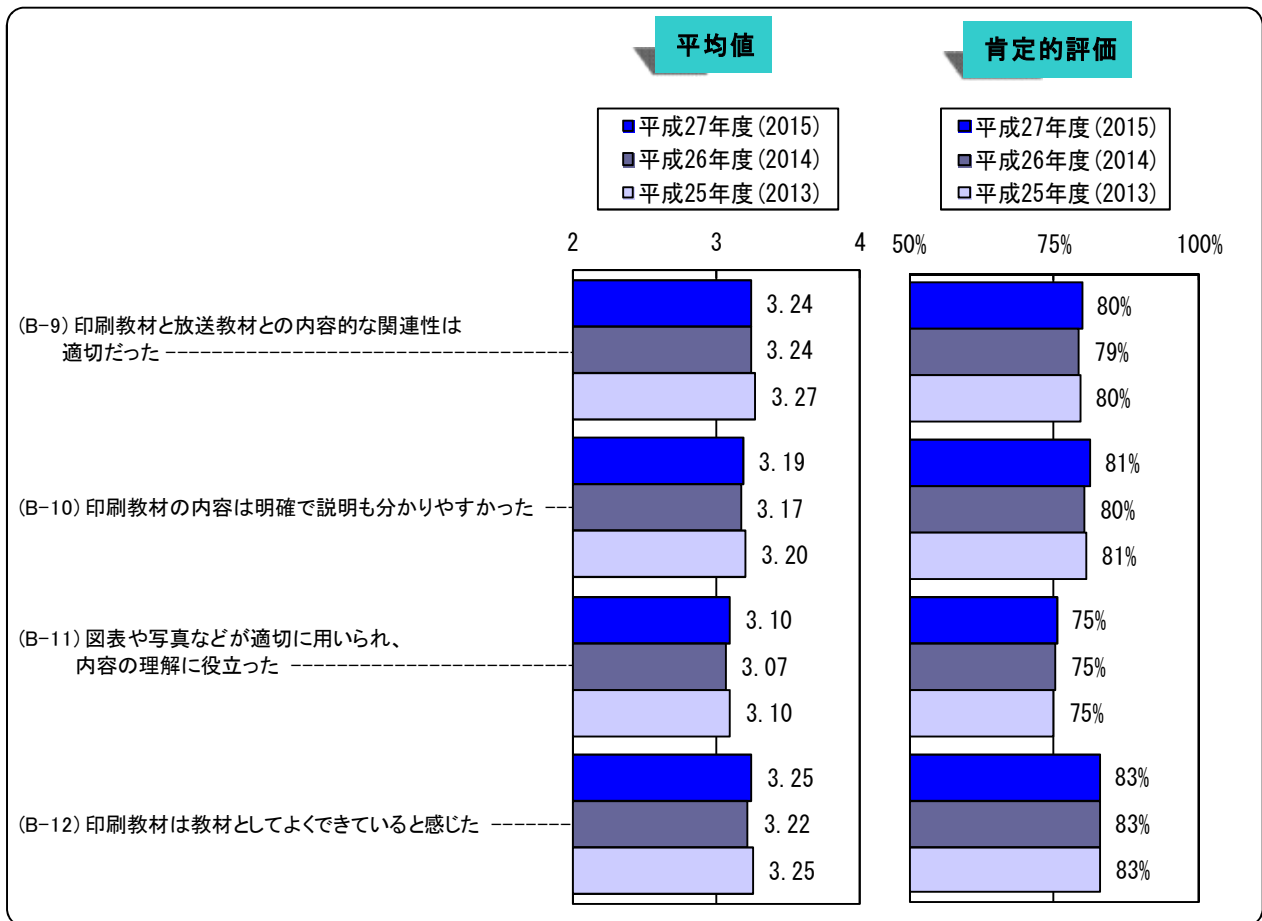
印刷教材の評価項目では(図2-37)、(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」が平均値 3.25、肯定的評価 83%と高い評価のため、印刷教材として総合的に高評価といえる。また(B-9)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」と(B-10)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」も高い評価であるが、(B-11)「図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った」は他の項目に比べるとやや評価が低い。自由記述でも図表や写真・参考文献・用語解説などに対する改善要望が見られたので、それらを参考にしたより理解しやすい教材に期待している様子が見えがえる。

図2-37【学部】回答者全体の印刷教材の評価



印刷教材の評価を時系列で見ると(次頁図2-38)、いずれの項目においても2013年度とほぼ同じか、やや低い。

図 2 - 3 8 【学部】 回答者全体の印刷教材の評価（時系列）

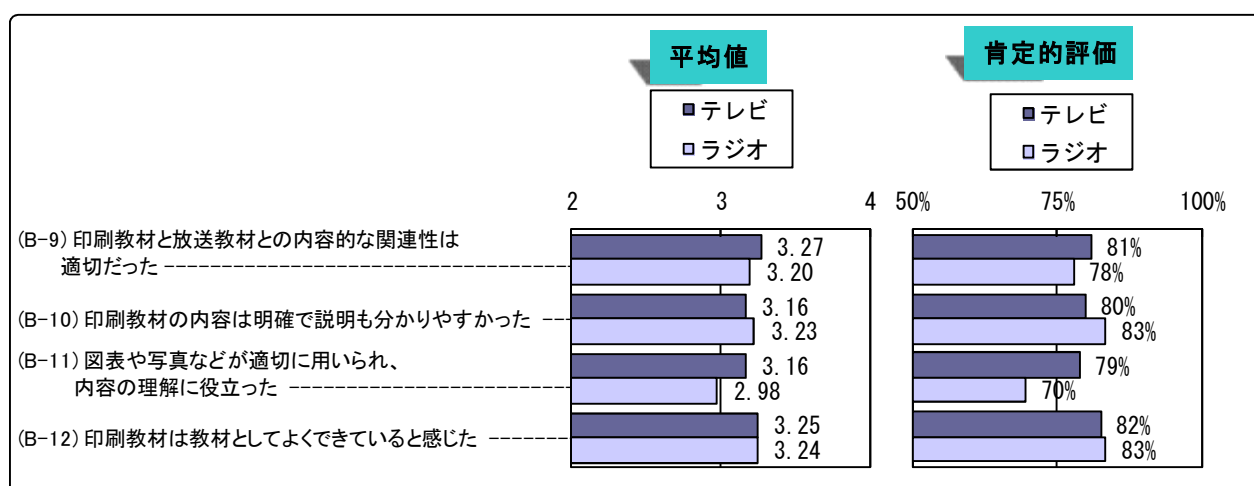


メディア別に印刷教材の評価を見ると（図2-39）、前年度まではテレビ科目のほうがラジオ科目よりも評価が高い項目が多かったが、今回は肯定的評価の割合においては（B-10）「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」と B-12「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」の項目では、テレビ科目の評価よりラジオ科目の評価が高くなっている。

（B-9）「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」（B-11）「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」においてはテレビ科目とラジオ科目の評価の差はまだ大きいですが、ラジオ科目の印刷教材の改善は全体としてはわずかながら進んでいるということがうかがえる。

テレビ科目の評価が下がったことに関しては、綿密な分析と対策が必要となろう。

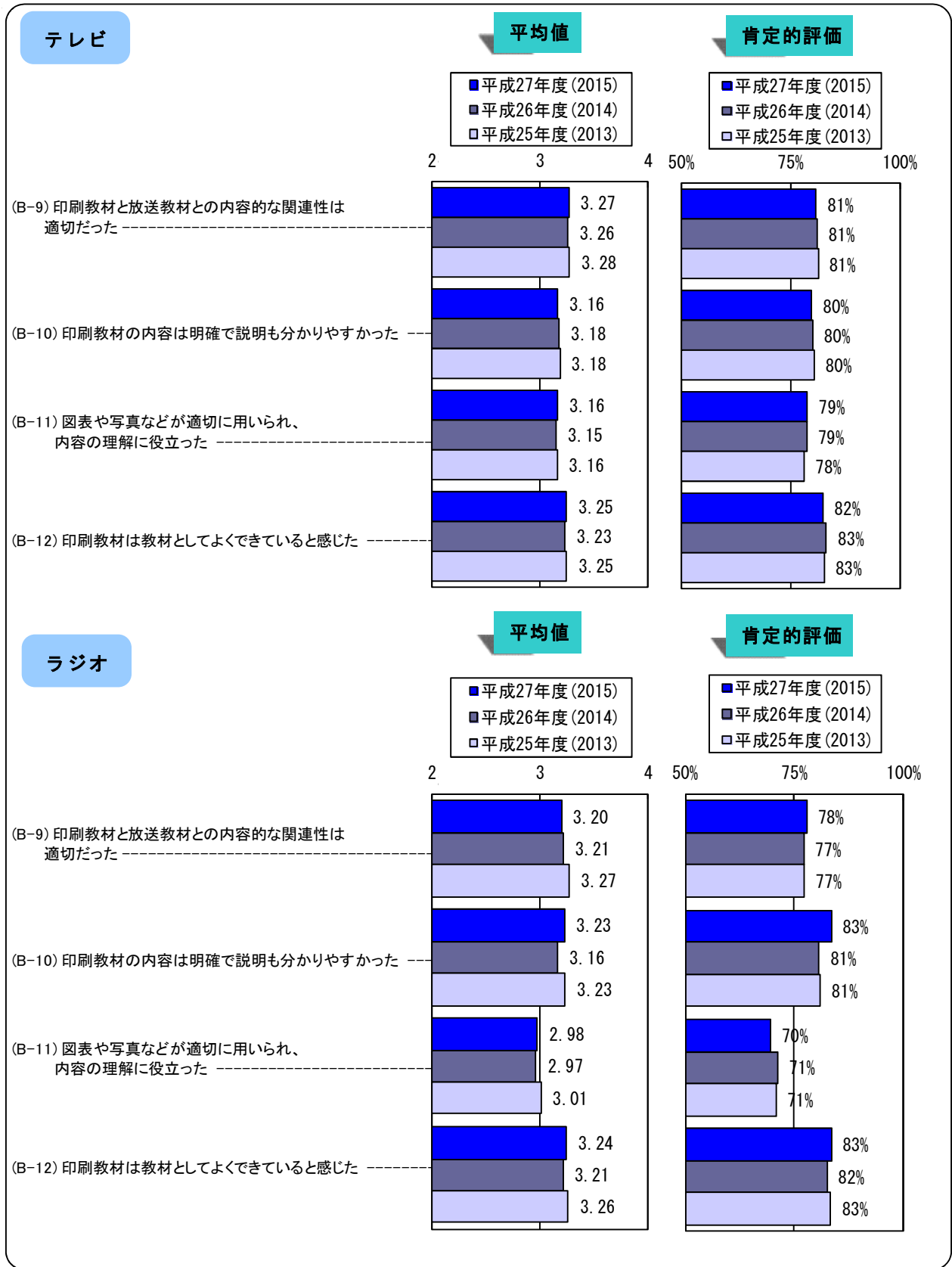
図2-39 【学部】メディア別の印刷教材の評価



メディア別の印刷教材の結果を時系列で見ると（次頁図2-40）、テレビ科目の肯定的評価はいずれの項目でも横ばいかわずかに低くなっているが、平均値では、（B-10）「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」の項目以外の3項目で前年度を上回っている。ラジオ項目では平均値では（B-9）「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」以外の3項目で前年の評価を上回っているほか、肯定的評価においても、（B-11）「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」の項目以外の3項目で前年を上回っている。

印刷教材の改善の効果は出始めており、特にラジオ科目においてそれが顕著であると言えるが、映像-音と印刷物の相関性も影響していると考えられる。テレビでカラーの図表を見たり、動画を見ると印刷物の写真は物足りなくなるであろうし、反対にラジオでは想像力が高まり、印刷された図表がイメージとして拡大されることも考えられる。実際に自由記述では、それをうかがわせる書き込みも散見された。

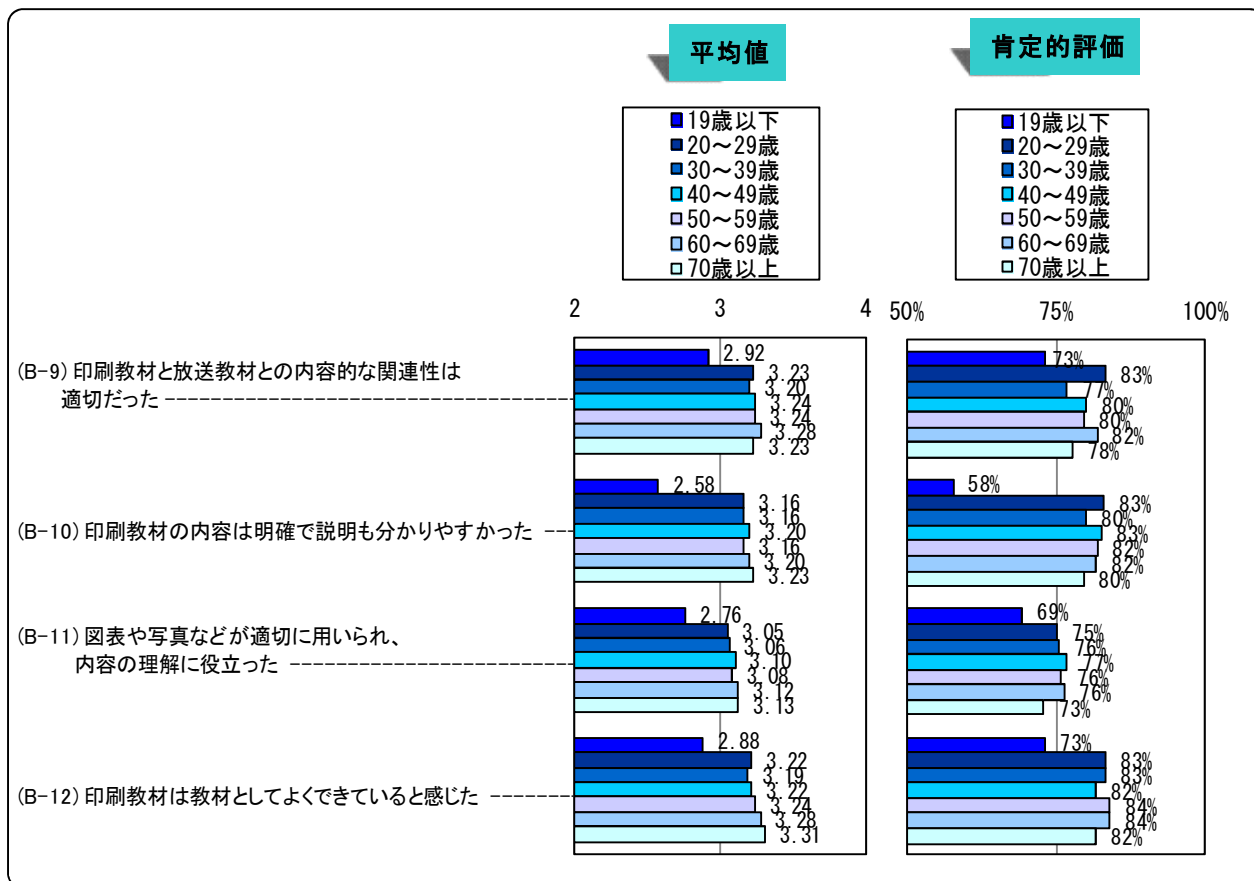
図 2-40 【学部】メディア別の印刷教材の評価（時系列）



年齢階層別に印刷教材の評価を見ると（図2-41）わかるように、全体として高い値となっている。しかし、全ての評価項目において、平均値・肯定的評価ともに19才以下の年代の評価が低い傾向である。読書量や社会経験などが反映されるのか、20歳代以上の年齢層と19歳代以下の年齢層との間に理解度においてギャップがある。

しかし、先述したが、19歳以下が「物足りない」と考えているのか、「難しすぎる」と感じているのかは、ここからは読み取れない。

図2-41 【学部】年齢階層別の印刷教材の評価



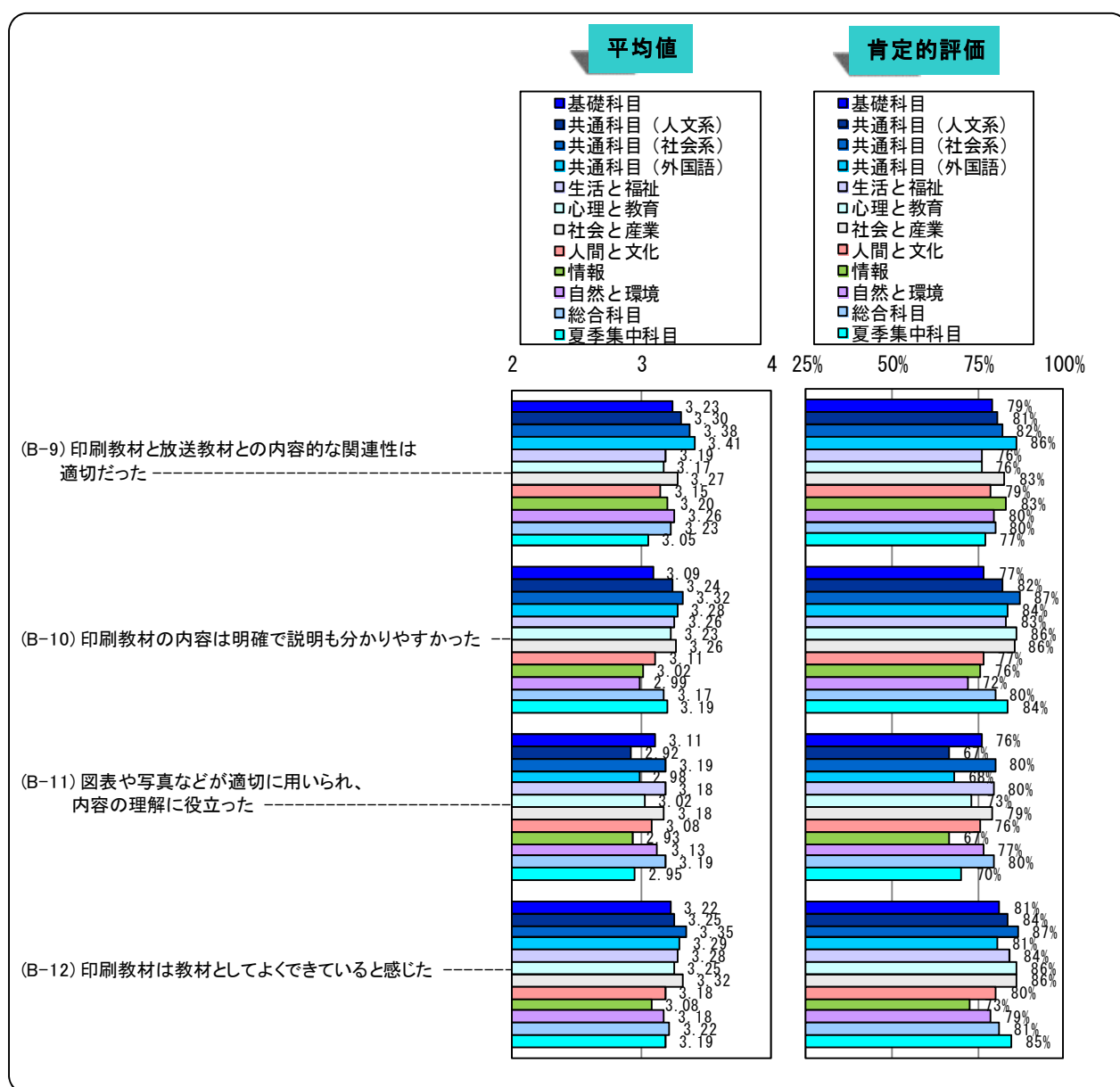


所属コース別に印刷教材の評価を見ると（図2-42）、全体的に共通科目（社会系）が平均値・肯定的評価の割合ともに評価が高い。

一方、「共通科目：外国語」が（B-11）「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」において評価が低いのは、図表や写真をあまり必要とせず学べるような科目内容だったからではないかと推測される。それでも、評価自体としては分析全体を通して高い方である。

「夏季集中科目」は（B-9）「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」の評価が著しく低く、印刷教材と放送教材の連動制・整合性に改善が必要と感じられる。

図2-42 【学部】所属コース別の印刷教材の評価

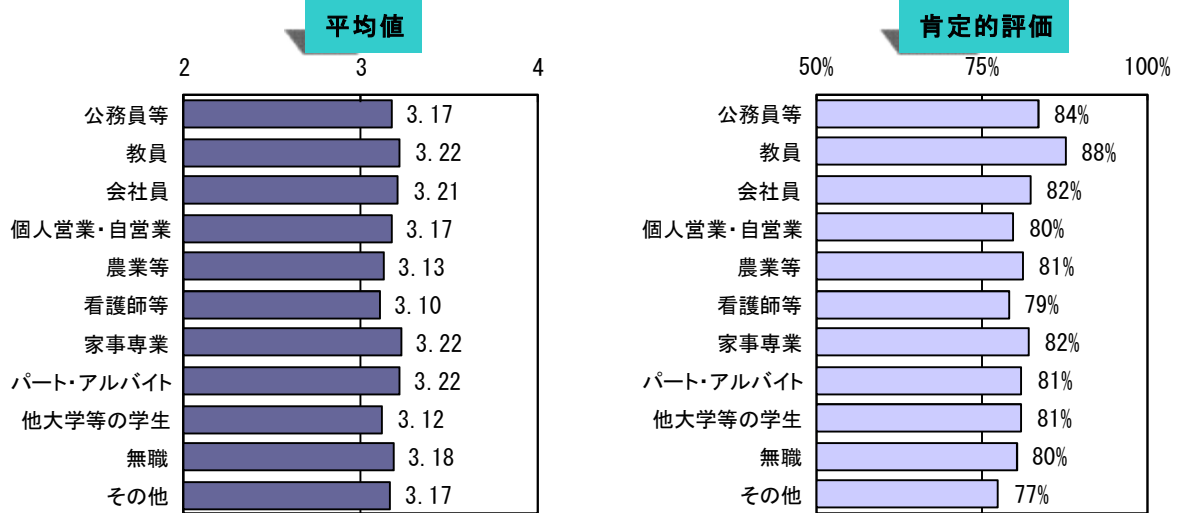


職業別の印刷教材の評価では（次頁図 2 - 4 3）、(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」と (B-11)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」は平均値、肯定的評価ともに「農業等」が高いのに反し、(B-10)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」では「農業等」の肯定的評価はやや低い。

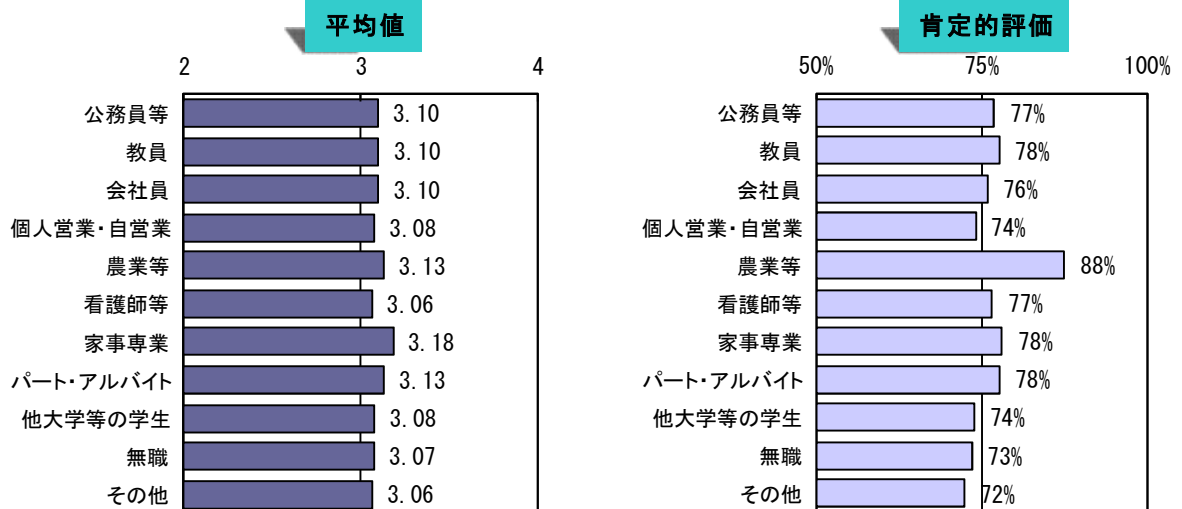
「看護師等」でも (B-10)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」は高いが、(B-11)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」はやや低くなっている。印刷教材に盛り込む資料の改善が必要とされる。

図 2 - 4 3 【学部】職業別の印刷教材の評価

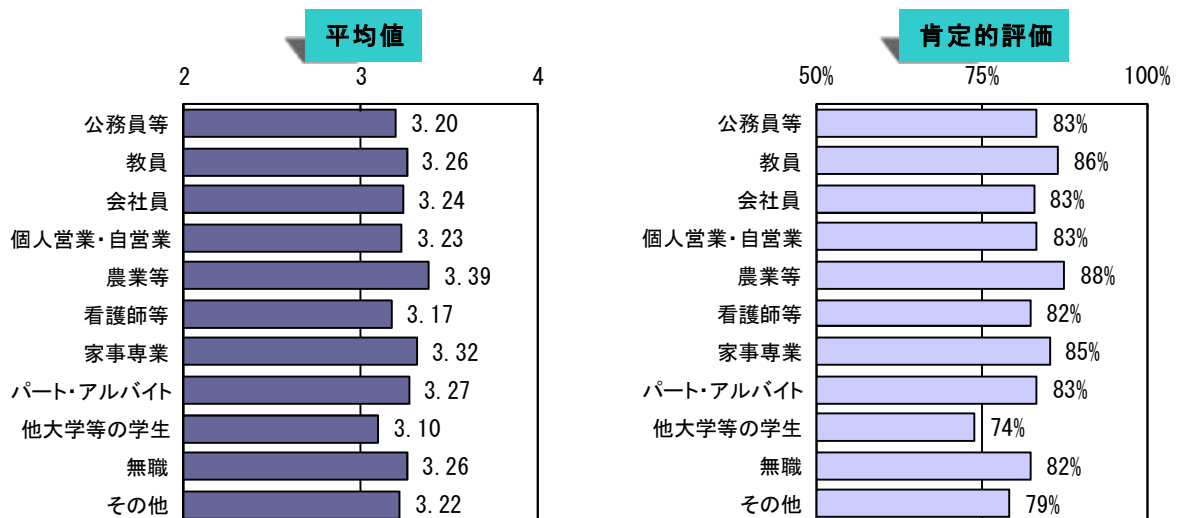
(B-10) 印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった



(B-11) 図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った



(B-12) 印刷教材は教材としてよくできていると感じた



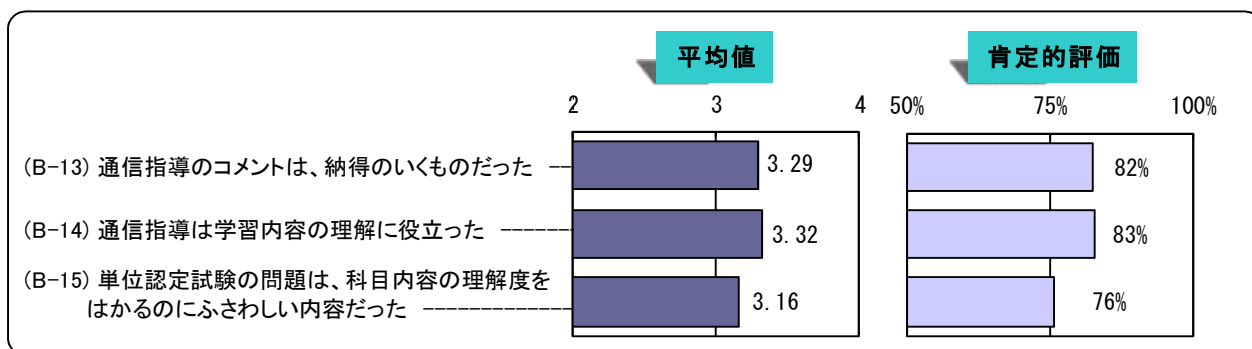
## (5) 通信指導・単位認定試験

最後に通信指導・単位認定試験の評価について、項目ごとに見ていく。

通信指導については(図2-4-4)、(B-13)「通信指導のコメントは、納得のいくものだった」が平均値 3.29、肯定的評価 82%、(B-14)「通信指導は学習内容の理解に役立った」が平均値 3.32、肯定的評価 83%と、いずれも高い評価を得ている。

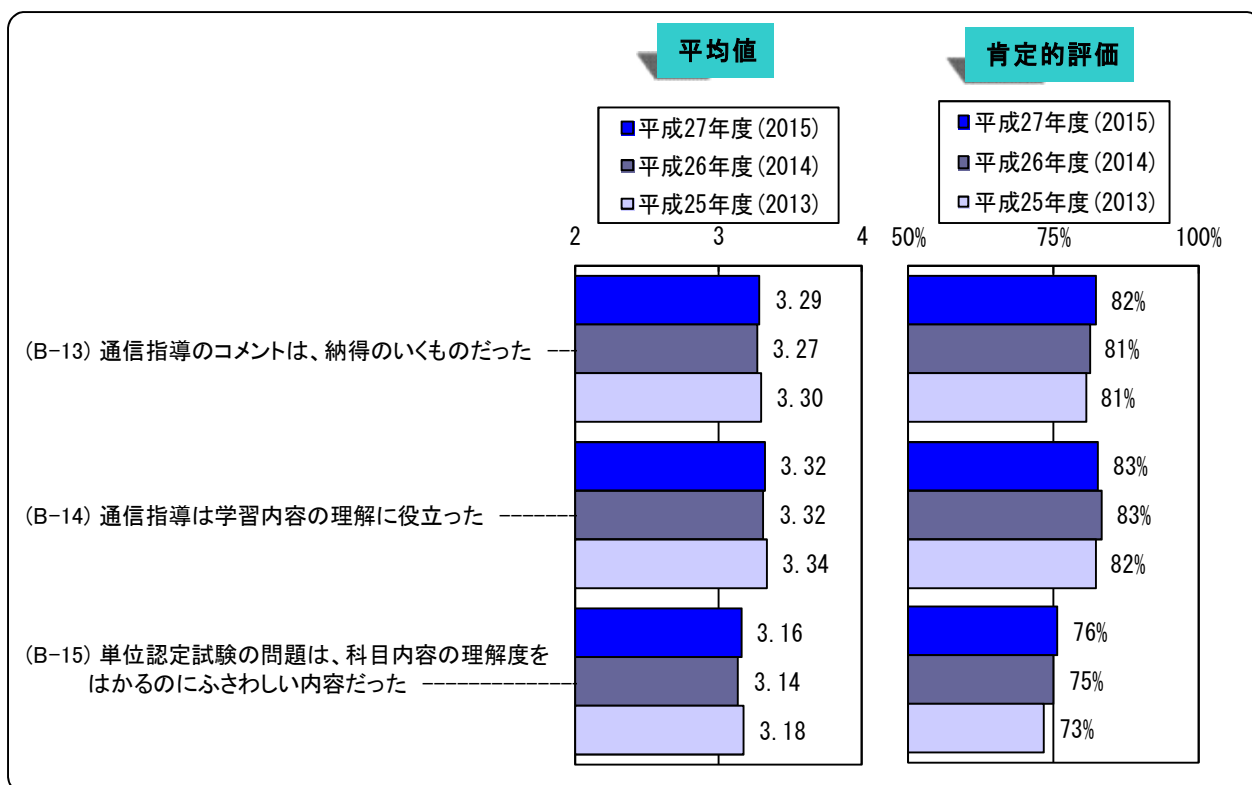
単位認定試験については、(B-15)「単位認定試験の問題は科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった」が平均値 3.16、肯定的評価 76%と比較的评价が低い。

図2-4-4 【学部】回答者全体の通信指導・単位認定試験の評価



通信指導・単位認定試験の評価を時系列で見ると(図2-4-5)、総じて平均値では2013年度よりやや評価が低くなっているが、肯定的評価ではわずかに高くなっている。

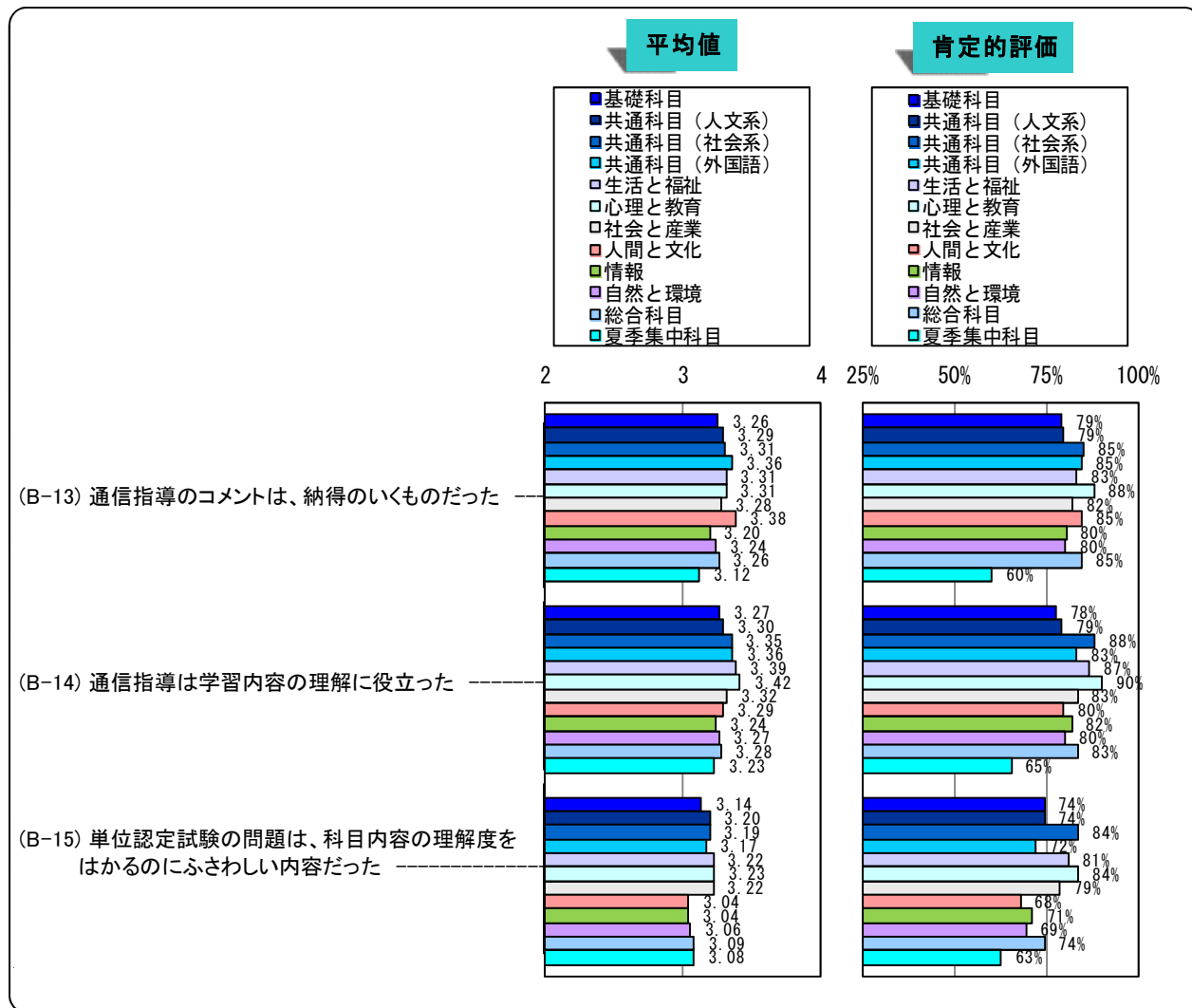
図2-4-5 【学部】回答者全体の通信指導・単位認定試験の評価(時系列)



所属コース別に通信指導・単位認定試験の評価を見ると（図2-46）、全ての項目において「心理と教育」の評価が高い。

一方、全ての項目において「夏季集中科目」の評価は相対的に低い。自由記述などの内容を精査し、原因を読み取り改善すべきであろう。

図2-46 【学部】所属コース別の通信指導・単位認定試験の評価



単位認定試験の評価が低いことに関しては、放送授業との関連が考えられる。自由記述をみると、「放送授業ではやったようだが、印刷教材に書いていなかったことが、試験に出た。」という内容の記述が散見された。「放送教材と印刷教材の両方で学習した」学生が58%であったことを考えると、放送教材と印刷教材の連動性や、放送授業への呼び込みに改善が求められる。

## Ⅱ－１－４．参考

ここでは評価項目間の相関を見ることによって、より深く授業改善の糸口を探っていくことにする。分析には主にピアソンの単相関係数（以下、相関係数）を用いた。相関係数については巻末の参考資料を参照されたい。

ただし、相関係数による分析では、変数間の共変関係は分かっても、因果関係（つまりどちらが原因となる変数で、どちらが結果かということ）は分からないのが普通である。以下の分析ではそのことを十分留意していただきたい。

この分析では、「いずれの項目を基準に、いずれの項目との相関を見るのか？」ということが分析において重要である。概して、総合的な評価は個別の評価を考慮してなされることを前提として、総合評価を基準にそのような評価となった個別評価はいずれの項目か、という観点から総合評価と個別評価との関係を見ていくことにしよう。

（表２－２）は、放送授業の各評価項目と（A-2）「放送授業を十分に視聴した」（放送授業への取組姿勢）を元にした放送授業の各項目との相関の分析と、（B-7）「放送授業は教材としてよくできていると感じた」（放送授業の総合評価）を元にした放送授業の各項目との相関の分析を並べたものである。

表 2 - 2 【学部】放送授業と各項目との単相関係数

	(A-2) 放送授業を十分に視聴した	(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた
(A-2) 放送授業を十分に視聴した	1.000	0.407
(B-1) 放送授業の難易度は適切だった	0.411	0.610
(B-2) 放送授業の内容は適切な分量であった	0.426	0.612
(B-5) 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	0.422	0.765
(B-6) 講師の熱意が十分に伝わった	0.450	0.719
(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた	0.407	1.000
(B-8) 【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0.408	0.703

これを見ると、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」(放送授業への取組姿勢)と(B-7)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」(放送授業の総合評価)の相関係数は0.407と、相関は見られるものの、弱い相関となっている。つまり放送授業の取組姿勢は放送授業の評価とは、あまり関連性が強くない事を示している。

それに比べ、放送授業の総合評価である(B-7)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」と各項目の相関は軒並み高く、特に(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、(B-6)「講師の熱意が十分に伝わった」(B-8)「【TV】テレビの特性が十分に活かされていると感じた・【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」の相関係数は0.7を越え、極めて強い相関となっている。

次に、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」(印刷教材への取組姿勢)を基準に印刷教材に関する各評価項目との相関係数を求めた結果と、(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」(印刷教材の総合評価)を基準に印刷教材に関する各評価項目との相関係数を求めた結果を並べたものが(表2-3)である。

表2-3 【学部】印刷教材と各項目との単相関係数

	(A-3)印刷教材を熱心に学習した	(B-12)印刷教材は教材としてよくできていると感じた
(A-3)印刷教材を熱心に学習した	1.000	0.318
(B-3)印刷教材の難易度は適切だった	0.322	0.592
(B-4)印刷教材の内容は適切な分量であった	0.329	0.590
(B-9)印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった	0.244	0.573
(B-10)印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	0.316	0.759
(B-11)図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	0.257	0.702
(B-12)印刷教材は教材としてよくできていると感じた	0.318	1.000

これを見ると、やはり取組姿勢と評価の間にはあまり強い相関はない。

一方、(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」(印刷教材の総合評価)と印刷教材の各評価項目とでは相関は強い。特に(B-10)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」と(B-11)「図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った」は強い相関が見られる。

最後に(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)」と、(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」、(B-20)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」の3項目をそれぞれ基準として各評価項目の相関係数を見たのが表2-4である。

表 2 - 4 【学部】取組姿勢・全体評価と各項目との単相関係数

		(A-1)全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)	(B-19)この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)	(B-20)この科目の内容には全体として満足している(満足度)
取組姿勢	(A-1)全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)	1.000	0.449	0.415
	(A-2)放送授業を十分に視聴した	0.558	0.265	0.253
	(A-3)印刷教材を熱心に学習した	0.676	0.412	0.342
授業の難易度・分量	(B-1)放送授業の難易度は適切だった	0.371	0.541	0.549
	(B-2)放送授業の内容は適切な分量であった	0.351	0.493	0.520
	(B-3)印刷教材の難易度は適切だった	0.334	0.601	0.606
	(B-4)印刷教材の内容は適切な分量であった	0.322	0.557	0.567
放送授業	(B-5)講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	0.349	0.523	0.589
	(B-6)講師の熱意が十分に伝わった	0.353	0.415	0.503
	(B-7)放送授業は教材としてよくできていると感じた	0.338	0.485	0.583
	(B-8)【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0.304	0.422	0.494
印刷教材	(B-9)印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった	0.310	0.469	0.531
	(B-10)印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	0.317	0.606	0.625
	(B-11)図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	0.282	0.473	0.519
	(B-12)印刷教材は教材としてよくできていると感じた	0.311	0.560	0.636
通信指導・単位認定試験	(B-13)通信指導のコメントは、納得のいくものだった	0.274	0.417	0.499
	(B-14)通信指導は学習内容の理解に役立った	0.308	0.448	0.528
	(B-15)単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった。	0.254	0.482	0.550
全体評価	(B-16)授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った	0.319	0.531	0.599
	(B-17)学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった	0.430	0.615	0.736
	(B-18)新しい知識が身につく視野が広がった	0.418	0.592	0.689
	(B-19)この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)	0.449	1.000	0.759
	(B-20)この科目の内容には全体として満足している(満足度)	0.415	0.759	1.000



まず、全体的な熱心度（取組姿勢）を見ると、取組姿勢に関する評価項目に関しては高い相関を示しているが、他評価項目との相関は非常に弱い。理解度と 0.499、満足度とは 0.415 の相関係数であり、熱心度と理解度・満足度との間の相関も決して強くない。

一方、理解度と満足度の相関係数は 0.759 と強い相関が見られ、理解度が高いと満足度も高いと言える。尚、これまでの分析で注意すべき点は、「相関が強い」ということはすなわち「評価が高い」ということにはならないことである。つまり、元となる項目と低い評価が一致するところが多いため相関が強くなった、というケースも考えられるのである。

従って、改善点を洗い出す方法としては、次のアプローチが有効である。

- (1) 母集団から、評価の元になる項目で低い評価を出している標本を新たな母集団として抽出する
- (2) 新たな母集団で、評価の元になる項目と各項目の相関係数を求める。
- (3) その相関が強いということは、その項目は評価の元になる項目の評価が低い原因となっていると考えられる。

このようにして改善すべき項目を絞り込む。

このアプローチで放送授業、印刷教材について分析した結果が次頁の表 2 - 5 である。

表2-5 【学部】放送授業と各項目との相関係数

		(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた。 (評価1または2)
取組姿勢	(A-1) 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)	0.088
	(A-2) 放送授業を十分に視聴した	0.308
	(A-3) 印刷教材を熱心に学習した	0.010
授業の難易度・分量	(B-1) 放送授業の難易度は適切だった	0.392
	(B-2) 放送授業の内容は適切な分量であった	0.410
	(B-3) 印刷教材の難易度は適切だった	0.065
	(B-4) 印刷教材の内容は適切な分量であった	0.075
放送授業	(B-5) 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	0.537
	(B-6) 講師の熱意が十分に伝わった	0.507
	(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた	1.000
	(B-8) 【TV】 テレビの特性が十分に生かされていると感じた 【R】 映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0.486
印刷教材	(B-9) 印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった	0.407
	(B-10) 印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	0.119
	(B-11) 図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	0.051
	(B-12) 印刷教材は教材としてよくできていると感じた	0.087
通信指導・単位認定試験	(B-13) 通信指導のコメントは、納得のいくものだった	0.092
	(B-14) 通信指導は学習内容の理解に役立った	0.093
	(B-15) 単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった。	0.043
全体評価	(B-16) 授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った	0.133
	(B-17) 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった	0.162
	(B-18) 新しい知識が身につく視野が広がった	0.132
	(B-19) この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)	0.109
	(B-20) この科目の内容には全体として満足している(満足度)	0.103

表から読み取れるのは、講師に関する項目の値が高い場合、放送授業に対する評価の低さと強い相関にあると考えられる。特に (B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、わかりやすかった」が 0.537、(B-6)「講師の熱意が十分に伝わった」が 0.507 と強い相関を示している。つまり、放送授業の評価に関しては、良くも悪くも「講師の説明と熱意」が強く関わっていることを示している。同じように、相関係数の高い項目に改善のポイントがあると推察できる。

次に、印刷教材についても同様の分析を行ったのが（次頁表 2 - 6）である。

表 2-6 【学部】印刷教材と各項目との相関係数

		(B-12) 印刷教材は教材としてよくできていると感じた。 (評価1または2)
取組姿勢	(A-1) 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)	0.128
	(A-2) 放送授業を十分に視聴した	0.064
	(A-3) 印刷教材を熱心に学習した	0.102
授業の難易度・分量	(B-1) 放送授業の難易度は適切だった	0.305
	(B-2) 放送授業の内容は適切な分量であった	0.291
	(B-3) 印刷教材の難易度は適切だった	0.344
	(B-4) 印刷教材の内容は適切な分量であった	0.328
放送授業	(B-5) 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	0.308
	(B-6) 講師の熱意が十分に伝わった	0.242
	(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた	0.343
	(B-8) 【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0.278
印刷教材	(B-9) 印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった	0.342
	(B-10) 印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	0.456
	(B-11) 図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	0.418
	(B-12) 印刷教材は教材としてよくできていると感じた	1.000
通信指導・単位認定試験	(B-13) 通信指導のコメントは、納得のいくものだった	0.242
	(B-14) 通信指導は学習内容の理解に役立った	0.248
	(B-15) 単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった。	0.234
全体評価	(B-16) 授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った	0.331
	(B-17) 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった	0.302
	(B-18) 新しい知識が身につく視野が広がった	0.290
	(B-19) この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)	0.319
	(B-20) この科目の内容には全体として満足している(満足度)	0.359

この結果から読み取れるのは、「印刷教材の内容は必ずしも明確ではなかった／説明も必ずしも分かりやすくなかった」「図表や写真などが必ずしも適切に用いられていなかった／必ずしも内容の理解に役に立たなかった」と感じている学生が、印刷教材の評価を低くする要因となっている可能性も高いということである。

なぜか講師の項目ともある程度の相関が見られるが、授業というものは放送・印刷教材の両方で受けるものなので、アンケートで評価を下すにあたっては必ずしも放送授業・印刷教材という区分で分けられないケースもあるのではないかと推察される。

## Ⅱ－２．大学院の分析結果

### Ⅱ－２－１．項目平均から見た全体的傾向

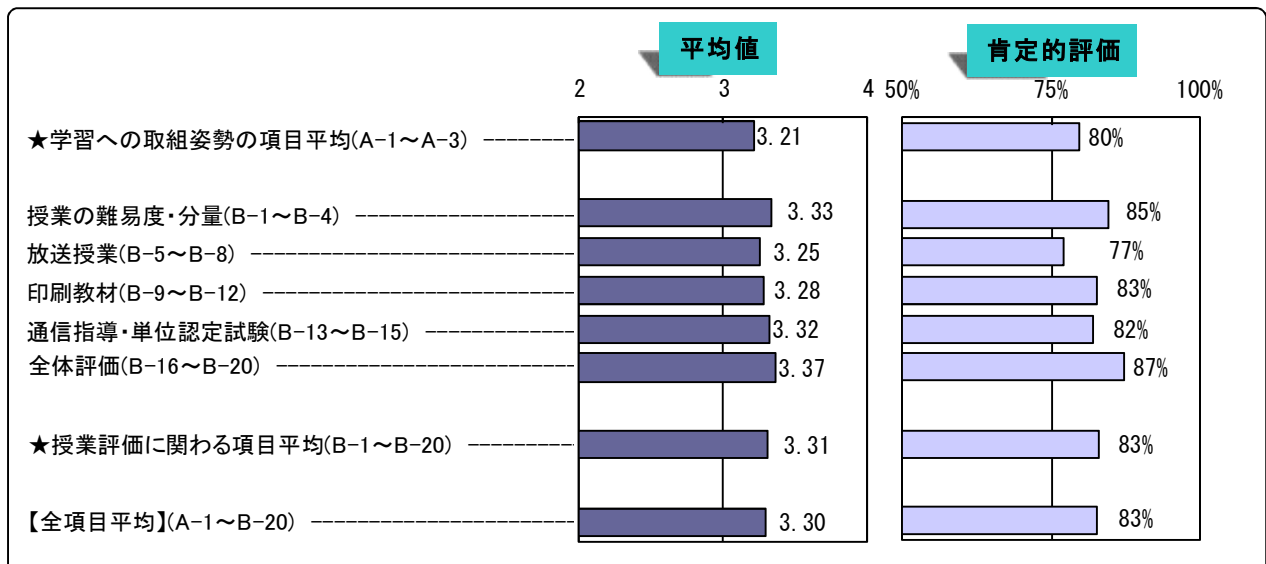
ここからは大学院科目の評価結果を見ていく。大学院の回答者全体について、評価項目の内容ごとにその平均を算出したのが（図２－４７）である。まずこれによって評価の全体的傾向を把握しておくこととする。

項目平均を全体的に見ると、やはり大学院は学部生に比べて取組姿勢・授業評価がやや高く、違った傾向がうかがえる。

『学習への取組姿勢の項目平均』は平均値が 3.21、肯定的評価（「あてはまる」＋「ややあてはまる」）が 80%であり、『授業評価に関わる項目平均』も平均値が 3.31、肯定的評価が 83%と高い値を示している。高い意識で学習に取り組んでいること、また授業に対する評価が高いことが特徴的である。

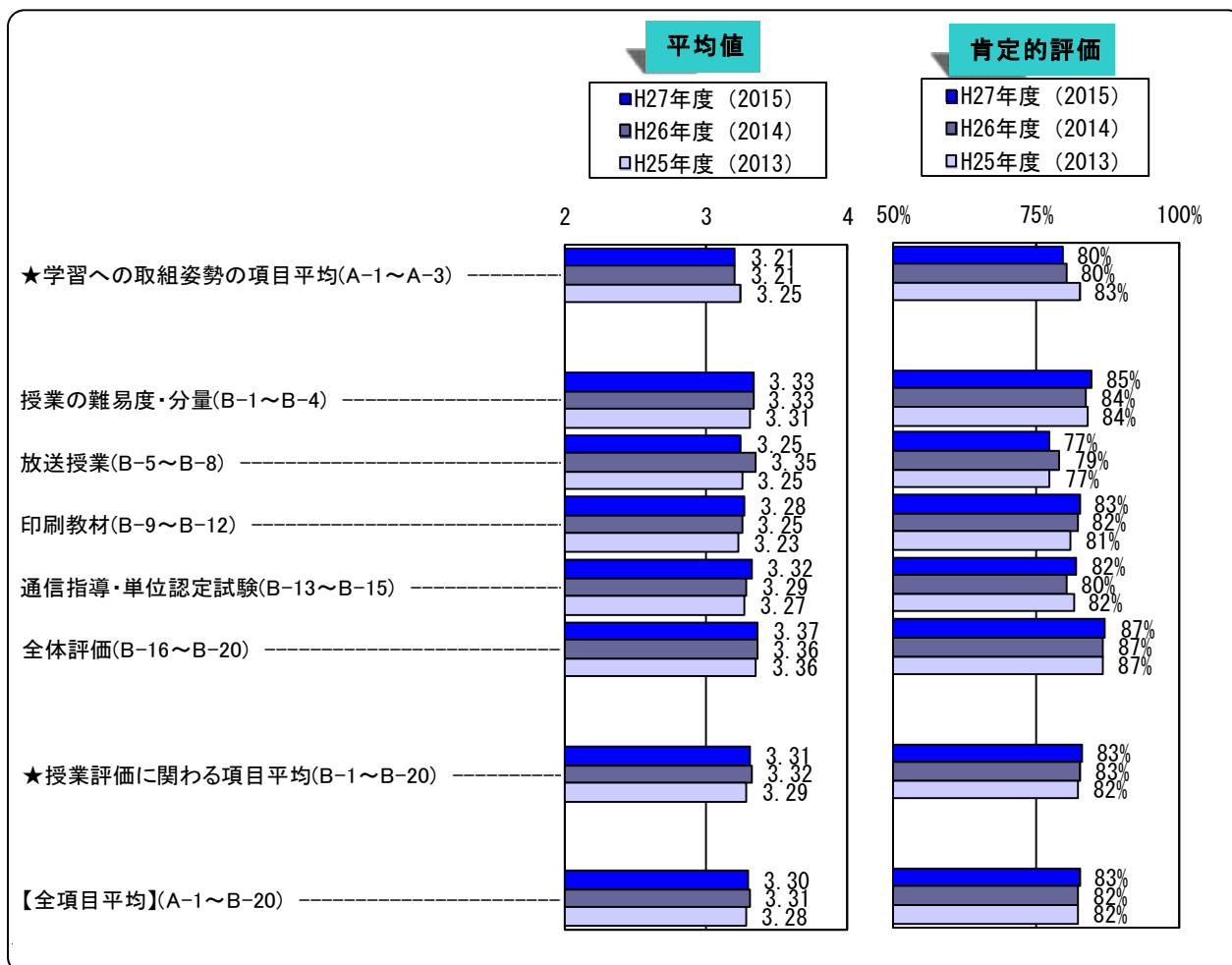
『授業評価に関わる項目平均』を内容ごとに見ると、『全体評価』は平均値 3.37、肯定的評価 87%と評価が高い。しかし『放送授業』『通信指導・単位認定試験』は平均値が高いが、肯定的評価では他の項目に比べてやや低い割合となっている。特に『放送授業』は 77%と低い数字を示している。

図 2－47 【大学院】項目平均による全体的傾向



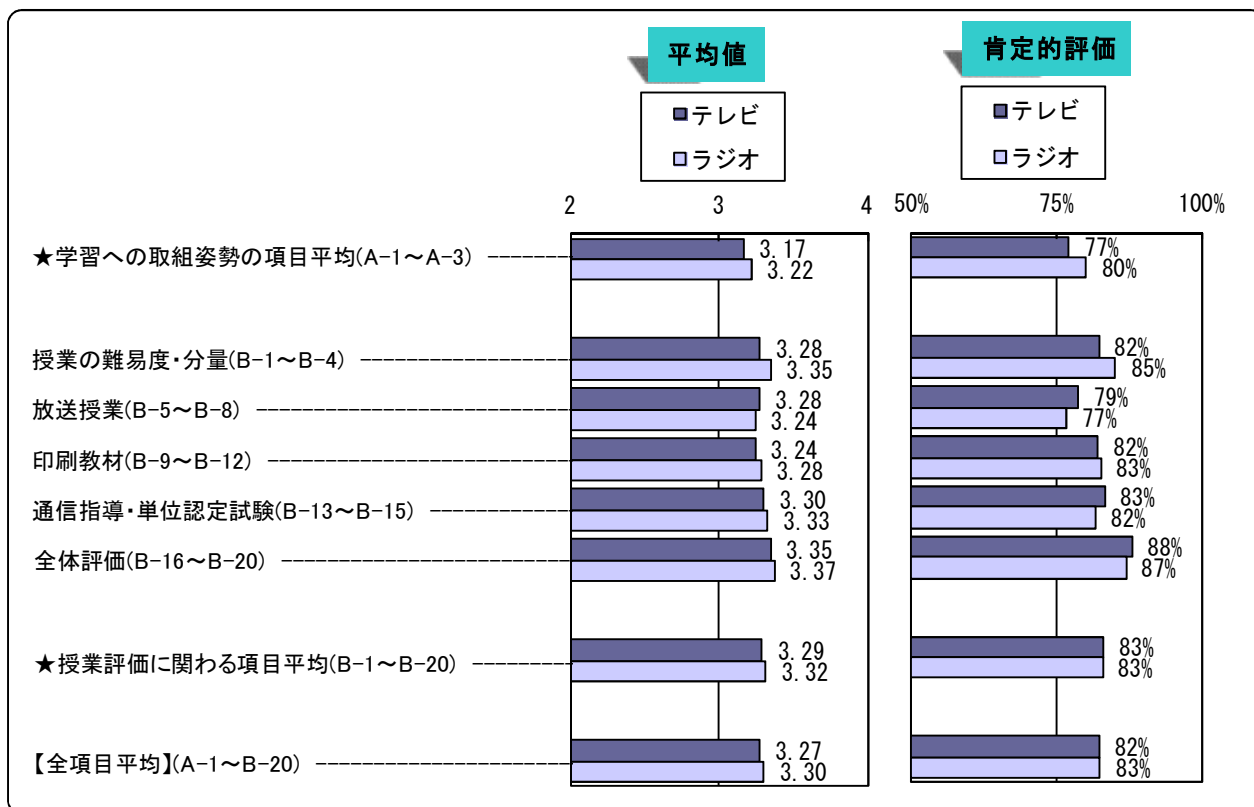
項目平均を科目の開設年度で比較してみると（図2-48）、2015年度新規開設科目は、2014年度新規開設科目に比べ、『学習への取組姿勢の項目平均』を時系列で見た場合は平均値、肯定的評価ともに横ばいである。その他の項目では、放送授業を除いてほぼ昨年水準を保っている。

図2-48 【大学院】項目平均による全体的傾向（開設年度比較）



メディア別に 2014 年度新規開設科目の項目平均を見ると (図 2-49)、『学習への取組姿勢の項目平均』『授業評価に関わる項目平均』ともに、テレビ科目に比べてラジオ科目の評価が高い。

図 2-49 【大学院】項目平均によるメディア別全体的傾向

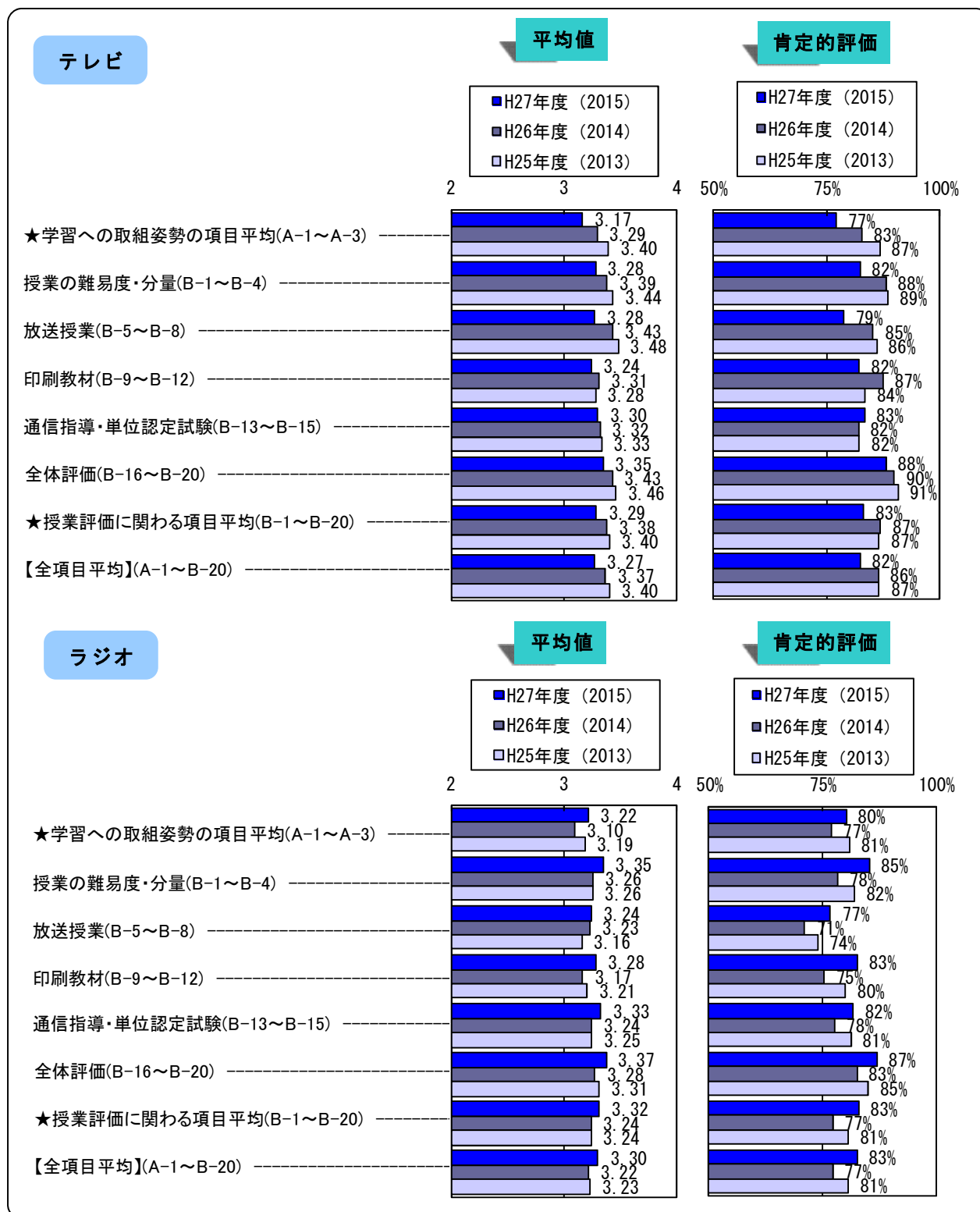




メディア別の項目平均を科目の開設年度で比較すると（図2-50）、2015年度新規開設科目では、2014年度新規開設科目に比べ、テレビ科目は『学習への取組姿勢の項目平均』も『授業評価に関わる項目平均』も低くなっている。

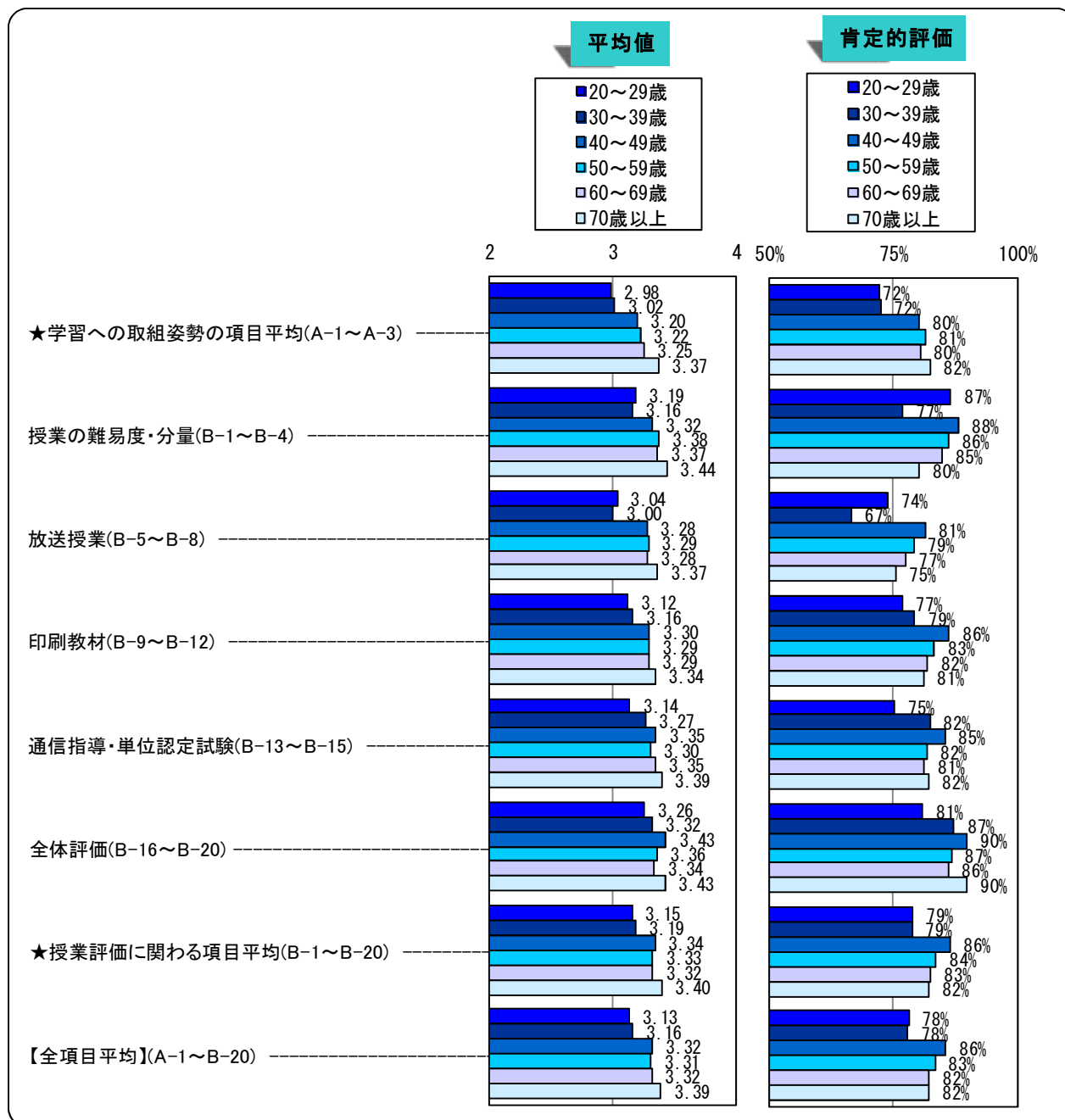
ラジオ科目では平均値も肯定的評価も昨年の水準を上回っている。

図2-50 【大学院】項目平均によるメディア別全体的傾向（開設年度比較）



回答者の年齢階層別で 2015 年度新規開設科目の項目平均を見ると（図 2-5 1）、ほとんどのいずれの項目において 70 歳以上が高い傾向にある。肯定的評価は 40 歳代以上で高くなる傾向を示している。しかし 30 歳代で、『放送授業』の評価が目に見えて低くなっている。

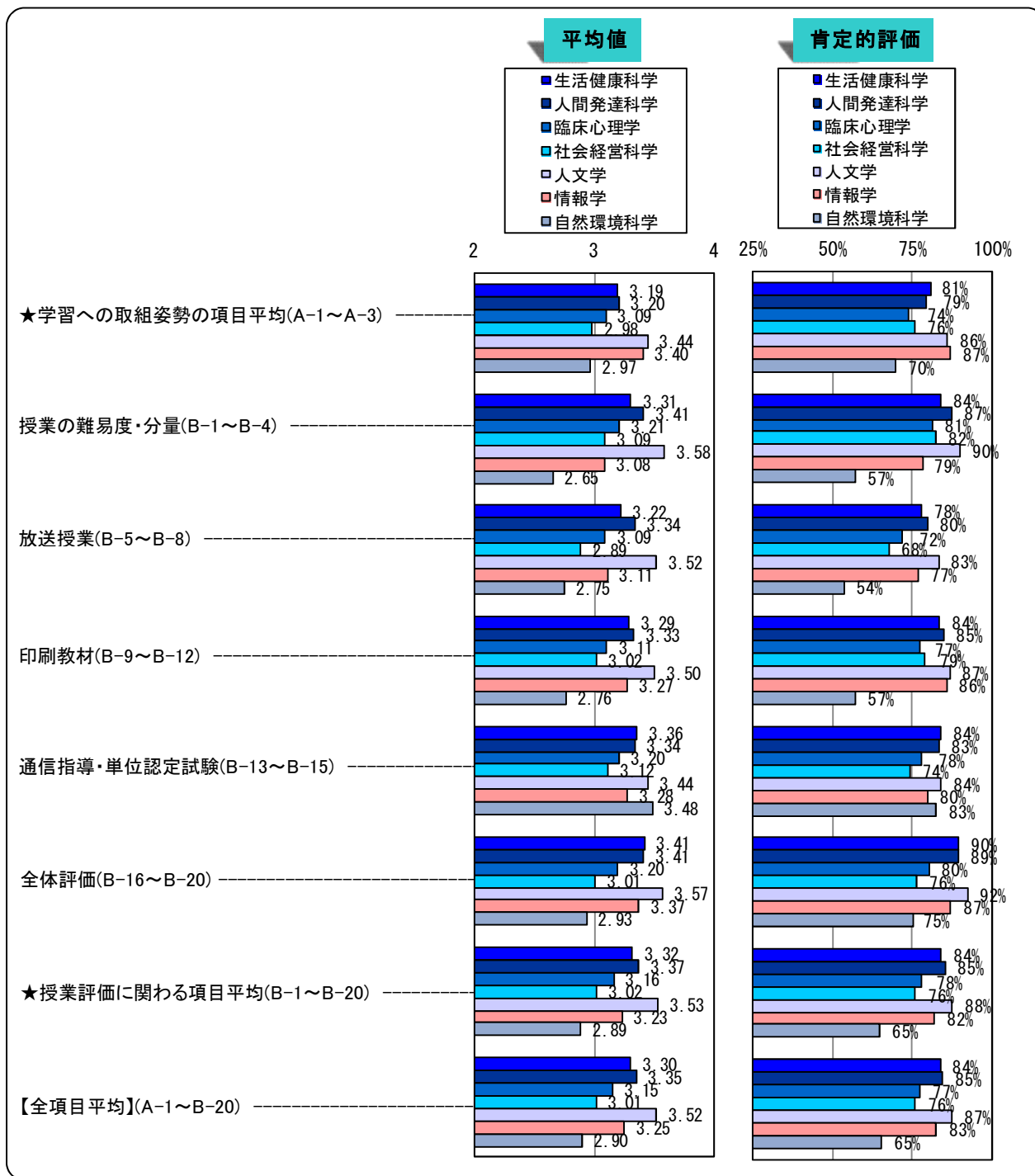
図 2-5 1 【大学院】項目平均による年齢階層別全体的傾向



科目の所属プログラム別に項目平均を見ると（図2-52）、『学習への取組姿勢の項目平均』は「人文学」、「情報学」の値が高くなっている。

『授業評価に関わる項目平均』は、「人文学」、「人間発達科学」の評価が高い。一方で「自然環境科学」は多くの項目で低くなっており、改善が求められる。

図2-52 【大学院】項目平均による所属プログラム別全体的傾向

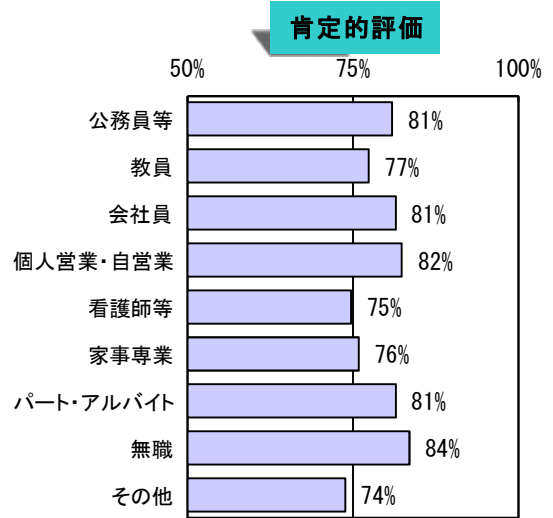
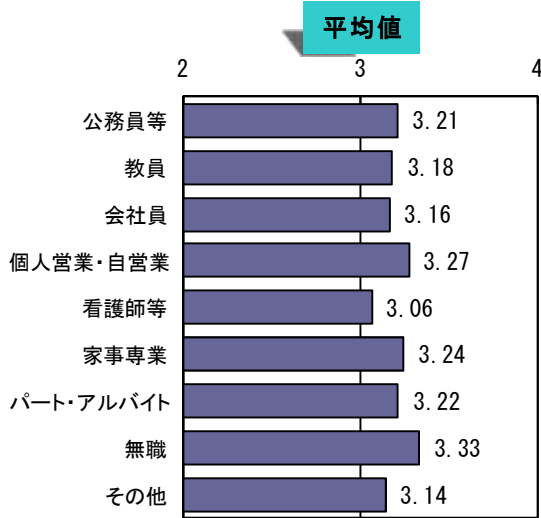


職業別に項目平均を見ると（次頁図2-53）、『学習への取組姿勢の項目平均』は「無職」で評価が高く、「看護師等」で低くなっている。

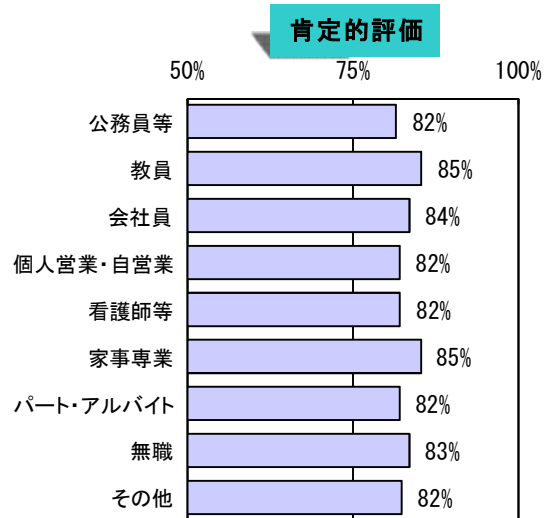
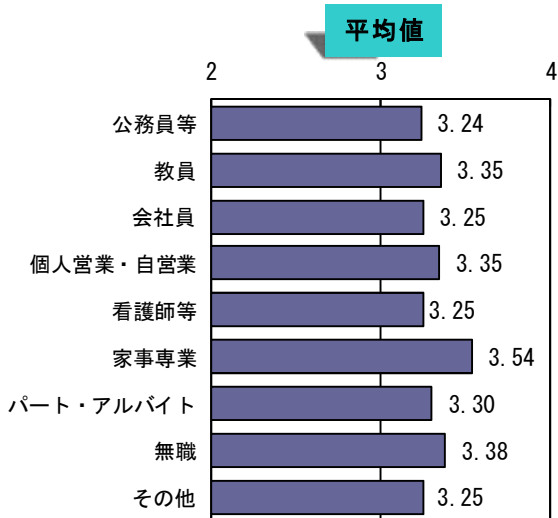
『授業評価に関わる項目平均』は、「公務員等」「会社員」「看護師」「その他」の評価がやや低めだが、他はまずまず高い水準になっている。

図 2 - 5 3 【大学院】項目平均による職業別全体的傾向

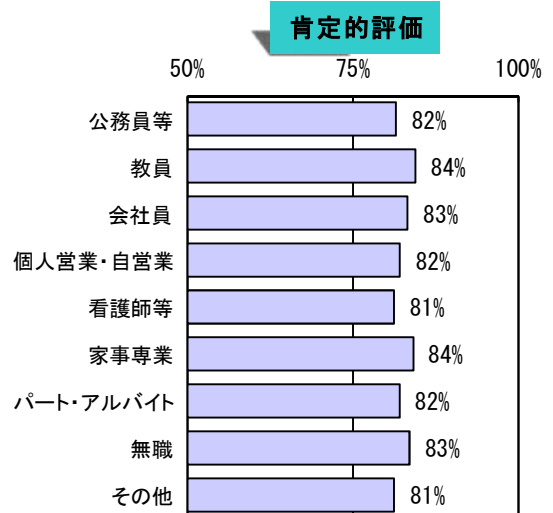
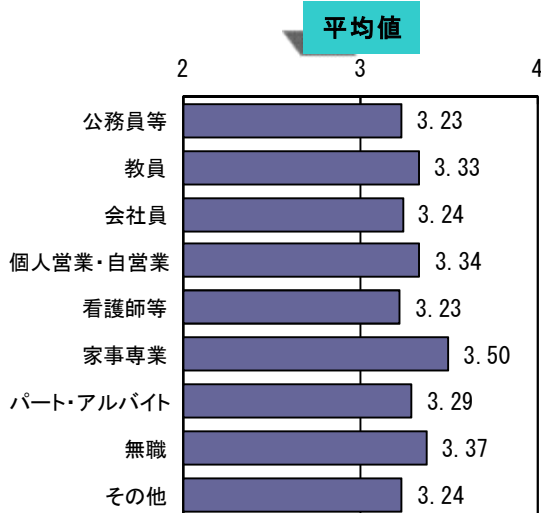
★学習への取組姿勢の項目平均(A-1~A-3)



★授業評価に関わる項目平均(B-1~B-20)



【全項目平均】(A-1~B-20)

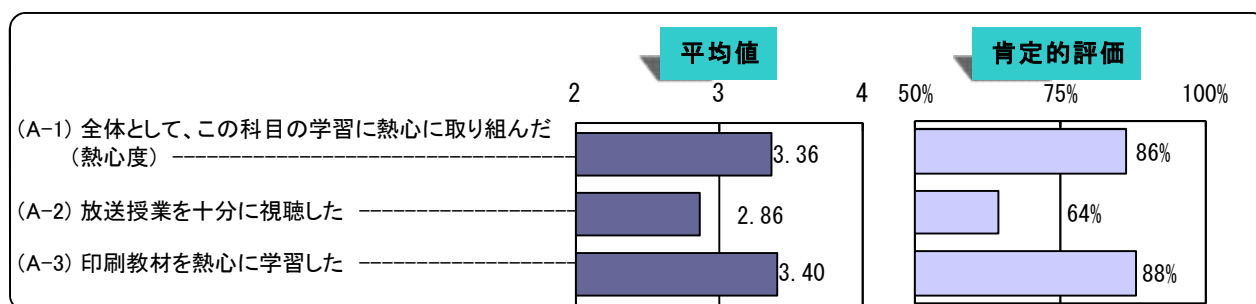


## Ⅱ－2－2. 学習への取組姿勢

ここからはそれぞれ評価項目ごとに調査結果を見ていく。

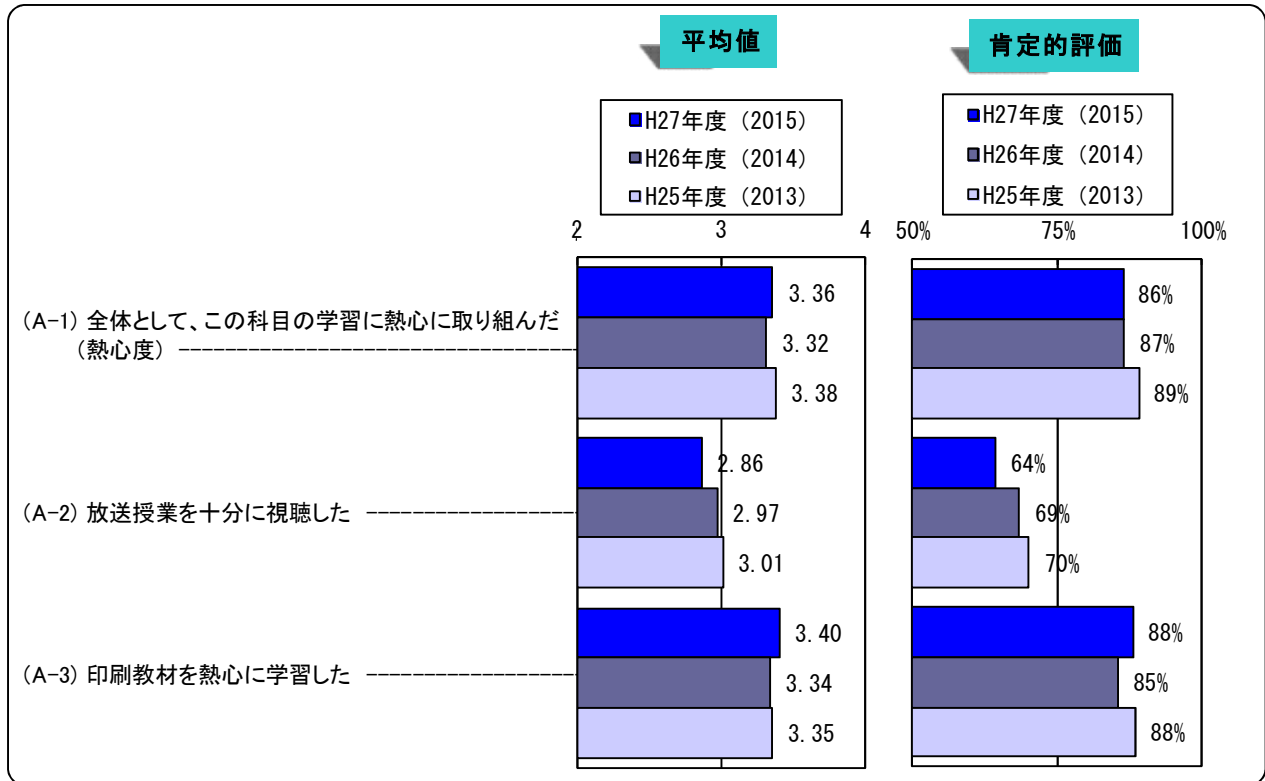
学習への取組姿勢（図2－54）では、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」は、平均値 3.36、肯定的評価 86%で、熱心に学習されている。同様に (A-3)「印刷教材を熱心に学習した」も平均値 3.40、肯定的評価 88%と高い。しかしこれらに比べると、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は、平均値 2.86、肯定的評価 64%と低くなっている。学部と同様、全体としては熱心に学習に取り組んでいるものの、印刷教材での学習が中心となっている。印刷教材に比べ放送授業の視聴度合いがよくないのは、時間的な制約も考えられるが、放送授業の内容そのものが影響しているとも考えられるので、今後もより興味・関心を引く講義への改善努力を進めるべきであろう。

図2－54 【大学院】回答者全体の取組姿勢



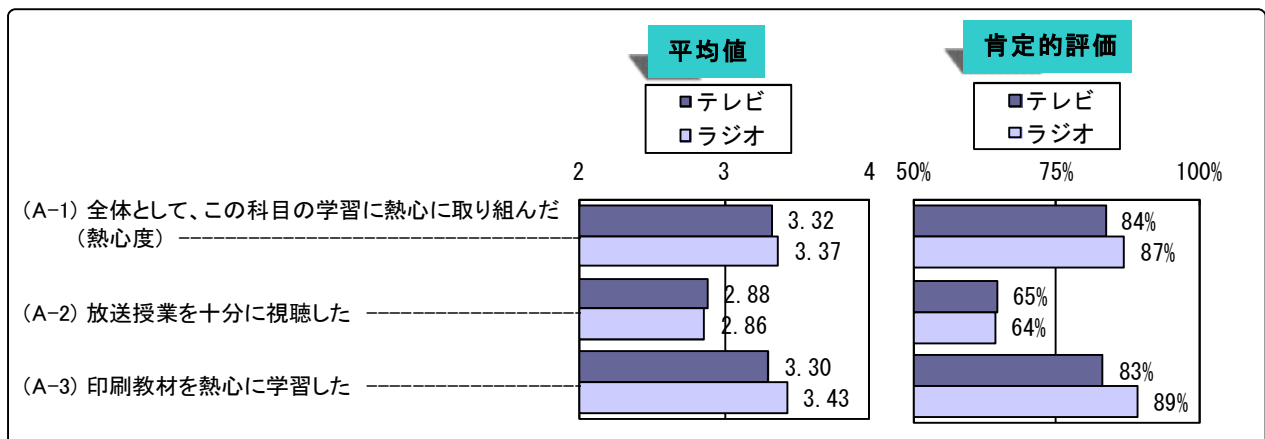
学習への取組姿勢を時系列で見ると（次頁図2－55）、平均値において (A-1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」と (A-3)「印刷教材を熱心に学習した」の2項目では2014年を上回っている。(A-2)「放送授業を十分に視聴した」の評価は通年において低い。

図 2 - 5 5 【大学院】回答者全体の取組姿勢（時系列）



メディア別の取組姿勢を見ると（図 2 - 5 6）、(A-1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」と (A-3)「印刷教材を熱心に学習した」の 2 項目においてラジオ科目の方がテレビ科目より高い。(A-2)「放送授業を十分に視聴した」ではラジオ科目がわずかに低くなっている。テレビ科目とラジオ科目の視聴度は同等の数字であるのに対し、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」では、ラジオ科目の方が印刷教材の視覚的イメージが膨らむせいか、高い評価を得ている。今後もテレビ科目、ラジオ科目ともに授業内容の見直し等を行うことにより、放送授業の視聴を上げていく必要があるだろう。

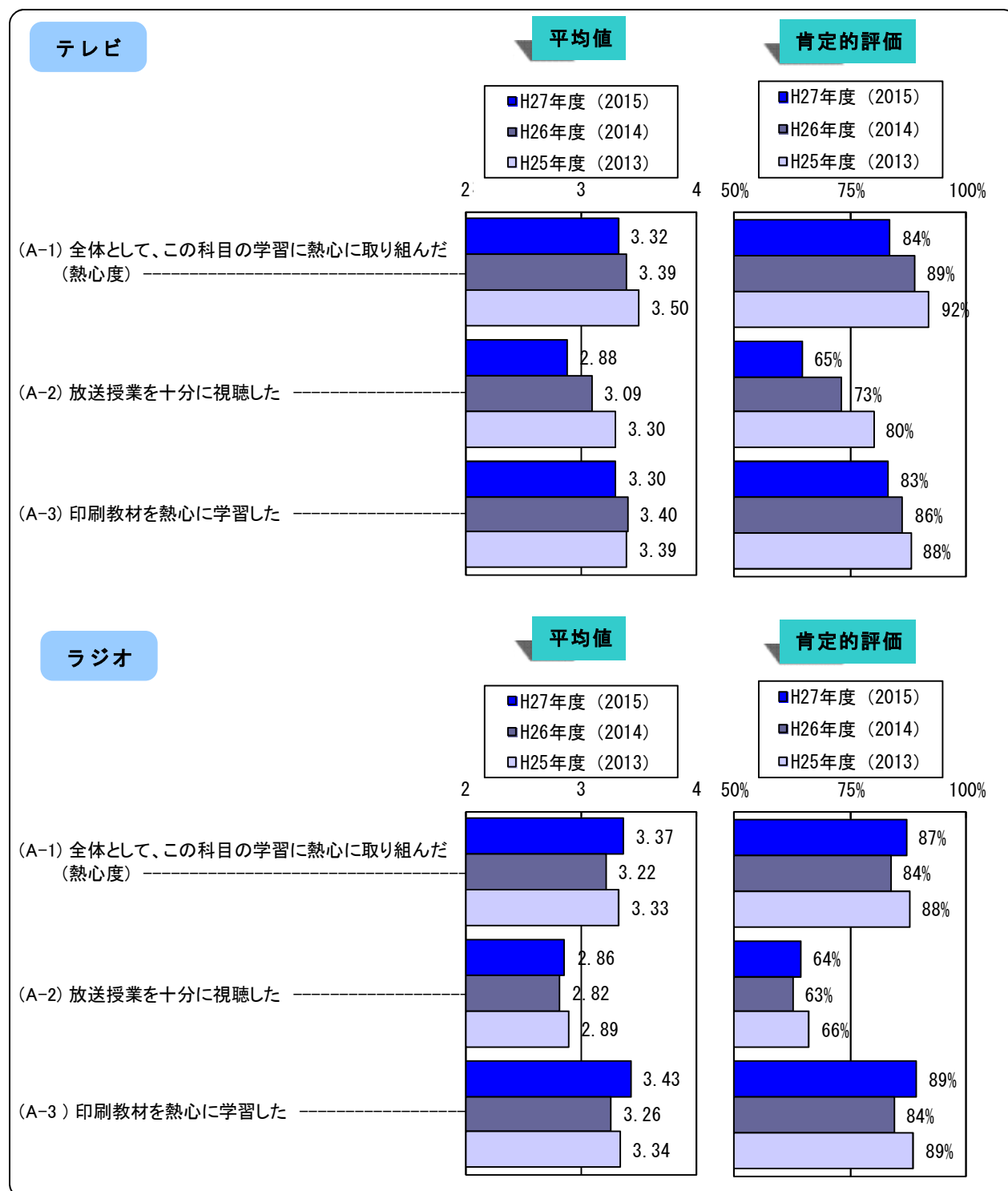
図 2 - 5 6 【大学院】メディア別の取組姿勢



メディア別の取組姿勢を時系列で見ると(図2-57)、2015年度新規開設科目では、ラジオ科目はいずれの科目でも2014年度新設科目を上回ったが、テレビ科目はいずれの項目でも前年度を下回る評価となっている。

特に評価が低下したのはテレビ科目の(A-2)「放送授業を十分に視聴した」である。

図2-57 【大学院】メディア別の取組姿勢(時系列)

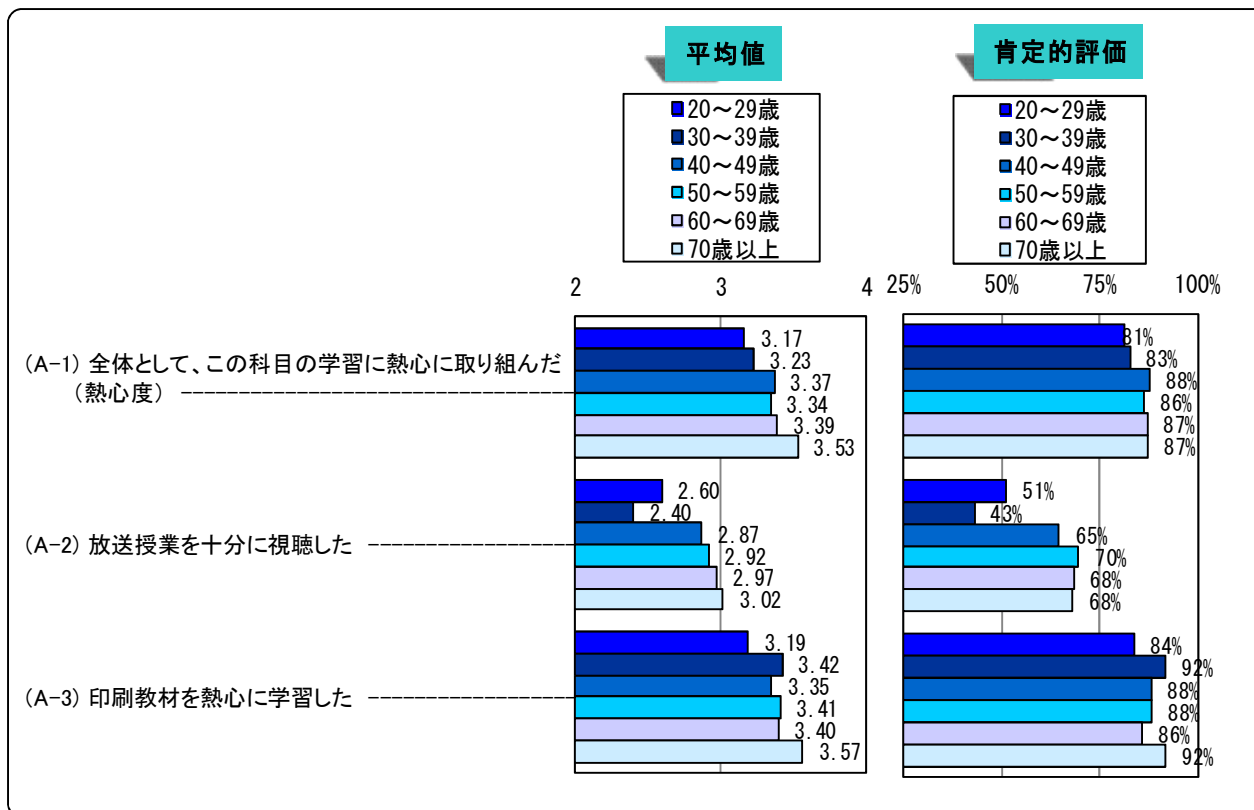




年齢階層別に取り組姿勢を見ると（図2-58）、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」では全ての年齢階層で評価が高く、同様に (A-3)「印刷教材を熱心に学習した」も全ての年齢階層で評価が高い。一方で (A-2)「放送授業を十分に視聴した」では全体的にやや低い傾向の中、30歳代の評価が際立って低い。

放送授業と印刷教材を比べると、総じて全ての年齢階層で学習の重心は印刷教材によっていることがうかがえる。

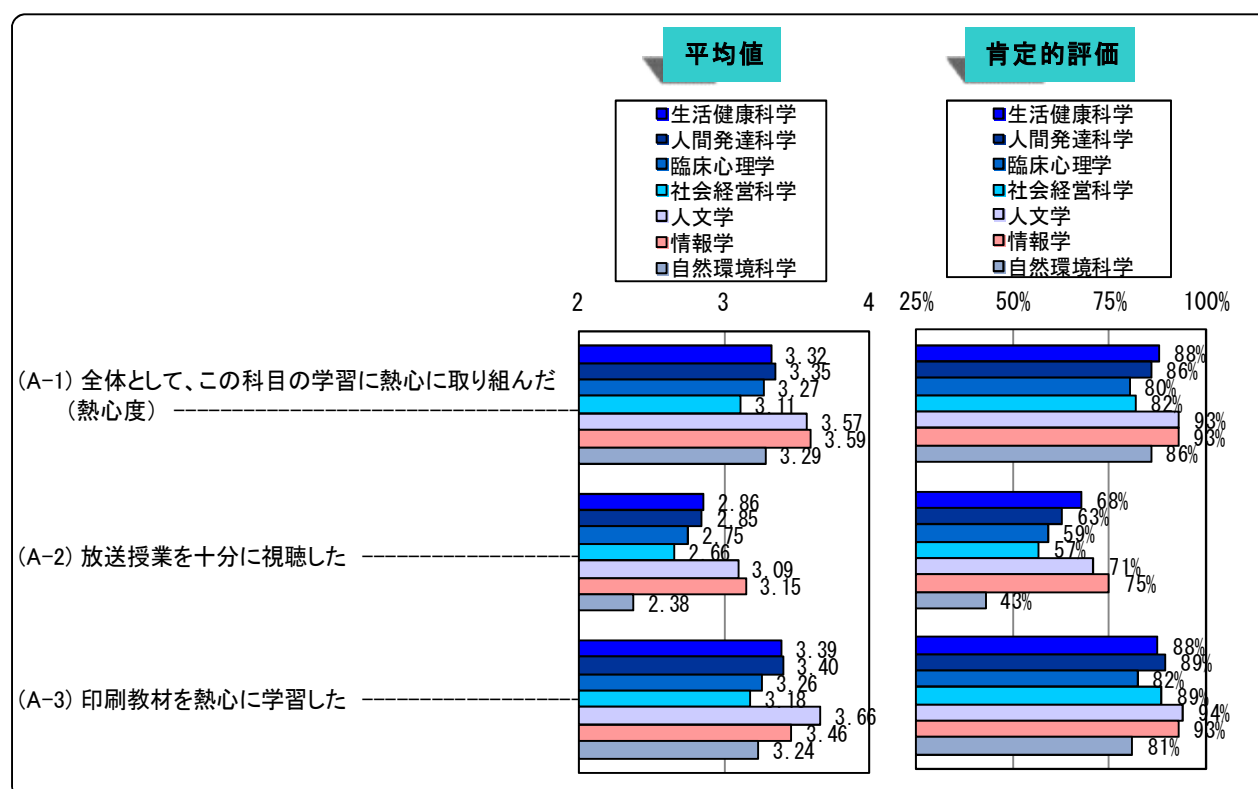
図2-58 【大学院】年齢階層別に取り組姿勢



所属プログラム別に取り組姿勢を見ると（図2-59）、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」では「人文学」と「情報学」で肯定的評価が高く、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」においてもこの2科目が高い値を示している。

また、「自然環境科学」はいずれの項目でも評価が低く、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」に至っては50%を割り込んでいるので、原因の解明と改善策が求められる。

図2-59【大学院】所属プログラム別の取組姿勢

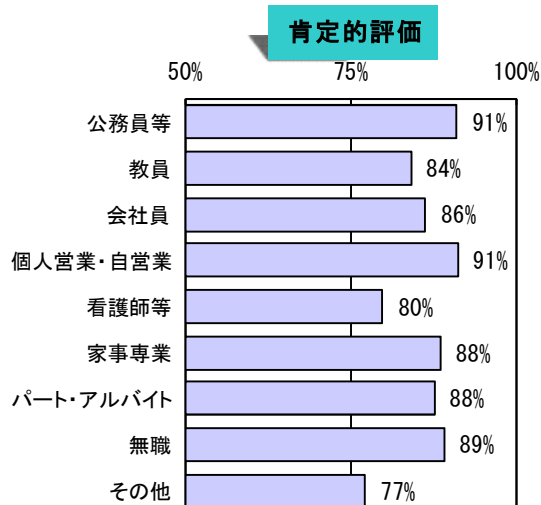
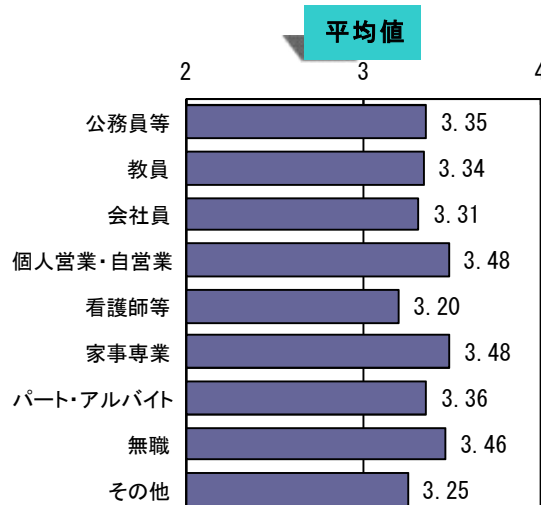


職業別に取り組姿勢を見ると（次頁図2-60）、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」では全体的に評価が高いが、「会社員」「看護師等」は評価がやや低い。(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」ではいずれの職業も取組姿勢は一定の高い水準を示している。これには、時間的余裕の有無も関係しているであろう。

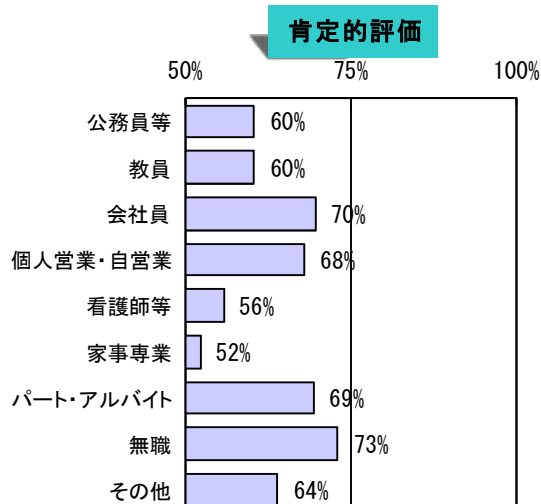
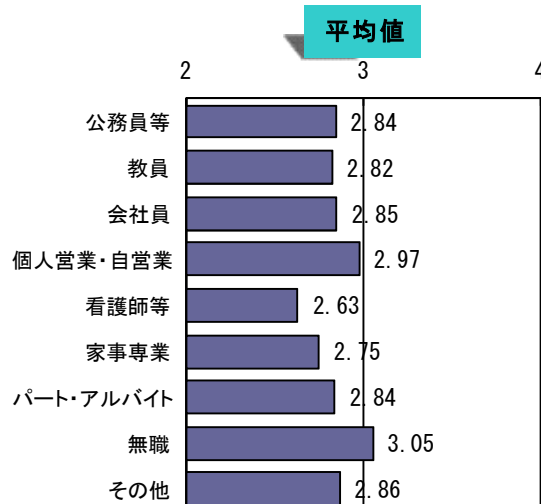
(A-2)「放送授業を十分に視聴した」では、いずれの職業も低めの値だが、「個人営業・自営業」「無職」ではやや高めの値である。

図 2 - 6 0 【大学院】職業別の取組姿勢

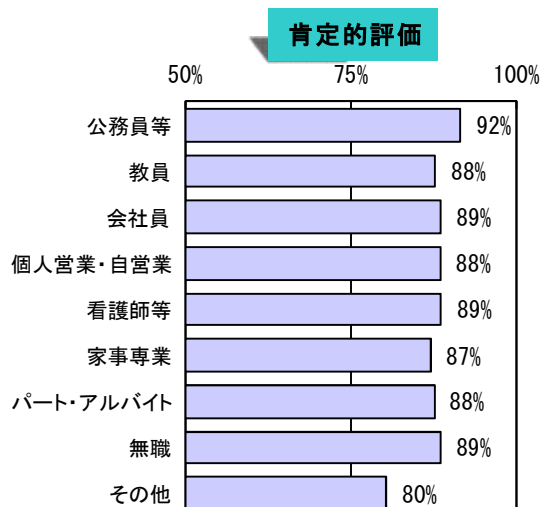
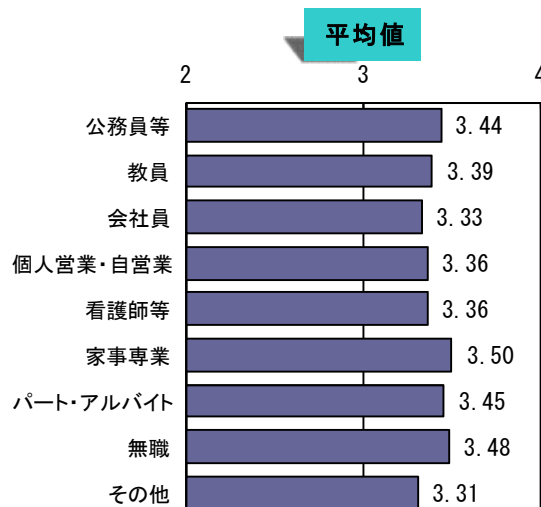
(A-1) 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ



(A-2) 放送授業を十分に視聴した

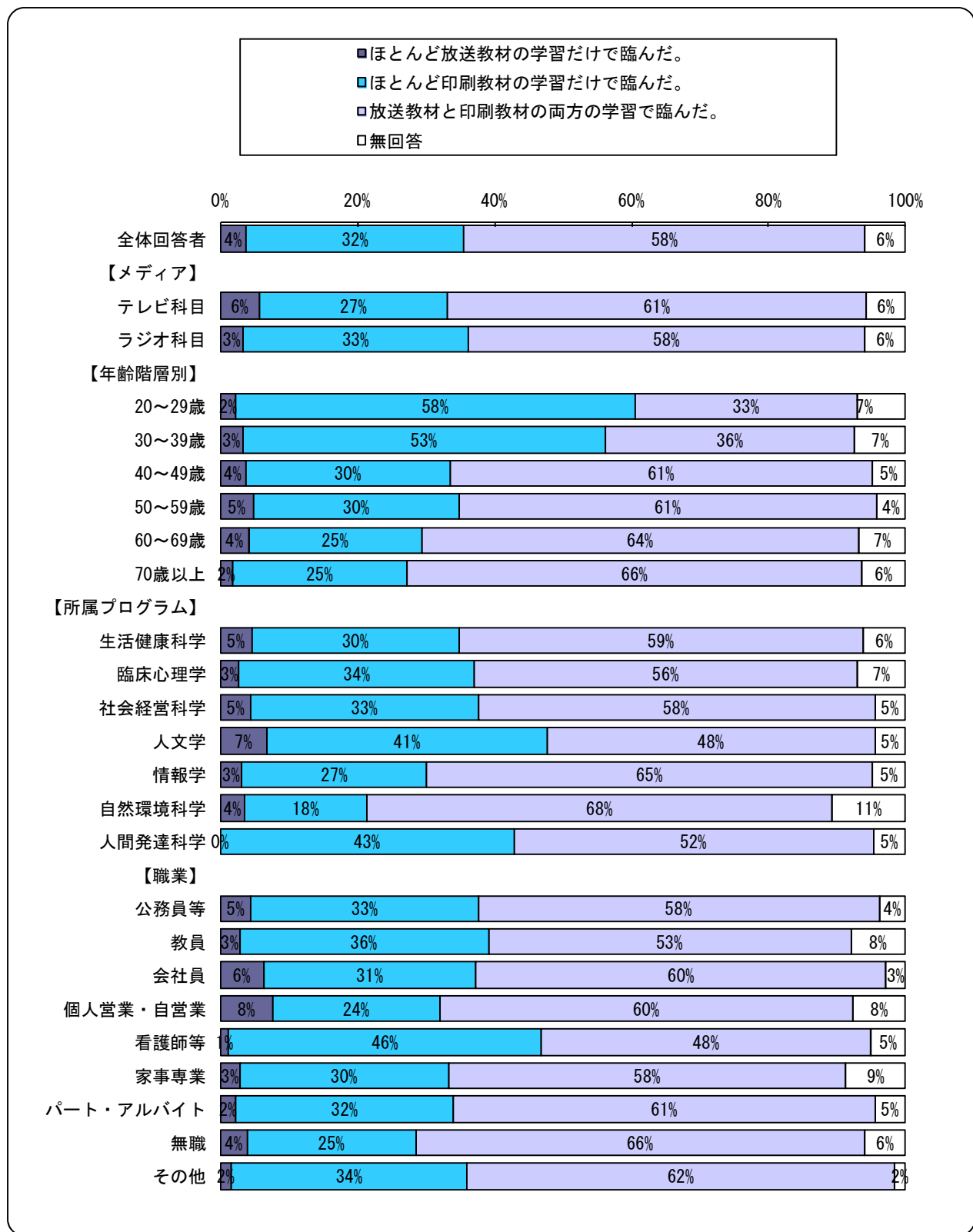


(A-3) 印刷教材を熱心に学習した



単位認定のための学習方法（図2-61）は、全体では「放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ」が58%を占め、「ほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ」が32%となっている。「ほとんど放送教材の学習だけで臨んだ」は極めて少なく、所属プログラム別の「人間発達科学」の科目では0%である。半数近くの人が放送教材と印刷教材を連動させていないことになる。

図2-61 【大学院】 単位認定のための学習方法



## Ⅱ－２－３．大学院の授業評価

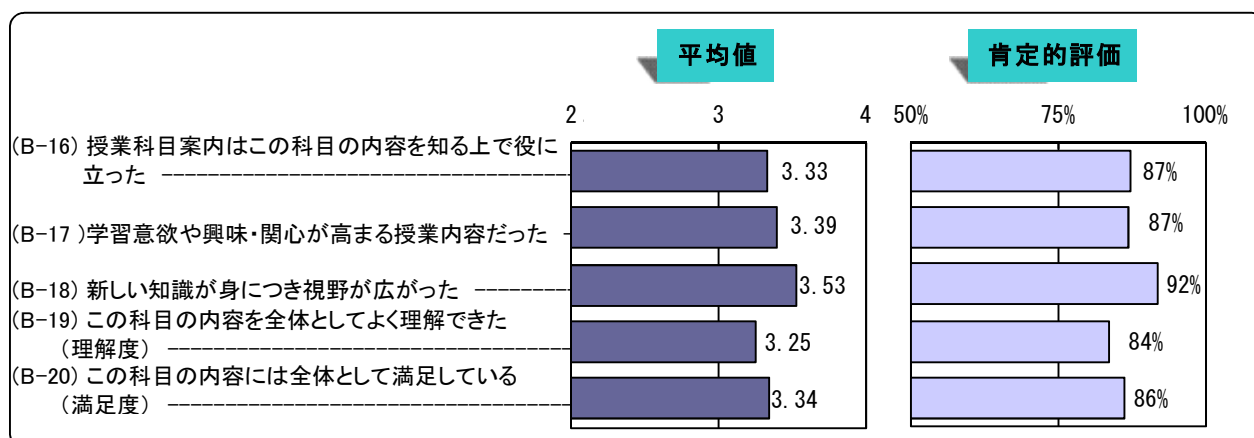
### (1) 全体評価

ここからは大学院の授業評価について、評価項目ごとに見ていくこととする。

まず全体評価を見ると（図２－６２）、いずれの項目も高い評価となっている。特に（B-18）「新しい知識が身につき視野が広がった」は、平均値 3.53、肯定的評価 92%と非常に高くなっている。

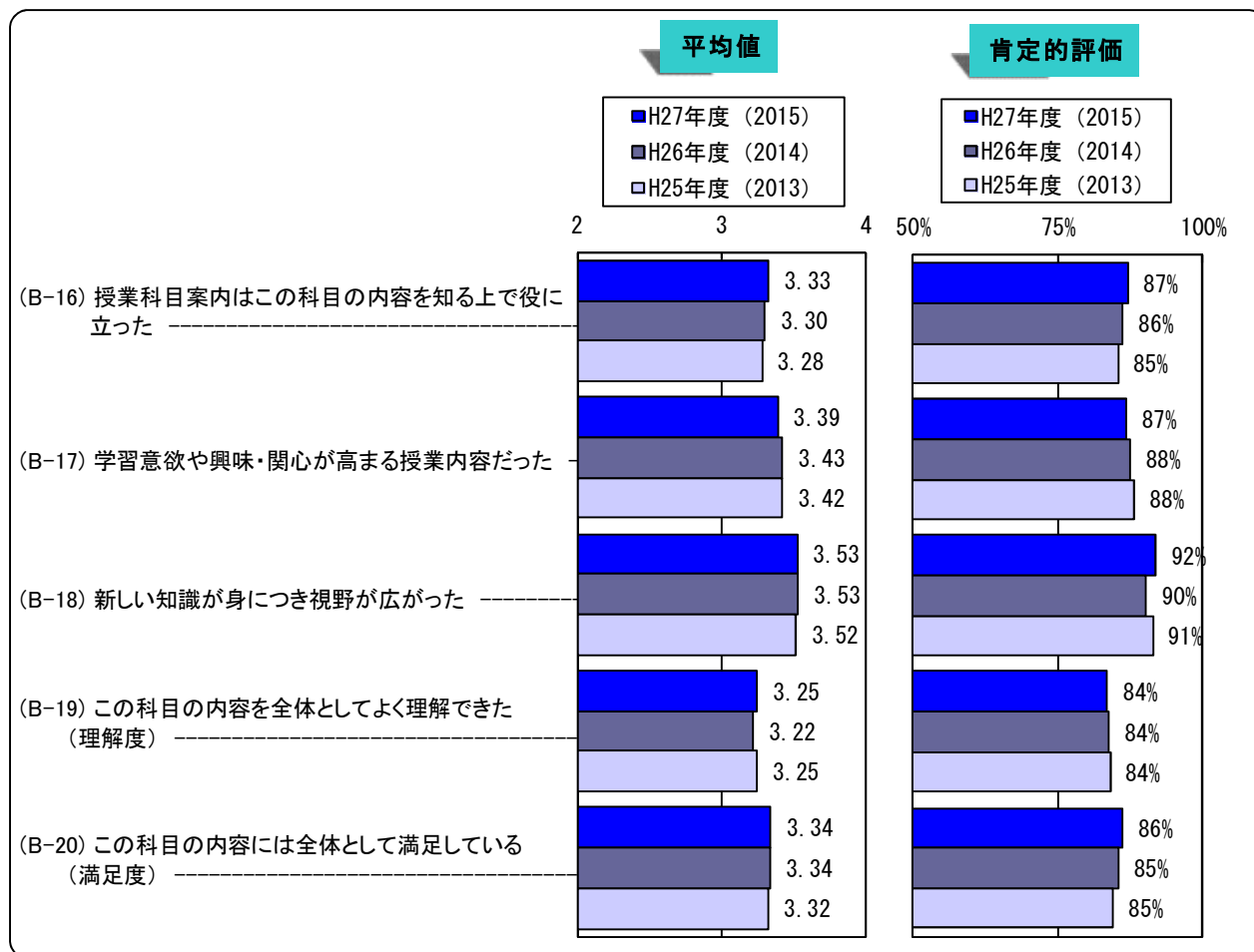
（B-20）「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」も平均値 3.34、肯定的評価 86%と高い満足度を示しているのに対し、（B-19）「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」では、平均値 3.25、肯定的評価 84%となり、満足度と理解度に若干の差異を生じた。

図 2－6 2 【大学院】回答者全体の全体評価



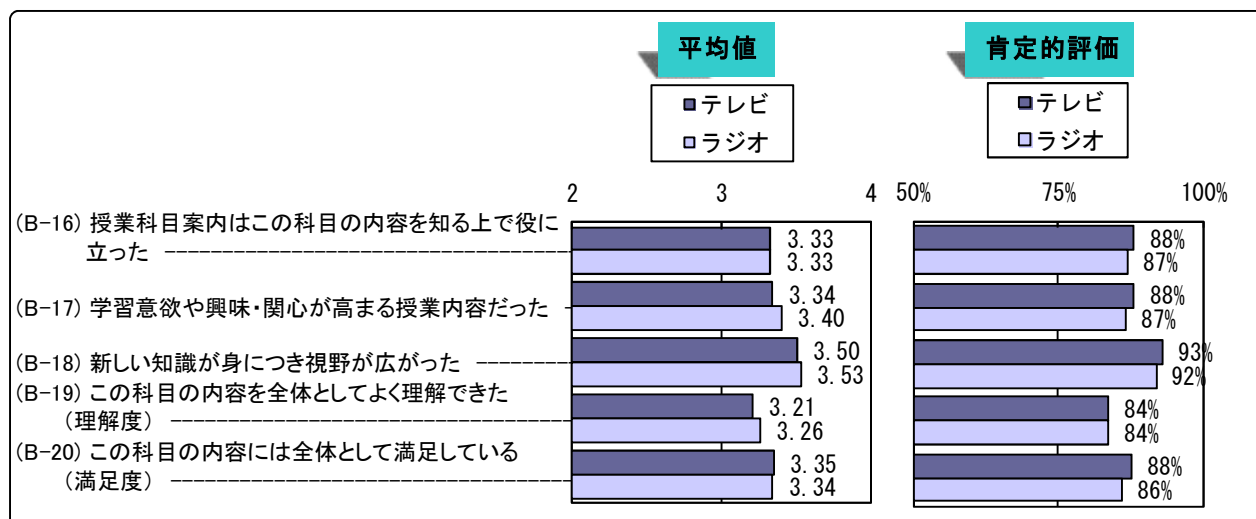
全体評価を時系列で見ると（図2-63）、全ての項目において2015年度は2014年度  
 の水準とほぼ変わらない値を維持している。

図2-63 【大学院】回答者全体の全体評価（時系列）



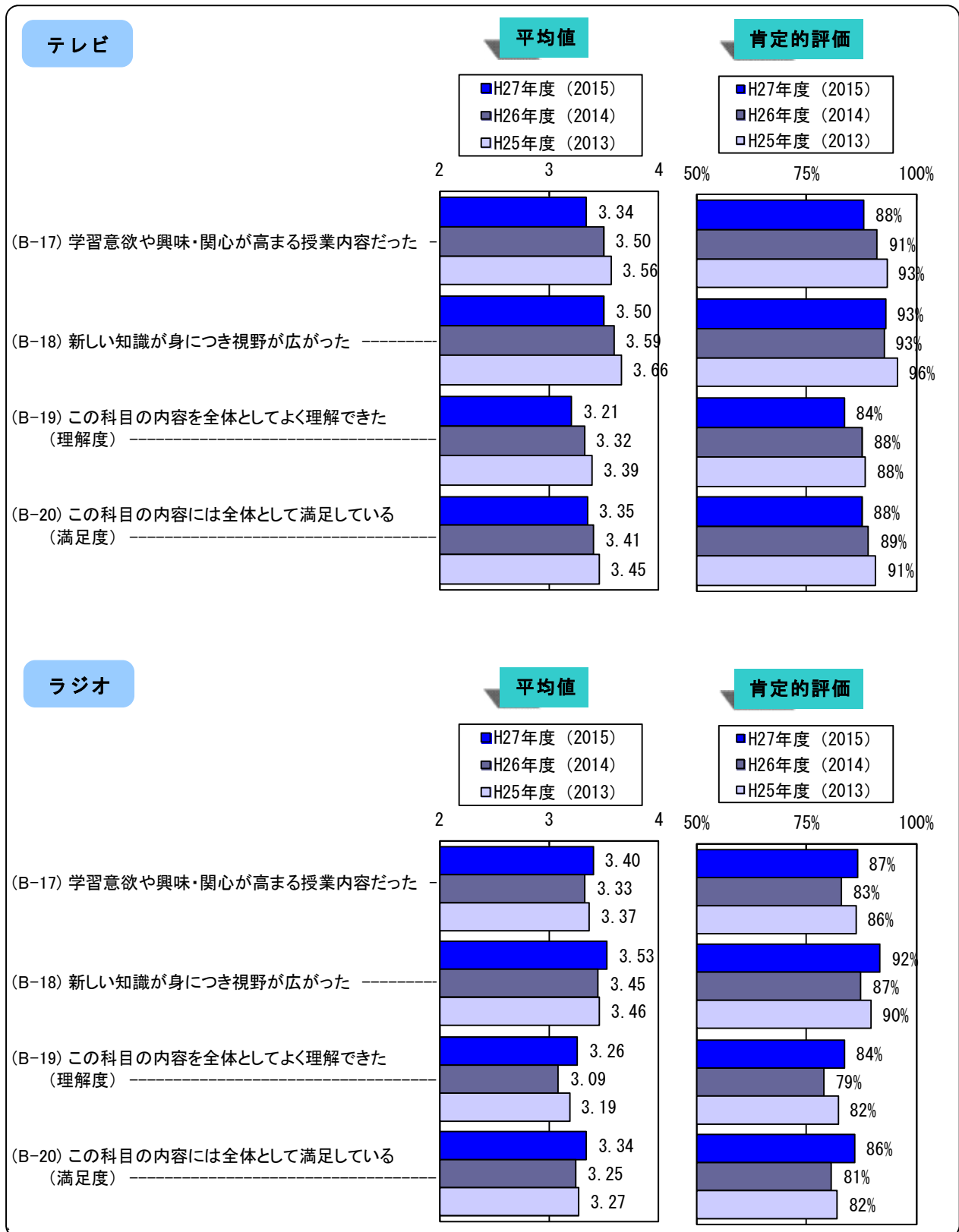
メディア別に全体評価を見ると（図2-64）、全体的に評価は高い。特に（B-18）「新しい知識が身につく視野が広がった」のテレビ科目では平均値 3.50、肯定的評価 93%と非常に高くなっている。ラジオ科目でも平均値 3.53、肯定的評価 92%と高い評価を得ている。

図2-64 【大学院】メディア別の全体評価



メディア別の全体評価を時系列で見ると（次頁図2-65）、テレビ科目は、いずれの項目も2014年新規開設科目に比べ2015年新規開設科目でやや低くなっているものの、全体的には高い評価を維持している。ラジオ科目は、2014年度には一端低い数値になるものの2015年新規開設科目ではいずれの項目においても2013年度を上回る高い数値を示しているため、改善への取り組みの成果が表れている。

図 2 - 6 5 【大学院】メディア別の全体評価（時系列）

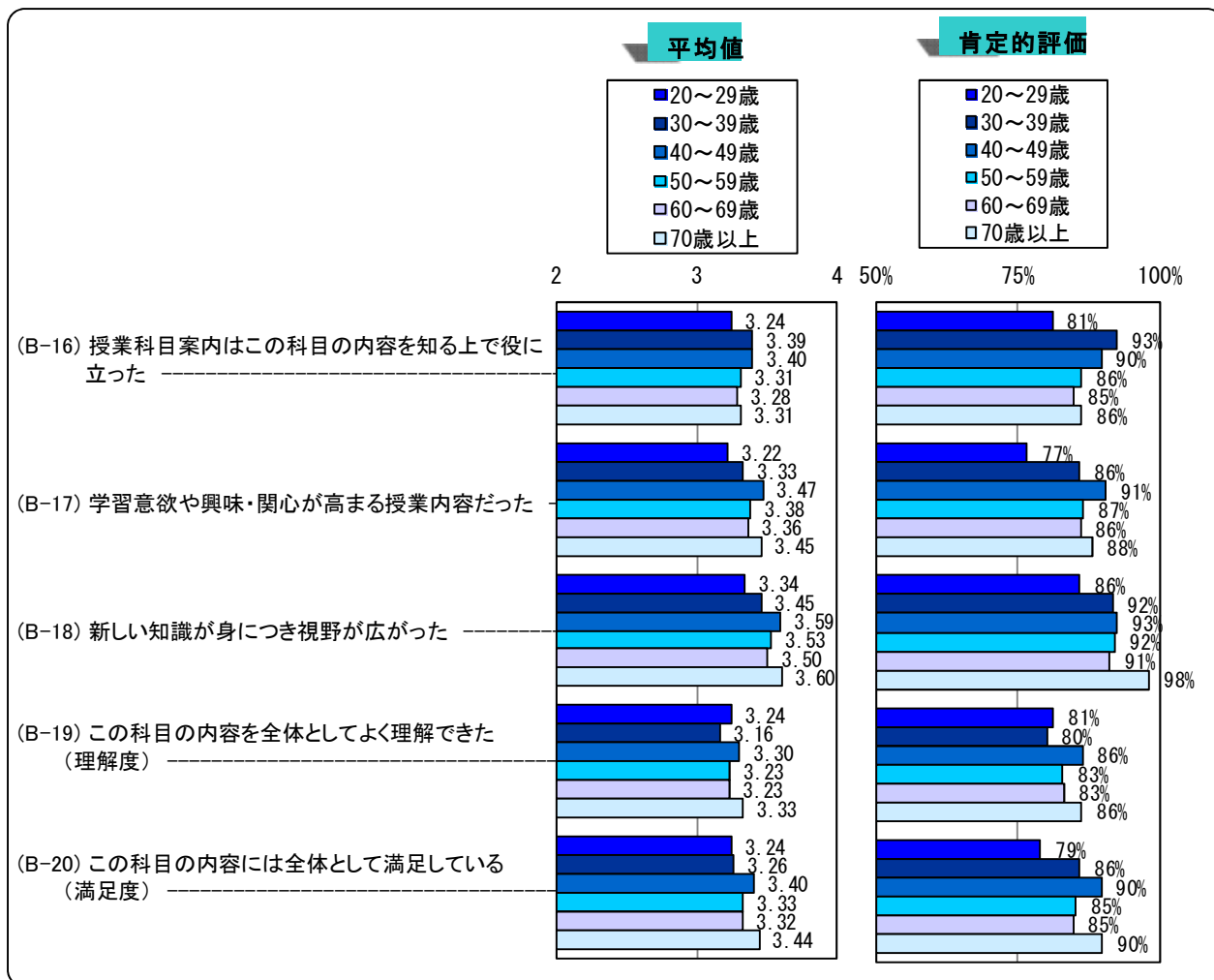




年齢階層別に全体評価を見ると（図2-66）、全体的に評価が高いことがわかる。

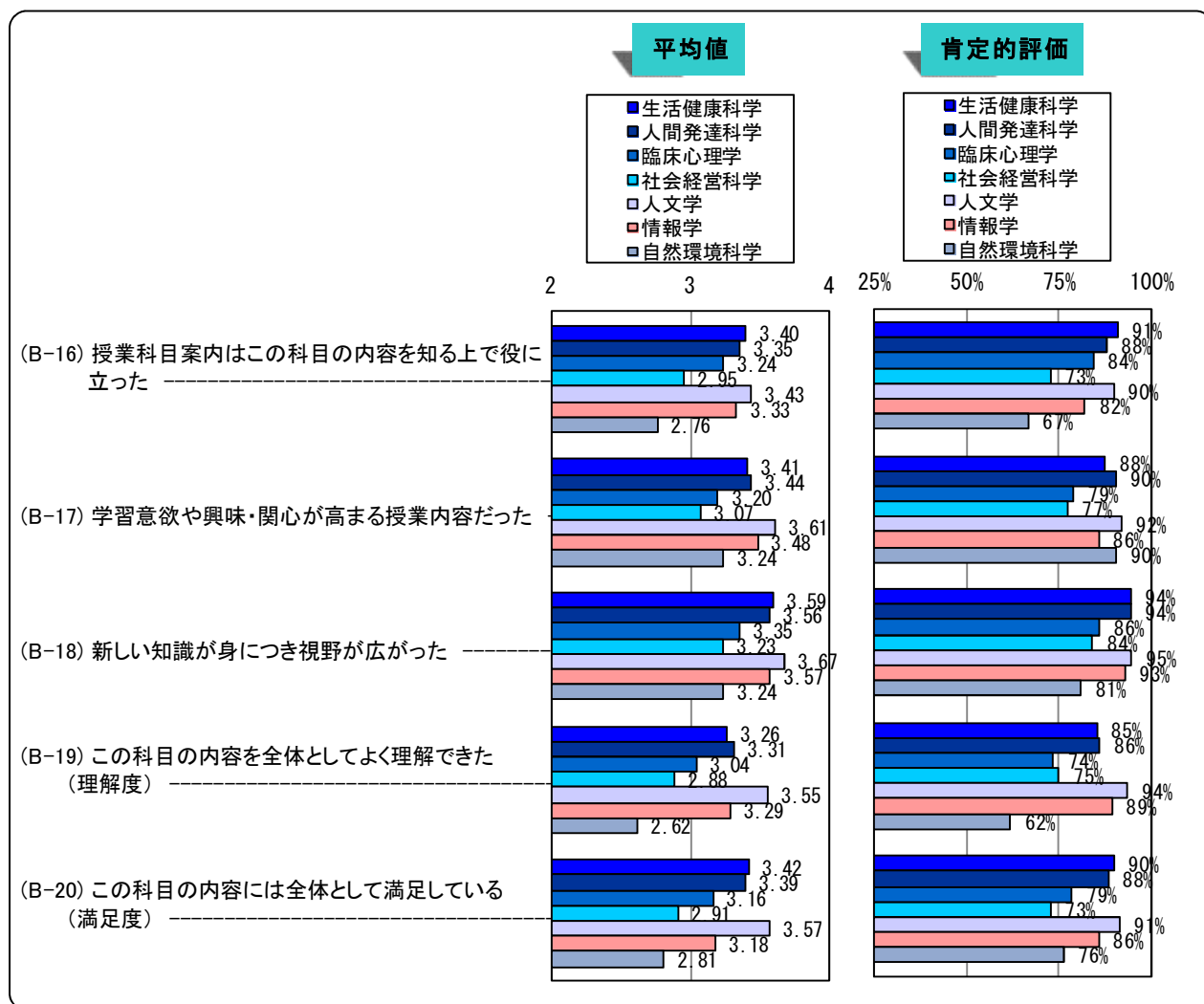
（B-17）「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」では19才以下の評価が低くなっているものの、総じて、ほとんどの年齢層でいずれの項目においても平均値は3.16以上で、肯定的評価は19才以下の一部の項目を除けば80%以上になっており、高い水準である。

図2-66 【大学院】年齢階層別の全体評価



所属プログラム別に全体評価を見ると（図2-67）、ほとんどのプログラムで高水準の値を示している中、自然環境科学は（B-16）「授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った」、（B-19）「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」、（B-20）「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」で低い値を示している。

図2-67【大学院】所属プログラム別の全体評価

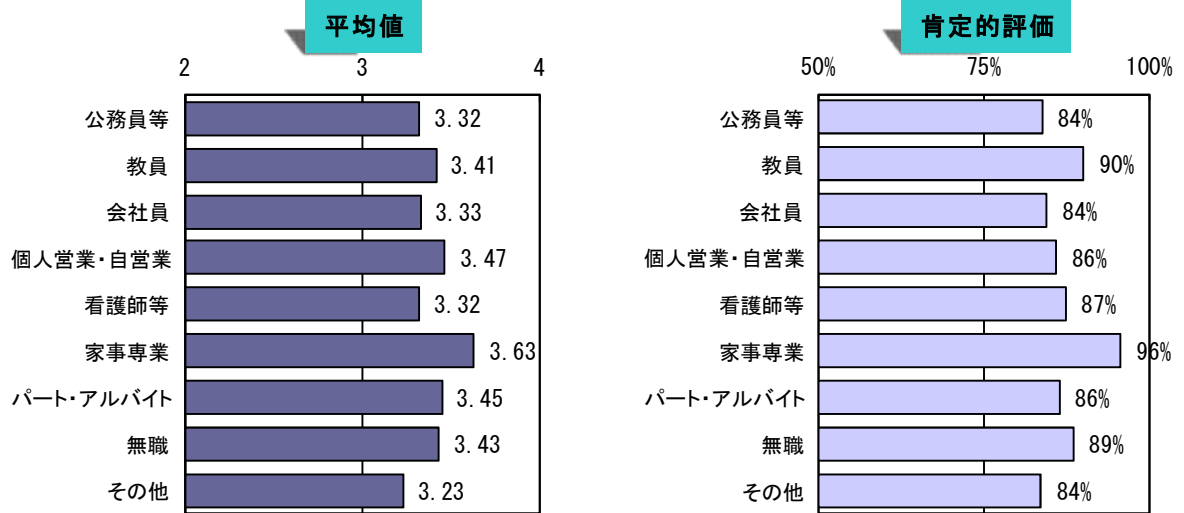


職業別に全体評価を見ると（次頁図2-68）、（B-17）「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」は「公務員等」「会社員」「看護師等」がやや低く、その他の職業ではまずまずの高い評価となっている。（B-19）「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」では「看護師等」が他の職業に比べ低い。

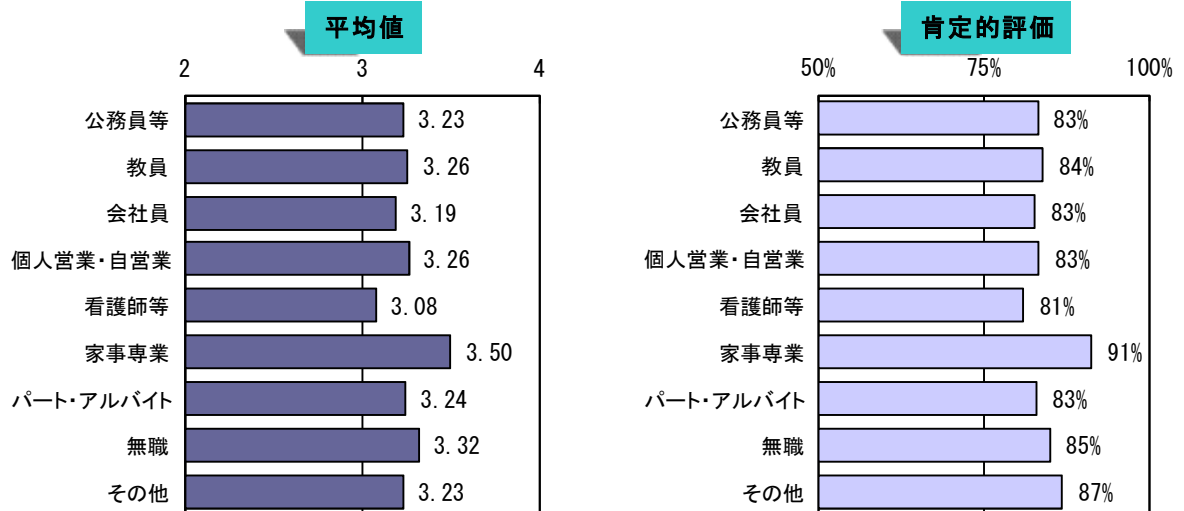
（B-20）「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」においては全体的に高評価が80%を超え、一定の水準の評価である。

図 2 - 6 8 【大学院】職業別の全体評価

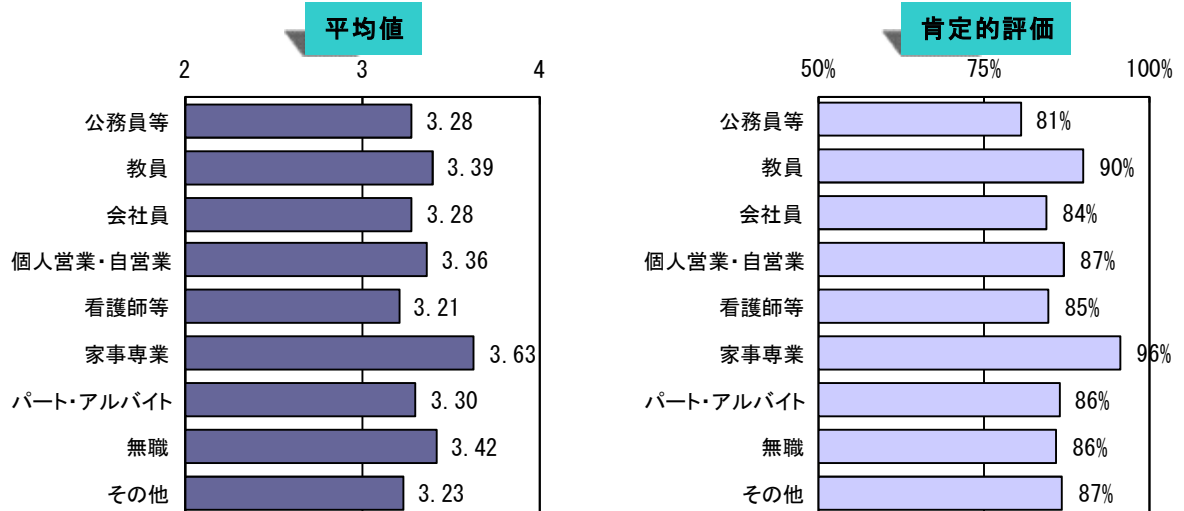
(B-17) 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった



(B-19) この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)



(B-20) この科目の内容には全体として満足している(満足度)

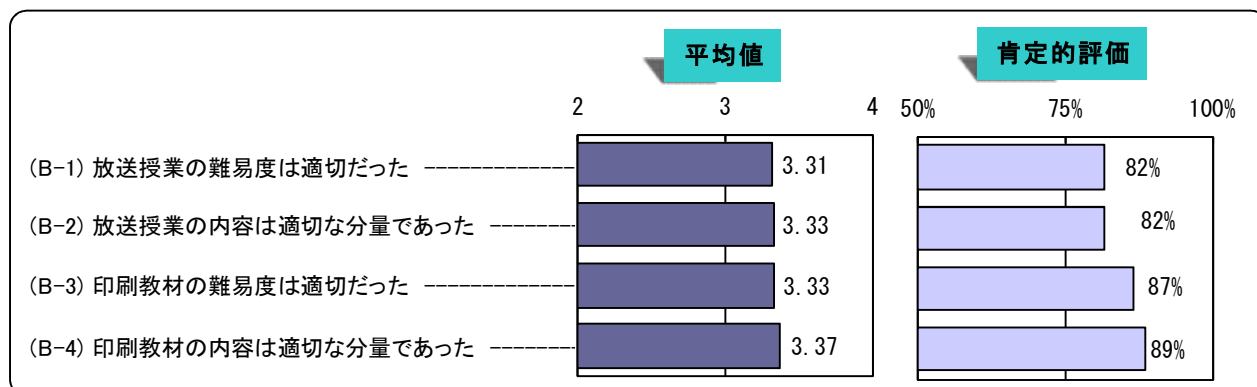


## (2) 授業の難易度・分量

次に授業の難易度・分量について、評価項目ごとに見ていく。

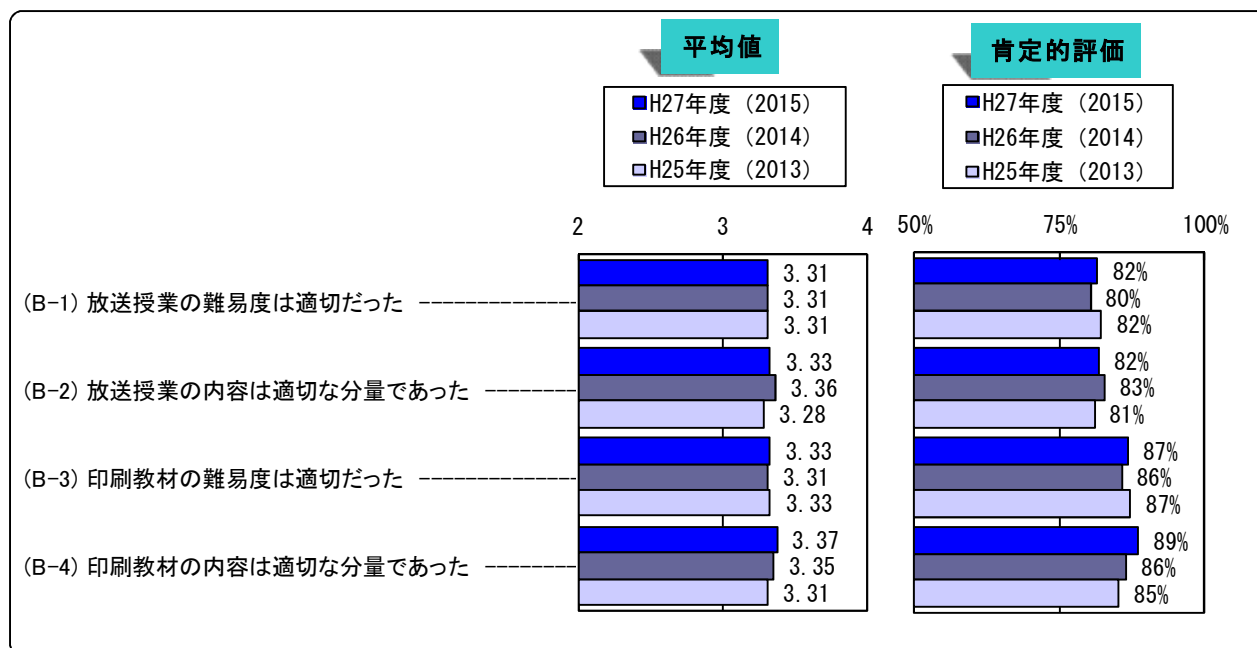
授業の難易度・分量の評価は(図2-69)、いずれも高い評価となっている。ただし、印刷教材に比べ、放送授業は肯定的評価において難易度・分量ともやや低い。

図2-69 【大学院】回答者全体の授業難易度・分量の評価



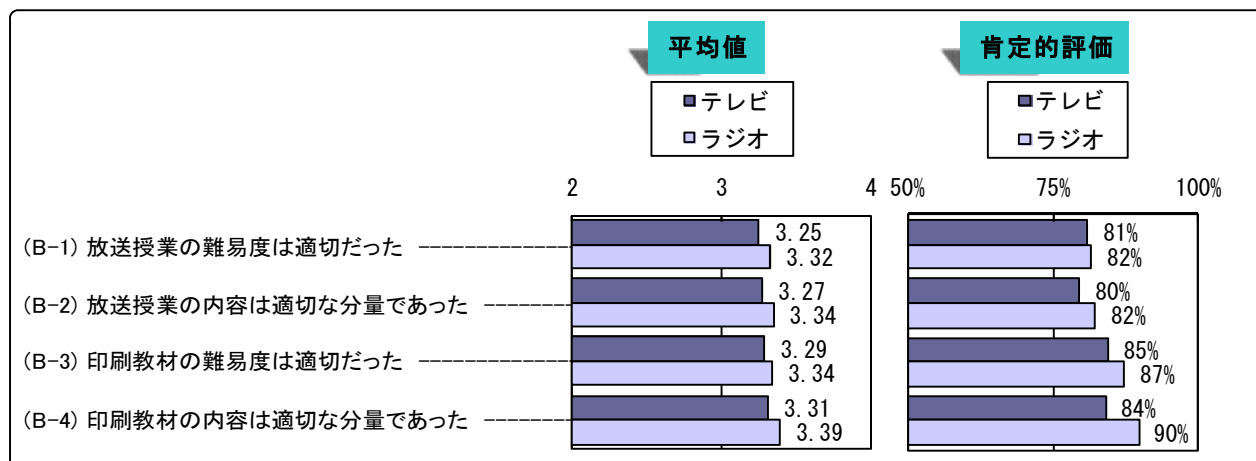
授業の難易度・分量の評価を開設年度で比較すると(図2-70)、いずれの項目でも例年と同程度の水準を保っているが、印刷教材の内容が適量であるとの評価は年々上向きである。

図2-70 【大学院】回答者全体の授業難易度・分量の評価(開設年度比較)



メディア別に授業の難易度・分量を見ると（図2-71）、全体的にラジオ科目に比べてテレビ科目の評価が低くなっている。

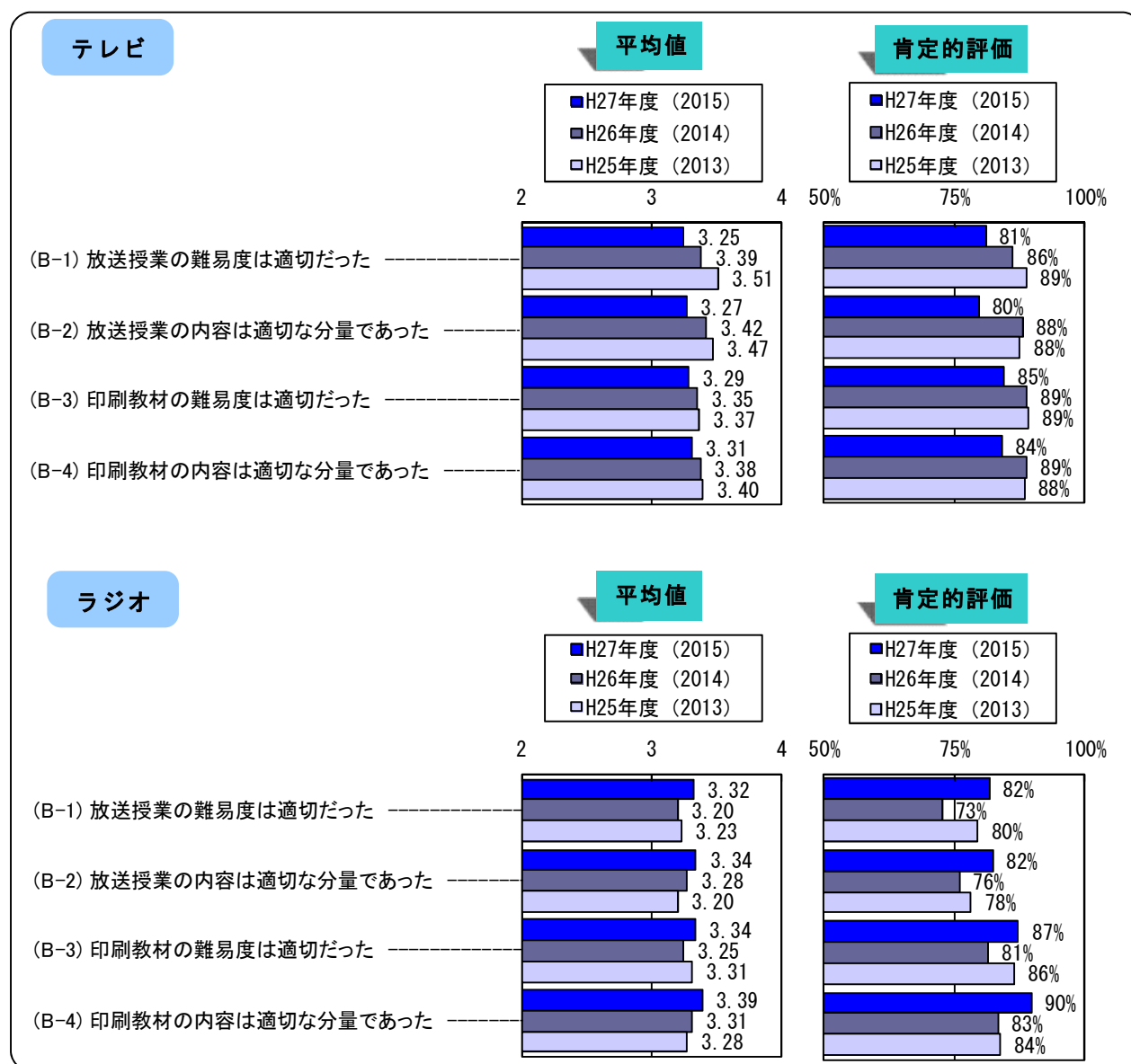
図2-71 【大学院】メディア別の授業難易度・分量の評価



メディア別の授業の難易度・分量を開設年度で比較すると（図2-72）、テレビ科目はますますの高い水準ではあるが、すべての項目で2014年度より平均値、肯定的評価が共に低くなっているのが注目される。

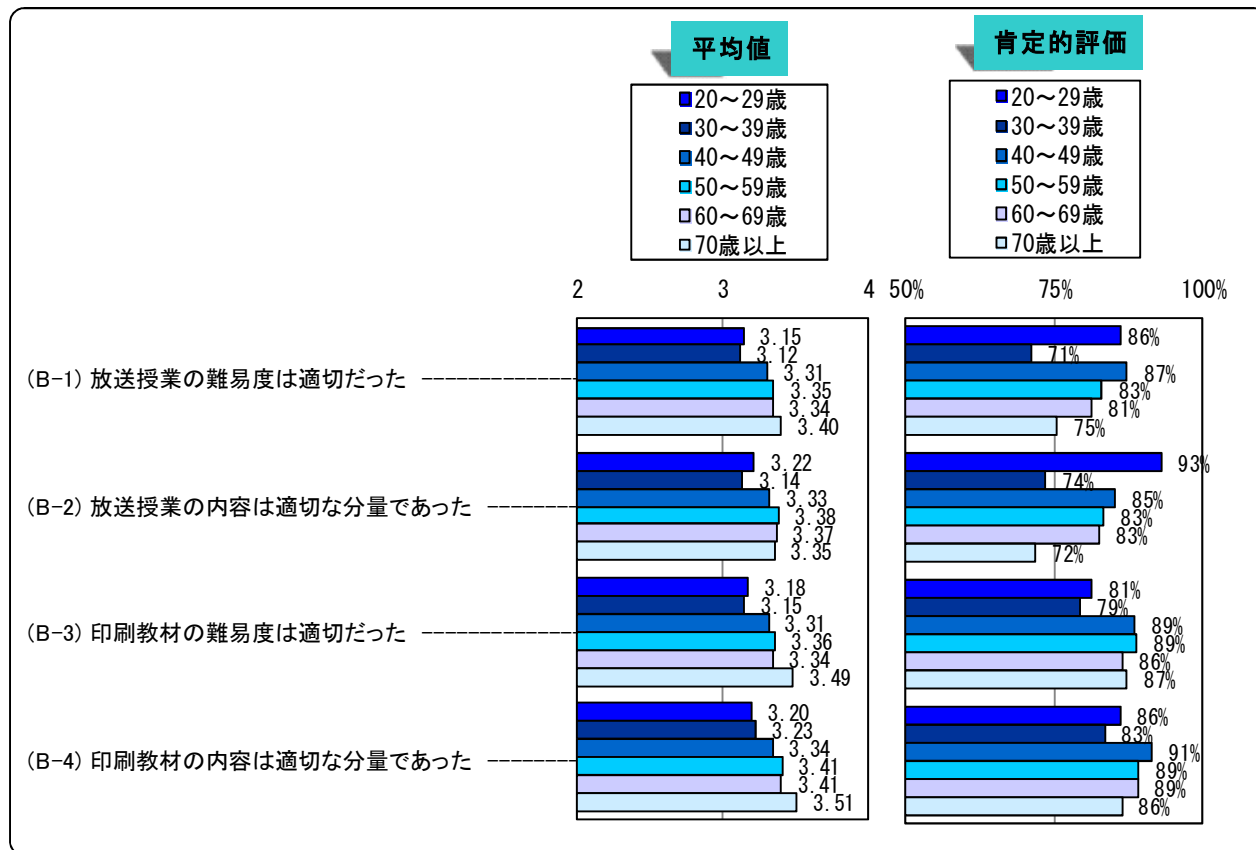
ラジオ科目は全ての項目の評価が前年度より高く、（B-1）「放送授業の難易度は適切だった」の肯定的評価の伸びが特に大きい。

図2-72 【大学院】メディア別の授業難易度・分量の評価（開設年度比較）



年齢階層別に授業の難易度・分量を見ると（図2-73）、放送授業、印刷教材共に難易度が30歳代で低くなっているのが特徴的である。

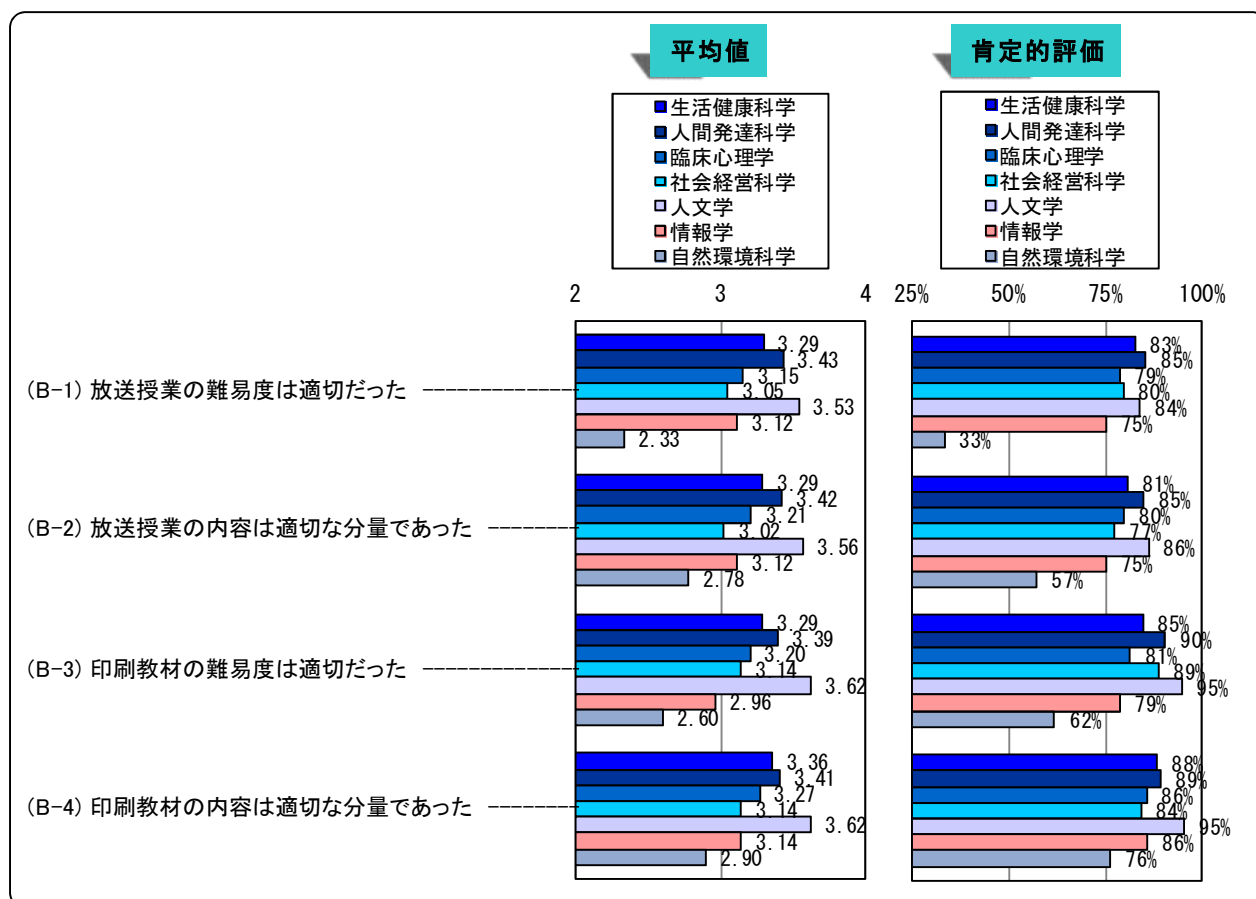
図2-73 【大学院】年齢階層別の授業難易度・分量の評価



所属プログラム別に授業の難易度・分量を見ると（図2-74）、「人文学」がいずれの項目においても、肯定的評価が高い。

放送授業、印刷教材を通じて、難易度・分量ともに「自然環境科学」の評価がいずれの項目でも低くなっている。

図2-74 【大学院】所属プログラム別の授業難易度・分量の評価



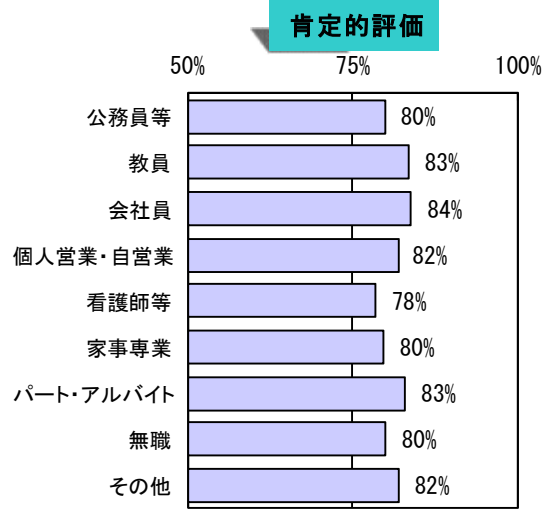
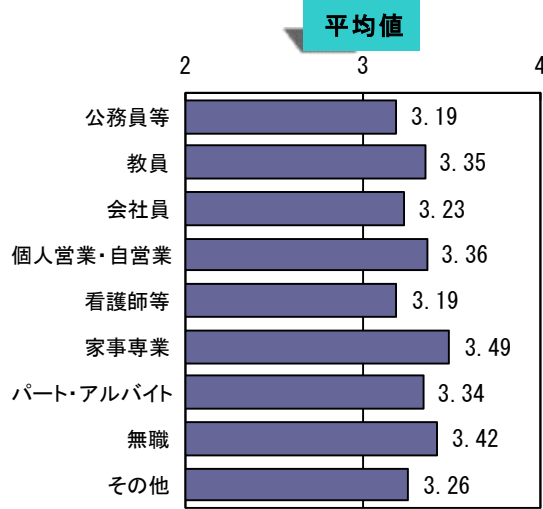
職業別に授業の難易度を見ると（次頁図2-75）、印刷教材では「家事専業」で難易度の評価が高くなっている。

また、放送授業、印刷教材ともに難易度については「看護師等」の評価が低いのも注目される。

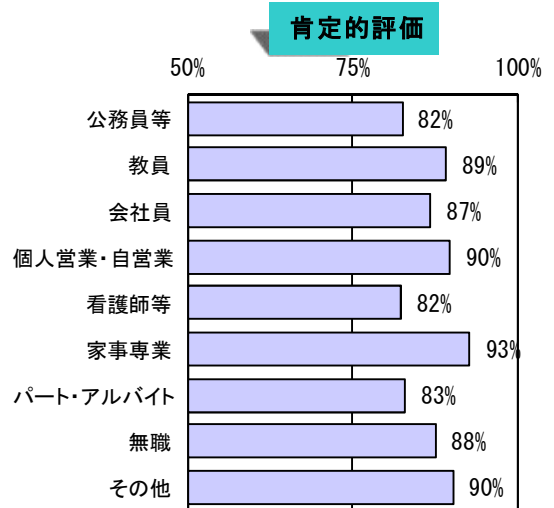
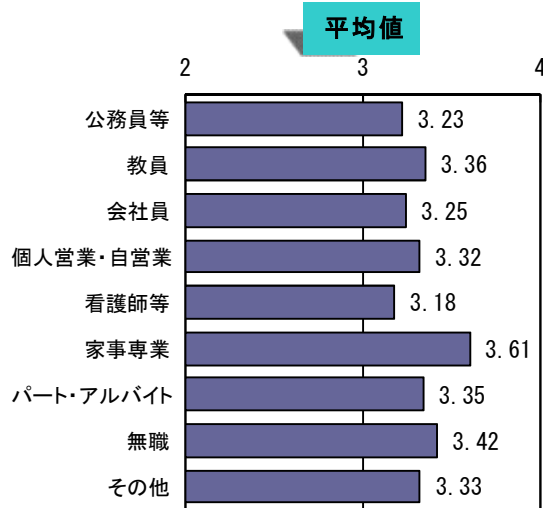


図 2 - 7 5 【大学院】職業別の授業難易度の評価

(B-1) 放送授業の難易度は適切だった



(B-3) 印刷教材の難易度は適切だった

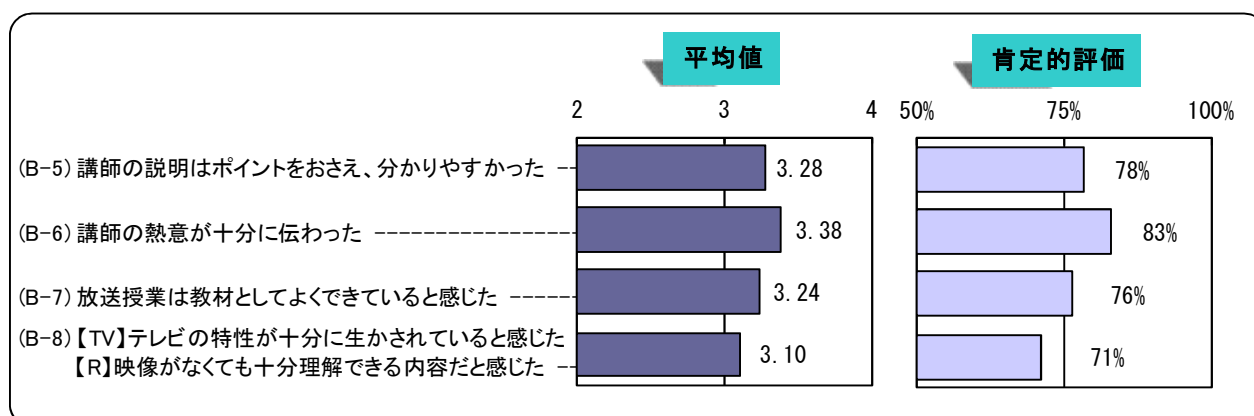


### (3) 放送授業

ここからは放送授業について、評価項目ごとに見ていく。

放送授業に関する評価項目を見ると(図2-76)、放送授業の総合評価でもある(B-7)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」は、平均値 3.24、肯定的評価 76%と比較的高くなっている。また(B-6)「講師の熱意が十分に伝わった」が最も評価が高く、平均値 3.38、肯定的評価 83%となっており、(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」も平均値 3.28、肯定的評価 78%とやや高くなっている。一方、(B-8)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた／【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」は、平均値 3.10、肯定的評価 71%に留まっている。それぞれの媒体の特性を生かす工夫が必要である。

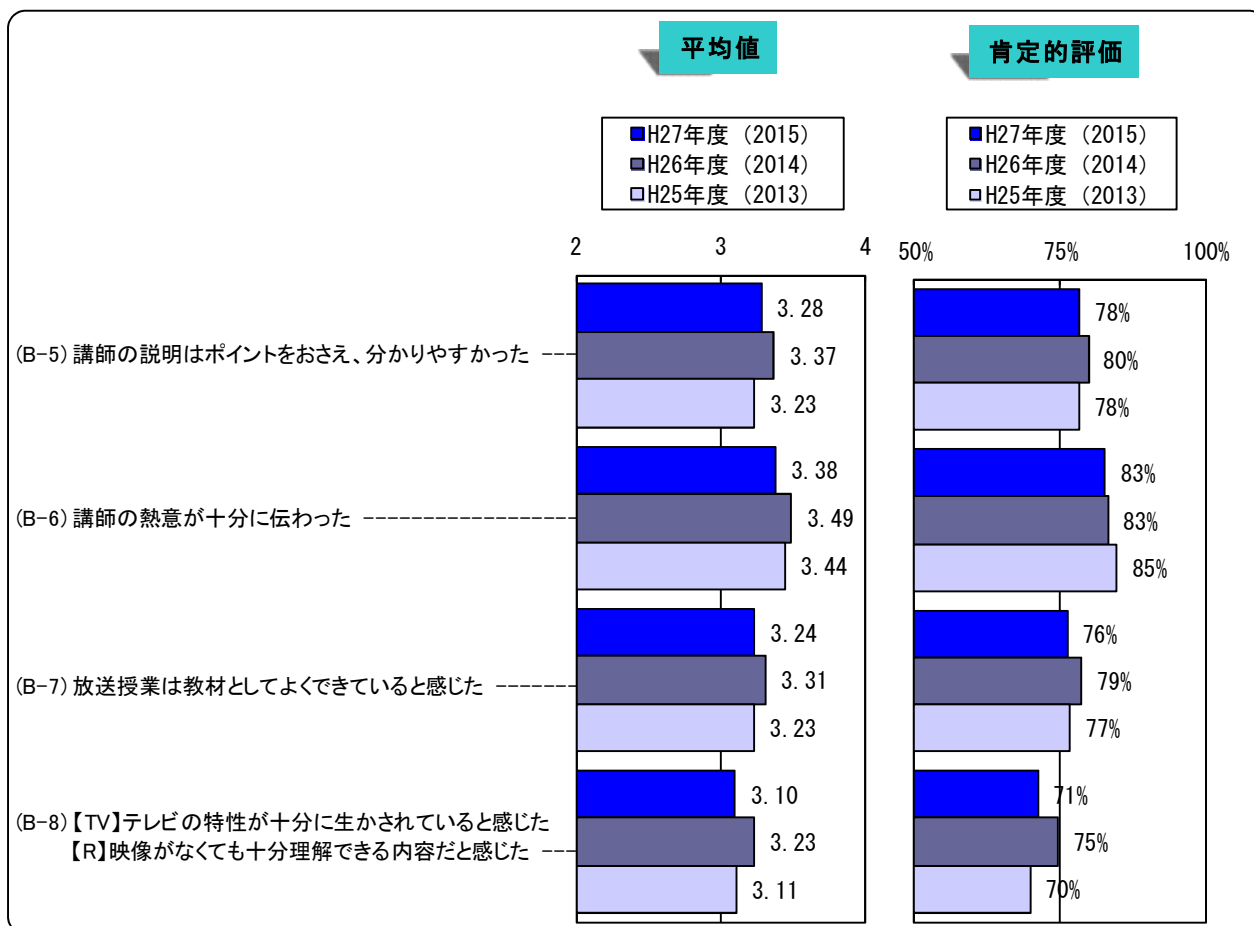
図2-76 【大学院】回答者全体の放送授業の評価



放送授業の評価を時系列で見ると（図2-77）、今年度の調査ではほぼ全ての項目において評価が下がっている。（B-6）「講師の熱意が十分に伝わった」の肯定的評価は昨年度と同じだが、平均値では低くなっている。これは、肯定的に評価した割合は変わらずとも、より否定的に評価した人が増えた結果である。

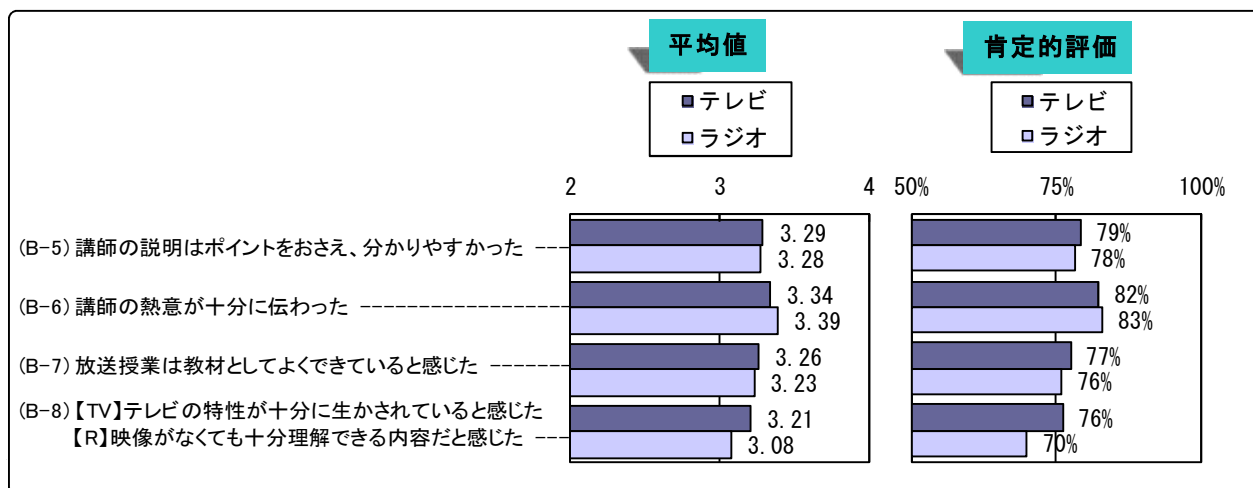
全体的には改善への試みの成果が出なかったと言える。

図2-77 【大学院】 回答者全体の放送授業の評価（時系列）



メディア別に放送授業の評価を見ると（図 2-78）、(B-6)「講師の熱意が十分に伝わった」の項目を除きテレビ科目はいずれもラジオ科目より高い評価を得ている。ラジオ科目はテレビ科目に比べ、全体的に評価が低い、講師の熱意が伝わりやすいようだ。他の項目の評価が上がれば、おのずから高評価につながるであろう。

図 2-78 【大学院】メディア別の放送授業の評価

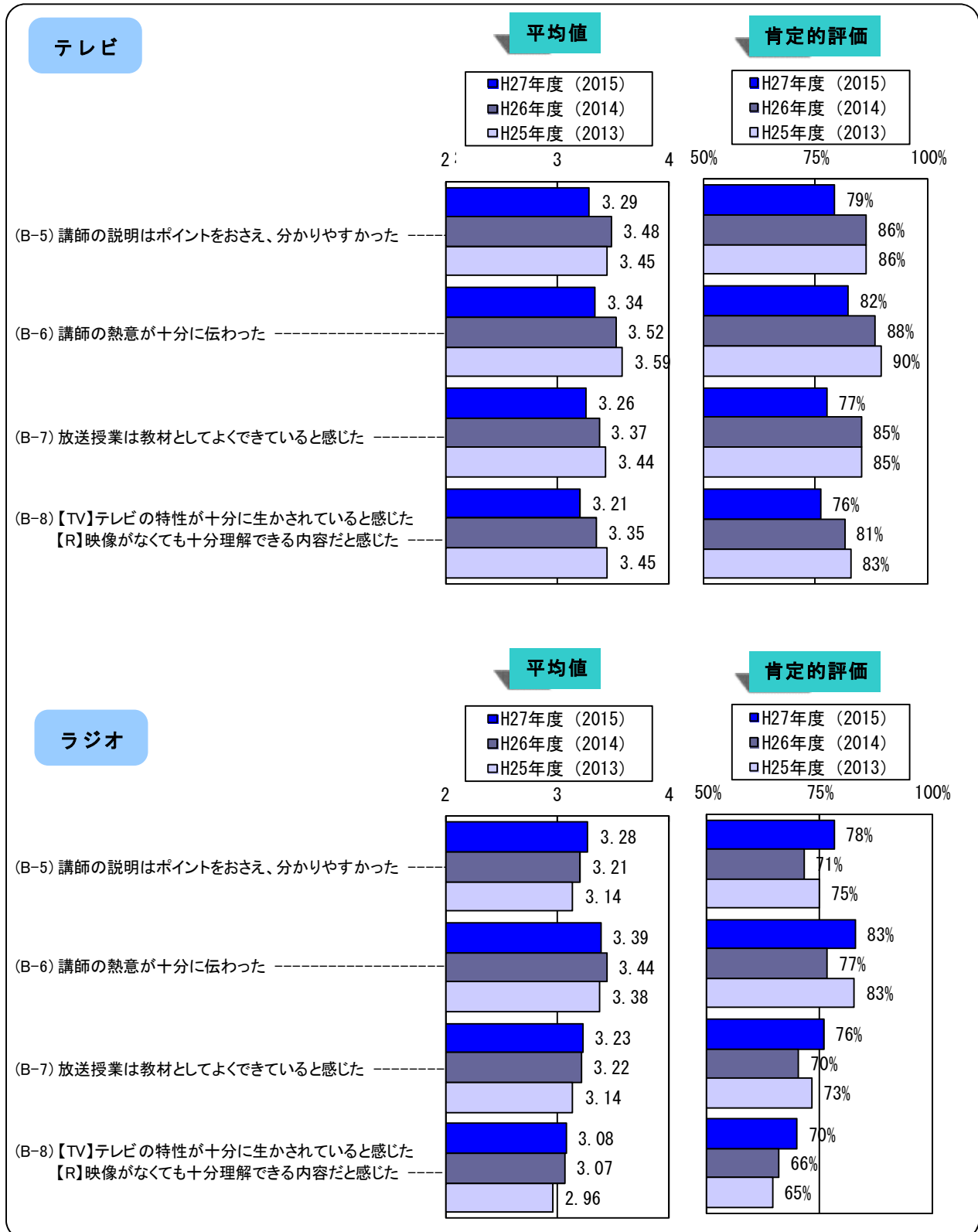


メディア別の放送授業の評価を時系列で見ると（次頁図 2-79）、テレビ科目は全体的に 2014 年度に引き続き本年度も下がる傾向が見てとれる。

ラジオ科目については、(B-6)「講師の熱意が十分に伝わった」の平均値を除き、いずれの項目でも 2014 年度よりも高くなっている。

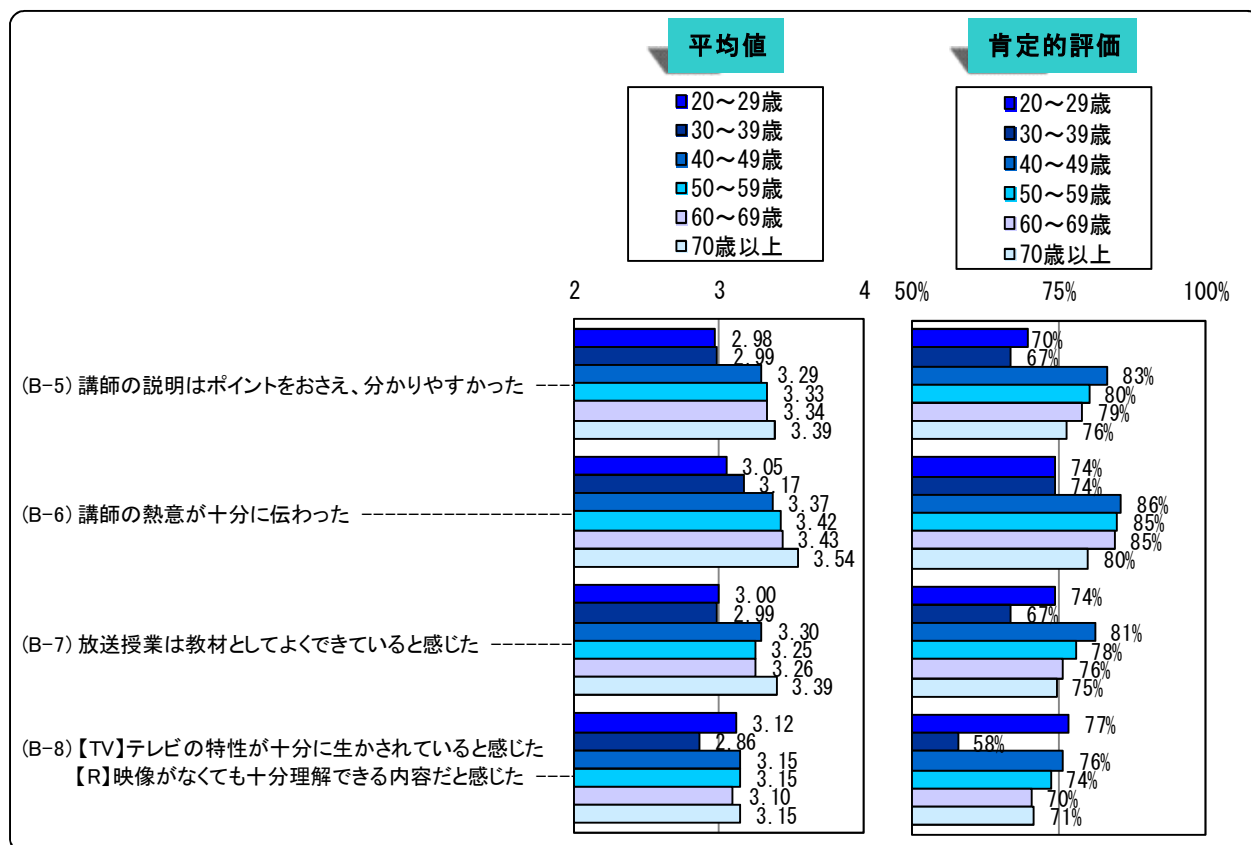
ラジオ科目への改善に注力した結果、テレビ科目への評価は 2014 年度よりも低くなったのが見てとれるが、全ての項目の平均値が 3 を上回っていることから、決して悪い印象を与えているわけではないことがわかる。

図 2 - 7 9 【大学院】メディア別の放送授業の評価（時系列）



年齢階層別に放送授業の評価を見ると（図2-80）、(B-8)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた／【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」で30歳代の肯定的評価が際だって低い。20歳代・30歳代ではわずかではあるが3を下回っている項目がある。70歳以上では平均値の高さに比べ肯定的評価では低い傾向があり、特徴的な結果を示しているといえる。

図2-80【大学院】年齢階層別の放送授業の評価

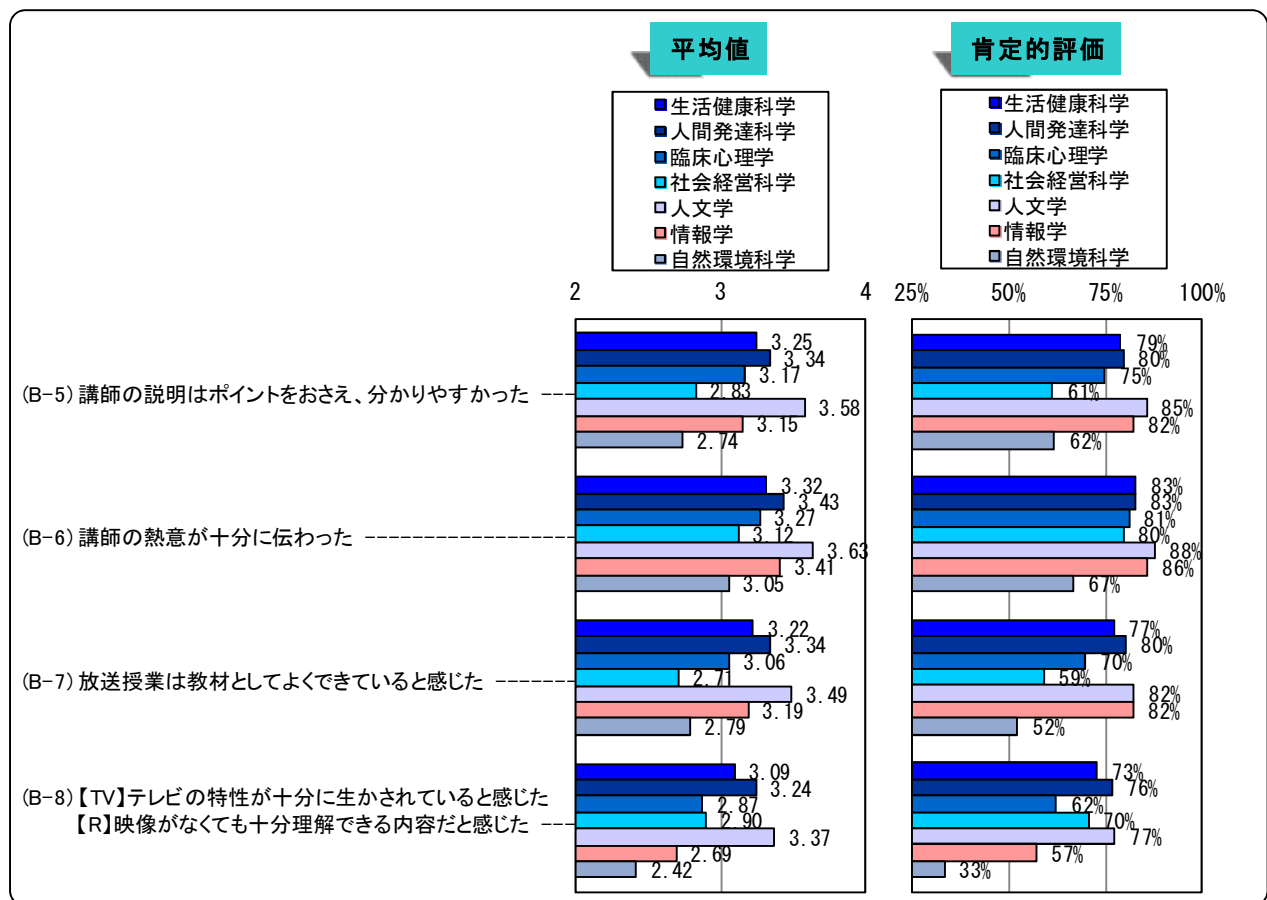


所属プログラム別に放送授業の評価を見ると（図2-81）、「生活健康科学」「人間発達科学」「人文学」の3プログラムからは全体的に高い評価を得ている。

（B-8）「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた／【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」は、「自然環境科学」の評価が極めて低い。

「社会経営科学」では講師の熱意は十分に伝わったものの他の項目においては平均値が3を下回っているため、更なる改善が求められる。「自然環境科学」は全項目において評価が低い。

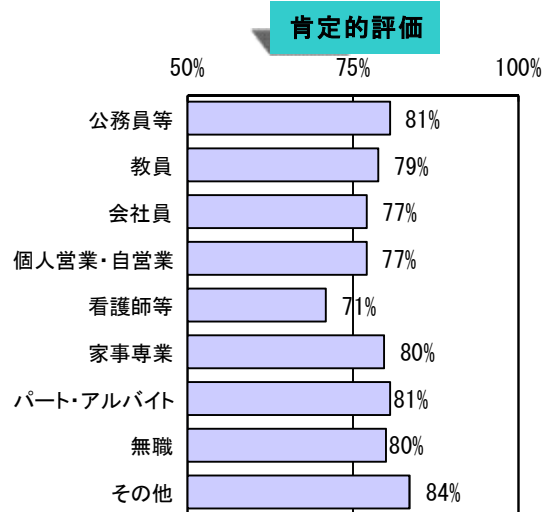
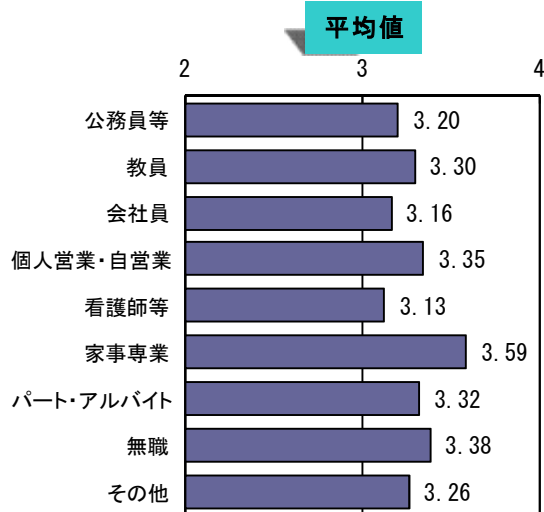
図2-81 【大学院】所属プログラム別の放送授業の評価



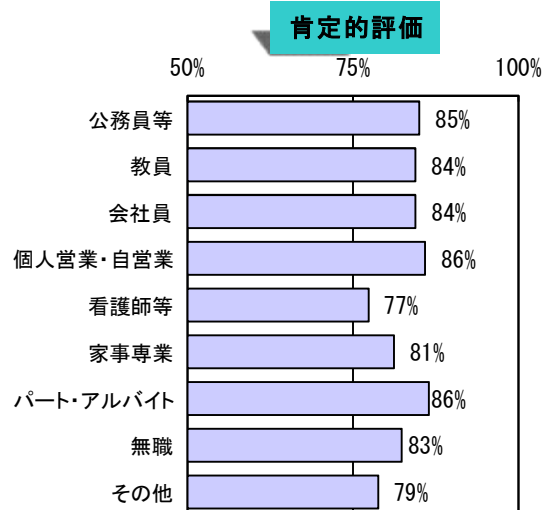
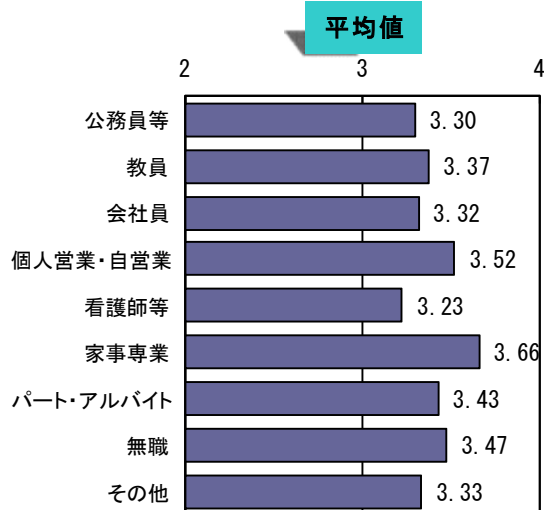
職業別に放送授業の評価を見ると（次頁図2-82）、どの職業からも総じて高い平均値を示している。中でも「家事専業」からはいずれの項目においても高い値を得ている。一方、（B-5）「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、（B-6）「講師の熱意が十分に伝わった」の講師の評価では「看護師等」が他の職業に比べ低い評価となっている。

図 2 - 8 2 【大学院】職業別の放送授業の評価

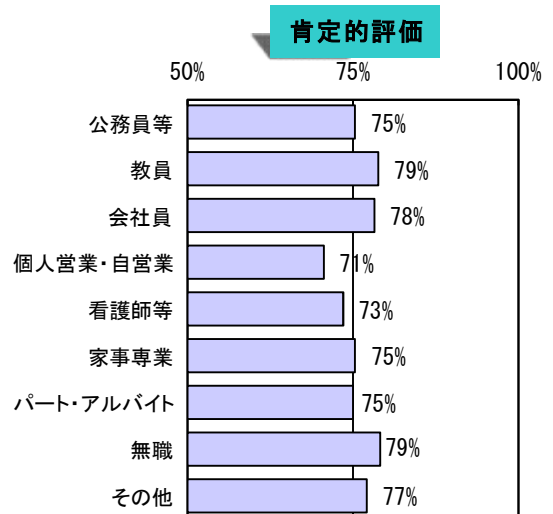
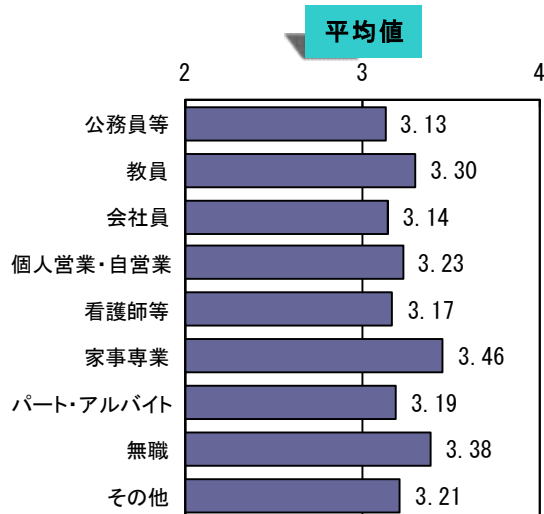
(B-5) 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった



(B-6) 講師の熱意が十分に伝わった



(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた



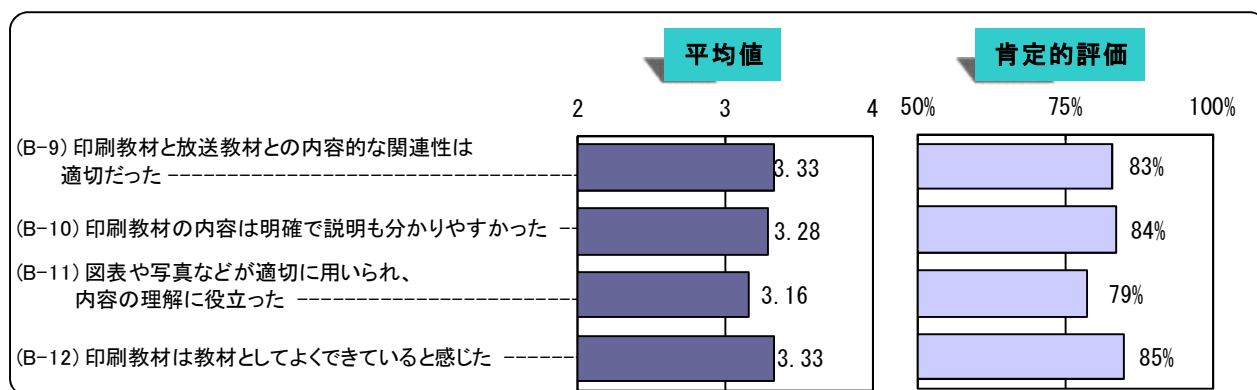


#### (4) 印刷教材

ここからは印刷教材について、評価項目ごとに見ていく。

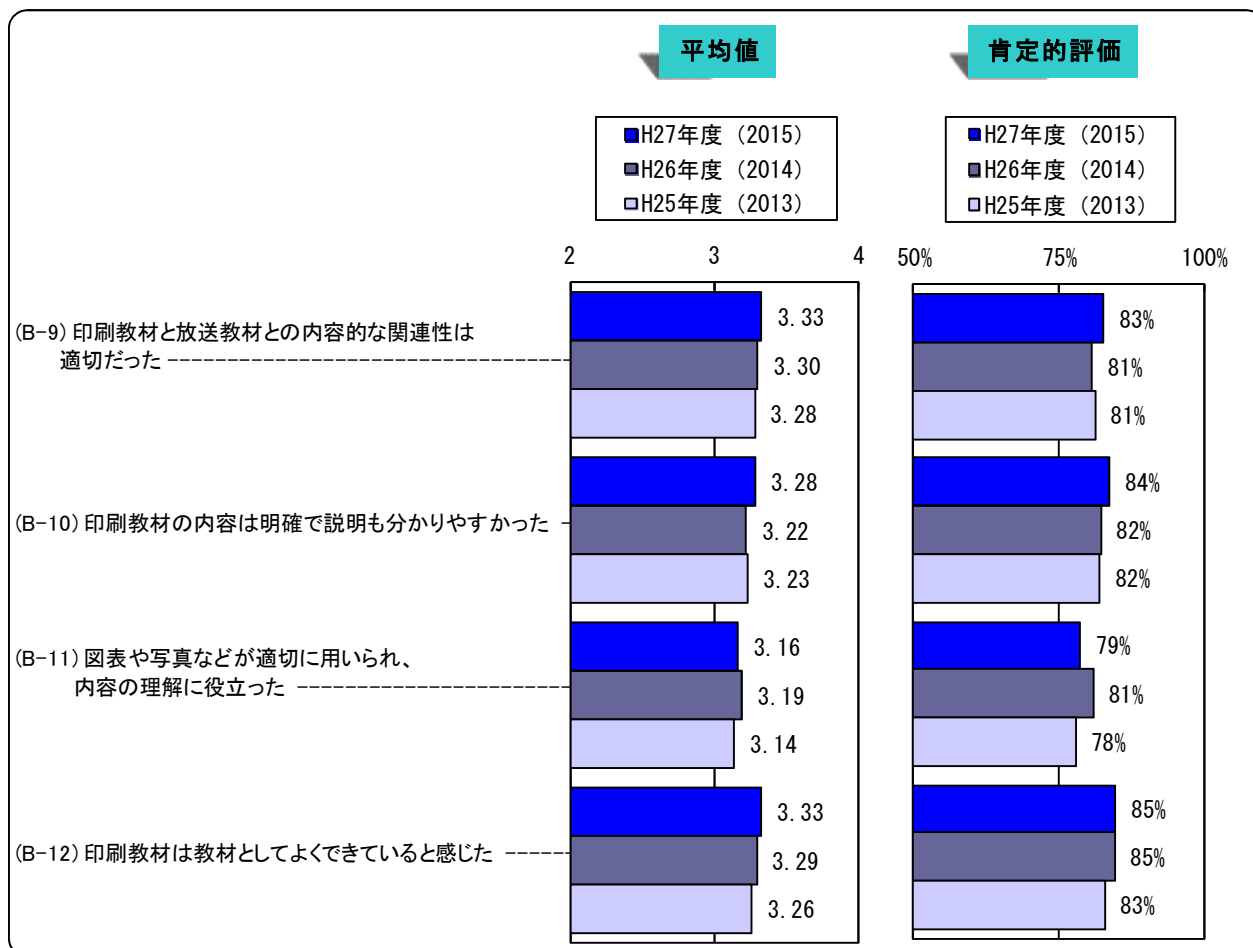
印刷教材の評価項目では(図2-83)、いずれも高い評価を得ている。総合評価としての(B-9)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」は平均値 3.33、肯定的評価 83%、(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」は平均値 3.33、肯定的評価 85%と高くなっている。

図 2 - 8 3 【大学院】回答者全体の印刷教材の評価



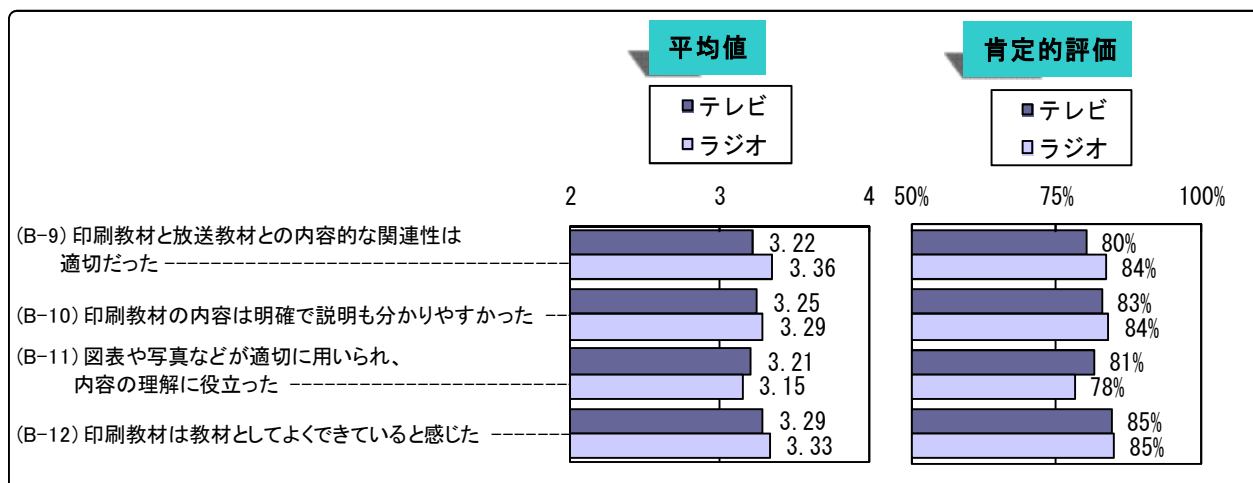
印刷教材の評価を時系列で見ると（図2-84）、(B-9)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」、(B-10)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」、(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」では年々評価が高くなっているが、(B-11)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」では、2013年よりも低くなっている。図表・写真の見直しでさらなる高評価が期待できる。

図2-84 【大学院】回答者全体の印刷教材の評価（時系列）



印刷教材の評価をメディア別に見ると（図2-85）、(B-11) 以外はラジオ科目の評価が高くなっている。(B-11)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役に立った」の項目がラジオ科目では低いが、映像のないラジオの放送授業にあっては視覚的要素を補完するために、テレビ科目以上に図表や写真などを教材に盛り込むことが必要であろう。

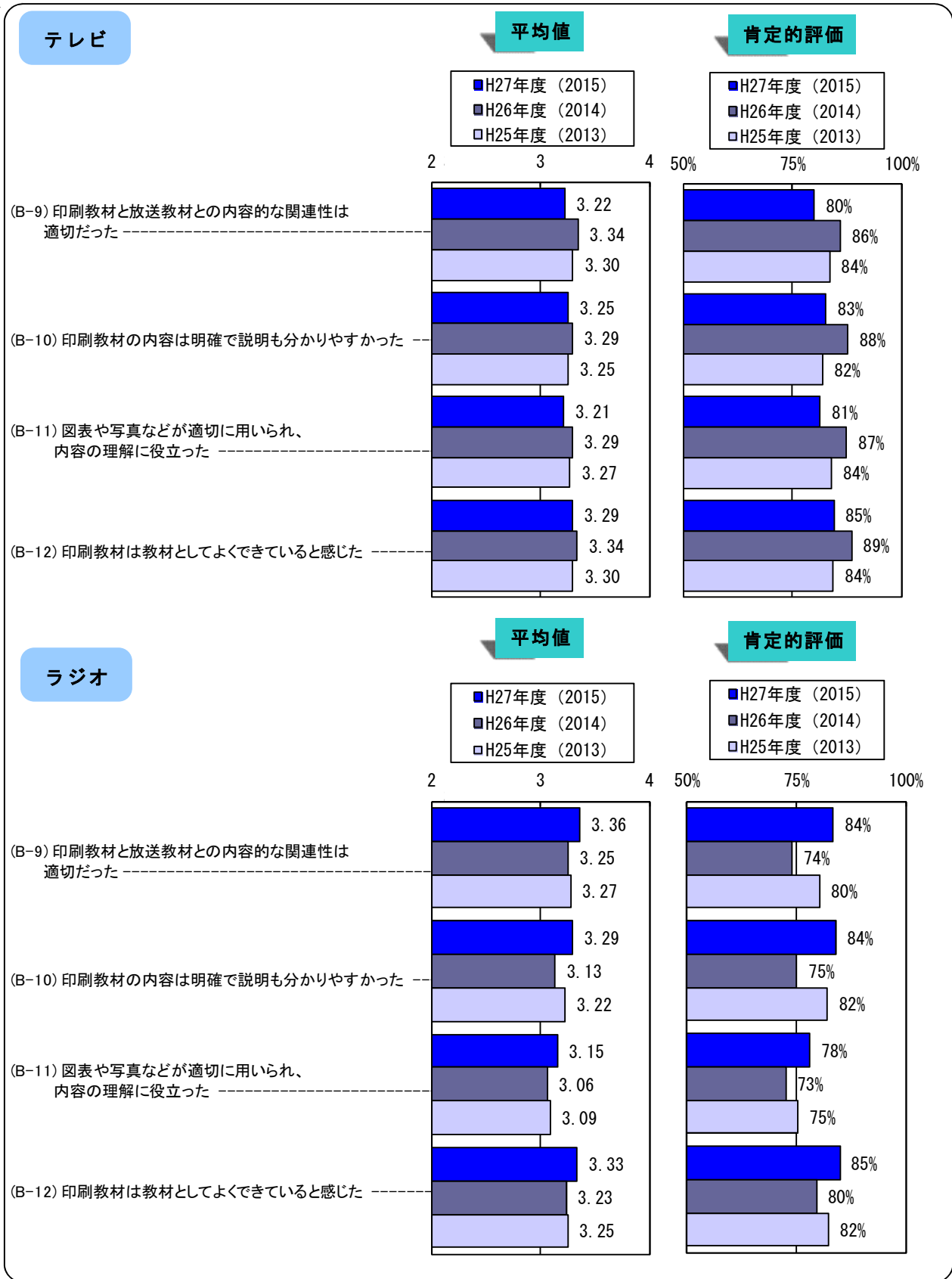
図2-85 【大学院】メディア別の印刷教材の評価



メディア別の印刷教材の評価を時系列で見ると（次頁図2-86）、テレビ科目については、2014年新規開設科目よりも全ての項目において低くなっている。

ラジオ科目については、今年度調査（2015年新規開設科目）において全ての項目で高くなっている。

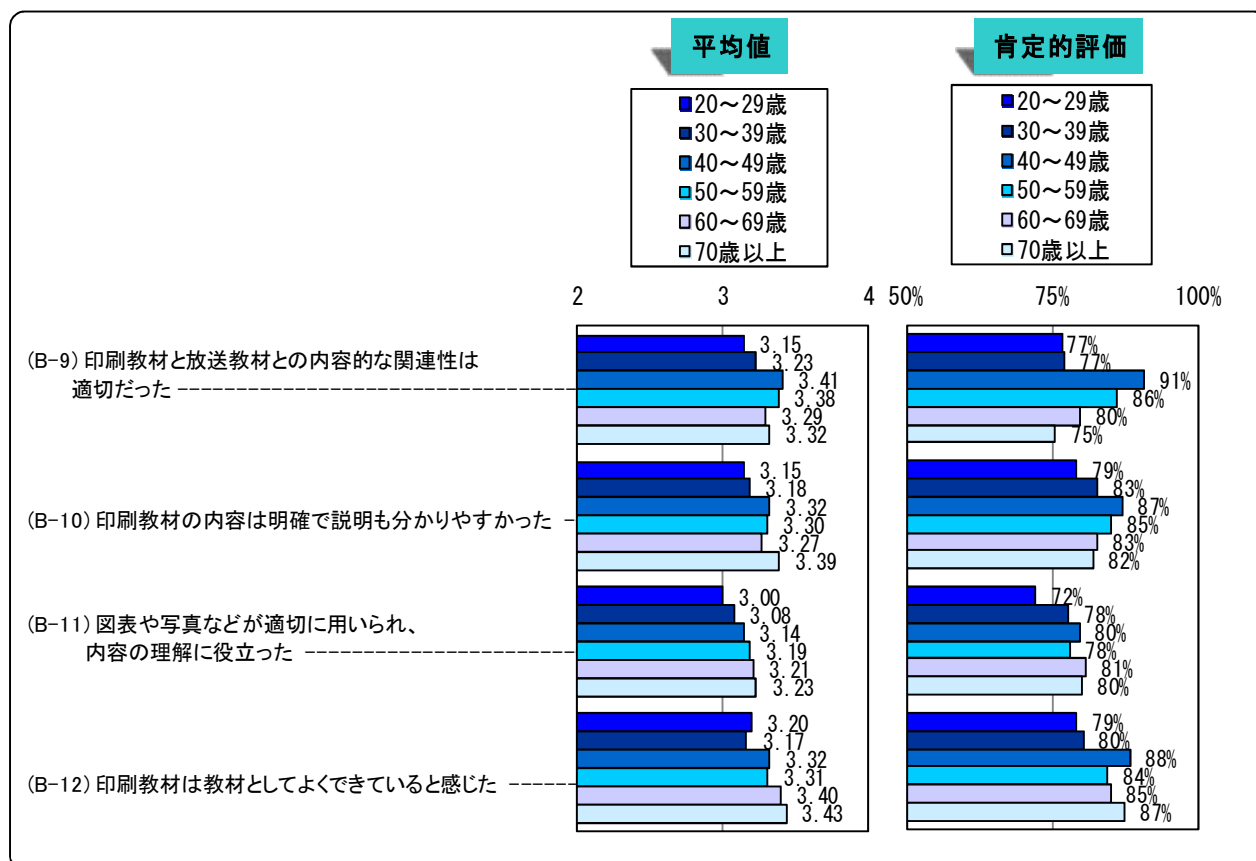
図 2 - 8 6 【大学院】メディア別の印刷教材の評価（時系列）



年齢階層別に印刷教材の評価を見ると(図2-87)、全体として高い値となっており、(B-9)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」では20歳代、30歳代70歳以上の評価がやや低く、(B-11)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役に立った」では20歳代の評価が低い。

しかしながら、全体的には高い水準の評価である。

図2-87【大学院】年齢階層別の印刷教材の評価

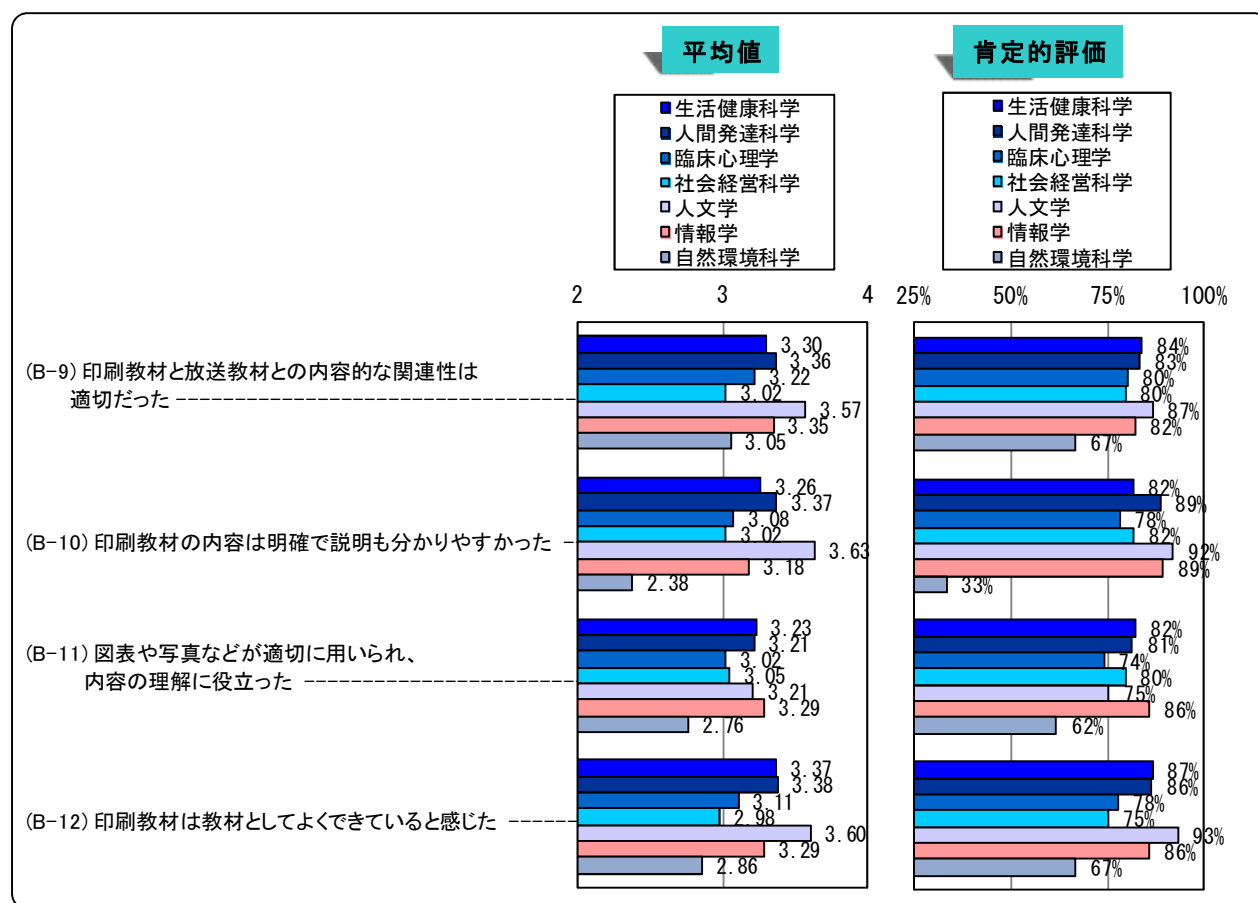


所属プログラム別に印刷教材の評価を見ると（図2-88）、総合評価の（B-12）「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」は、「生活健康科学」、「人間発達科学」、「人文学」の評価が高い。

ほとんどのプログラムで高い評価がつく一方で、「自然環境科学」の評価の低さは際立っている。

「自然環境科学」は、特に（B-10）「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」、の評価が極めて低く、それが総合的な評価につながったと考えられる。

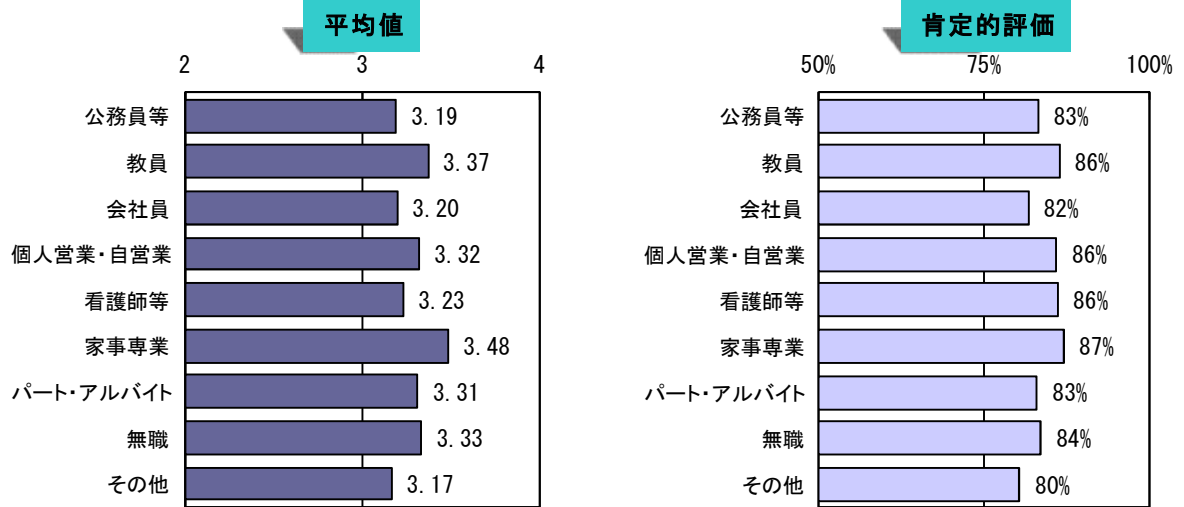
図2-88 【大学院】所属プログラム別の印刷教材の評価



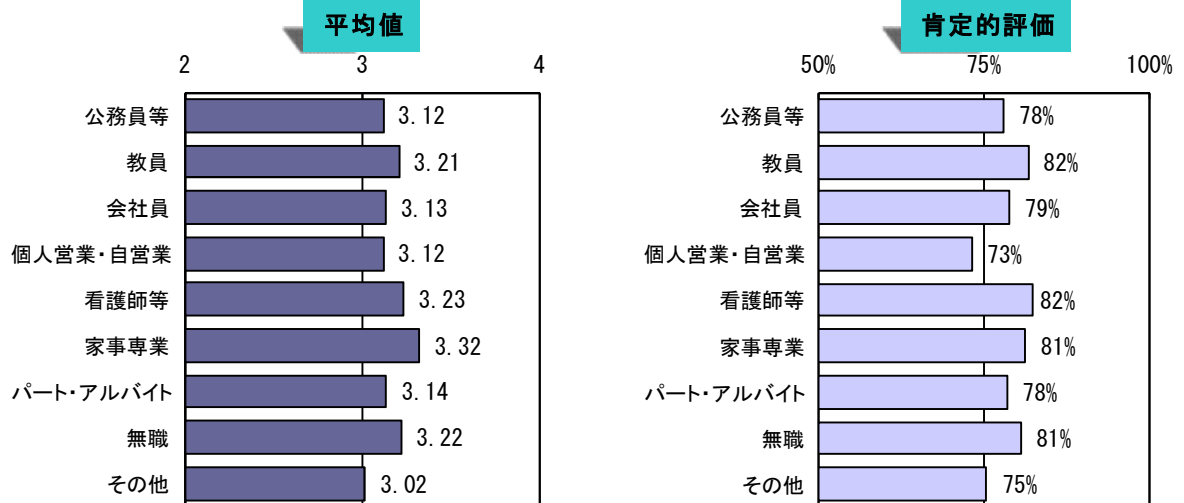
職業別に印刷教材の評価を見ると（次頁図2-89）、総合評価の（B-12）「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」は、全体的に評価が高い。「家事専業」では全ての項目でことごとく評価が高い。一方、（B-11）「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役に立った」の評価では「公務員」、「個人営業・自営業」が他の職業に比べ低い評価となっている。これは、学習に費やせる時間的余裕が関連していることも考えられる。

図 2 - 8 9 【大学院】職業別の印刷教材の評価

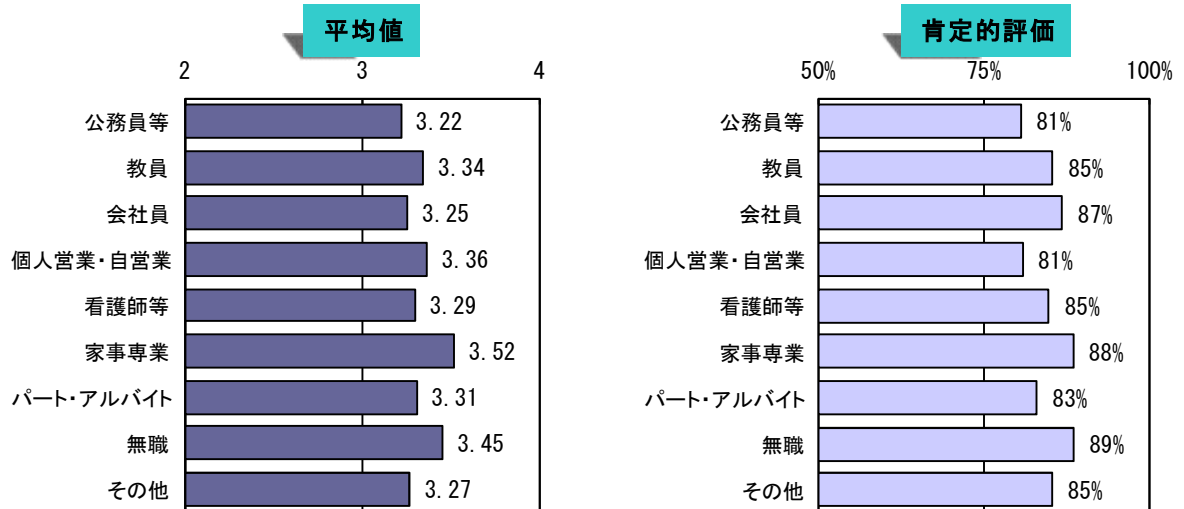
(B-10) 印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった



(B-11) 図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った



(B-12) 印刷教材は教材としてよくできていると感じた



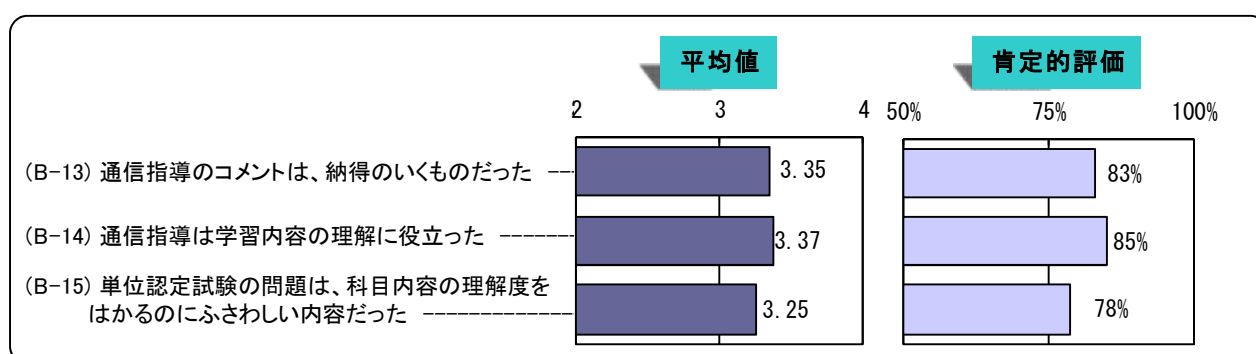
## (5) 通信指導・単位認定試験

最後に通信指導・単位認定試験の評価について、項目ごとに見ていく。

通信指導については(図2-90)、(B-13)「通信指導のコメントは、納得のいくものだった」が平均値 3.35、肯定的評価 83%、(B-14)「通信指導は学習内容の理解に役立った」が平均値 3.37、肯定的評価 85%と、いずれも高評価である。

単位認定試験についても(B-15)「単位認定試験の問題は科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった」が平均値 3.25、肯定的評価 78%と比較的评价が高いと言える。

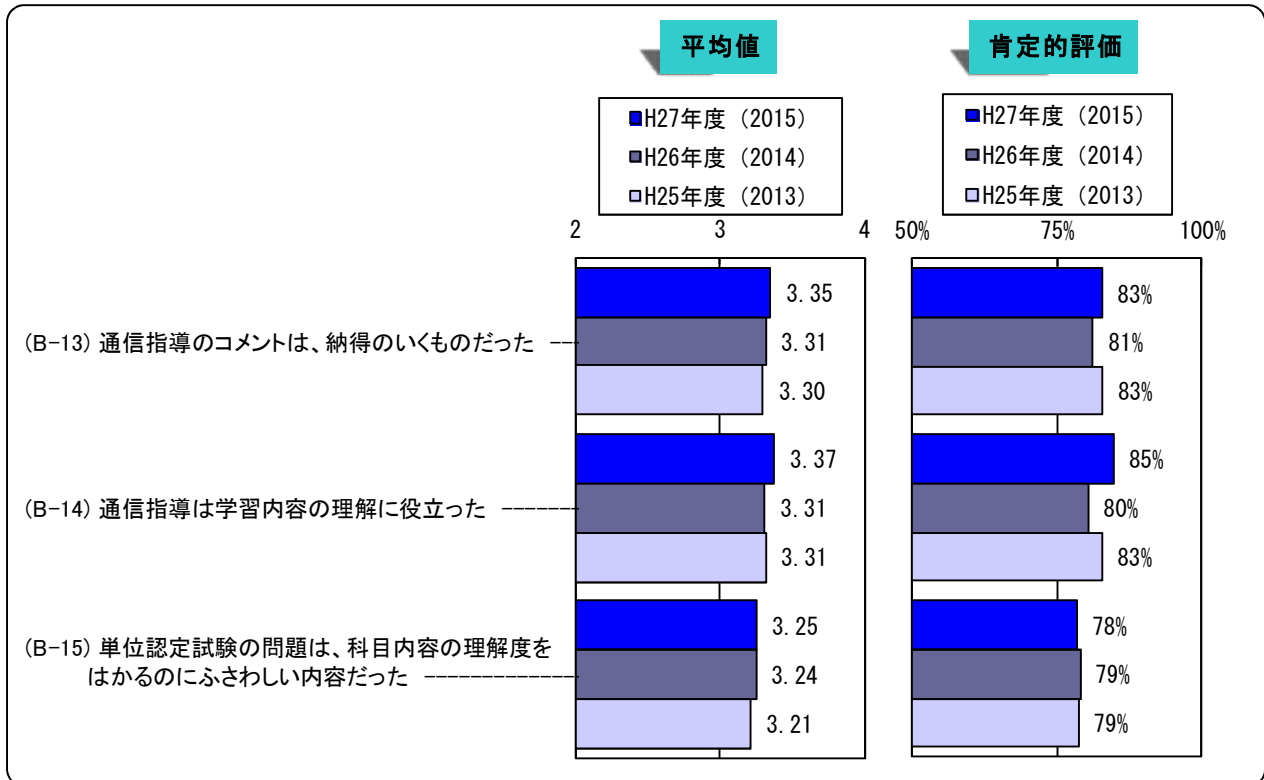
図2-90【大学院】回答者全体の通信指導・単位認定試験の評価



通信指導・単位認定試験の評価を時系列で見ると(次頁図2-91)、(B-14)「通信指導は学習内容の理解に役立った」が2014年新規開設科目と比較し、高い評価を得ているが、(B-15)「単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった」では、わずかに評価を下げている。

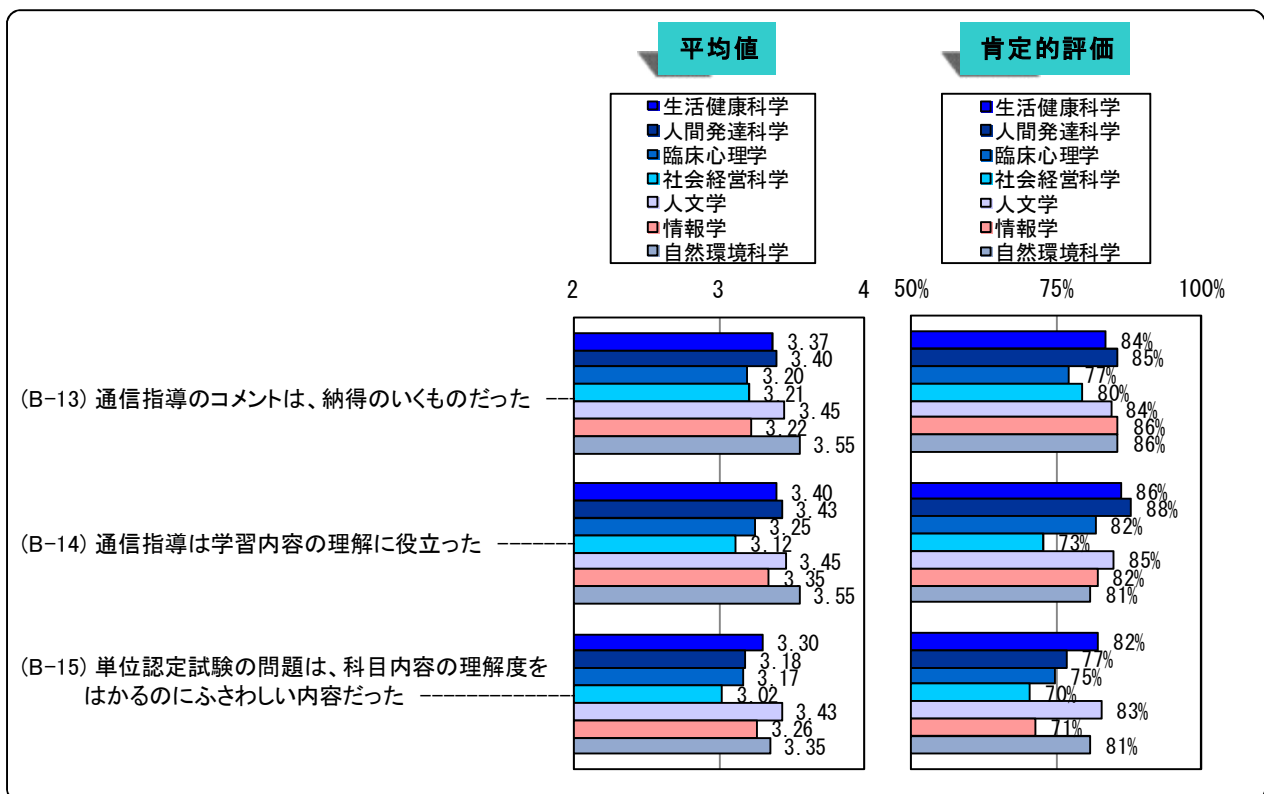


図 2 - 9 1 【大学院】回答者全体の通信指導・単位認定試験の評価（時系列）



所属プログラム別に通信指導・単位認定試験の評価を見ると（図 2 - 9 2）、通信指導は、「人間発達科学」「情報学」「自然環境科学」で評価が高く、「社会経営科学」は評価が低い。単位認定試験においても、「社会経営科学」の評価が低い。

図 2 - 9 2 【大学院】所属プログラム別の通信指導・単位認定試験の評価



## Ⅱ－２－４．参考

ここでは、学部の場合と同様に、総合評価と各個別評価との関係を、相関係数を用いてみていく（相関係数の意味と見方については、巻末資料を参照されたい）。

（表２－７）は、放送授業の各評価項目と（A-2）「放送授業を十分に視聴した」（放送授業への取組姿勢）及び（B-7）「放送授業は教材としてよくできていると感じた」（放送授業の総合評価）の相関係数である。

表２－７ 【大学院】放送授業と各項目との相関係数

	(A-2) 放送授業を十分に視聴した	(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた
(A-2) 放送授業を十分に視聴した	1.000	0.399
(B-1) 放送授業の難易度は適切だった	0.404	0.628
(B-2) 放送授業の内容は適切な分量であった	0.400	0.641
(B-5) 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	0.392	0.791
(B-6) 講師の熱意が十分に伝わった	0.426	0.732
(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた	0.399	1.000
(B-8) 【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0.288	0.613

これを見ると、（A-2）「放送授業を十分に視聴した」（放送授業への取組姿勢）と（B-7）「放送授業は全体としてよくできていると感じた」（放送授業の総合評価）の相関係数は0.399と、やや相関は見られるものの、強くはない。

また（A-2）「放送授業を十分に視聴した」（放送授業への取組姿勢）と放送授業の各評価項目の間では、（B-6）「講師の熱意が十分に伝わった」の相関係数が0.426とある程度の相関を示しており、放送授業の視聴に際して何らかの影響を与えていることがわかる。

一方、（B-7）「放送授業は教材としてよくできていると感じた」（放送授業の総合評価）と放送授業の各評価項目との間では、いずれも強い相関が見られ、特に（B-5）「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」が相関係数0.791、（B-6）「講師の熱意が十分に伝わった」が相関係数0.732と、強い相関を示している。したがって、総合評価を高める上では、特に講師の説明内容や熱意が重要だと言える。

次に、印刷教材の各評価項目と、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」(印刷教材への取組姿勢)及び(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」(印刷教材の総合評価)の相関係数を見たのが表2-8である。

表2-8 【大学院】印刷教材と各項目との単相関係数

	(A-3)印刷教材を熱心に学習した	(B-12)印刷教材は教材としてよくできていると感じた
(A-3)印刷教材を熱心に学習した	1.000	0.283
(B-3)印刷教材の難易度は適切だった	0.323	0.598
(B-4)印刷教材の内容は適切な分量であった	0.340	0.584
(B-9)印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった	0.313	0.560
(B-10)印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	0.328	0.772
(B-11)図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	0.255	0.662
(B-12)印刷教材は教材としてよくできていると感じた	0.283	1.000

まず、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」(印刷教材への取組姿勢)と各評価項目の間には、あまり相関は見られない。取組姿勢に対する自己評価では、印刷教材に対する評価はあまり表れていない。

一方、(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」(印刷教材の総合評価)と印刷教材の各評価項目とでは相関が強く、特に(B-10)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」は相関係数0.772、(B-11)「図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った」が0.662と強い相関を示している。であるから、印刷教材の総合評価をさらに高めるためには、逆に難易度や適量等に注力することが重要と言える。

続けて(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)」、(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」及び(B-20)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」と各評価項目の相関係数を見たのが(次頁表2-9)である。

表2-9 【大学院】取組姿勢・全体評価と各項目との単相関係数

		(A-1) 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)	(B-19) この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)	(B-20) この科目の内容には全体として満足している(満足度)
取組姿勢	(A-1) 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)	1.000	0.493	0.446
	(A-2) 放送授業を十分に視聴した	0.527	0.271	0.260
	(A-3) 印刷教材を熱心に学習した	0.690	0.433	0.353
授業の難易度・分量	(B-1) 放送授業の難易度は適切だった	0.404	0.560	0.574
	(B-2) 放送授業の内容は適切な分量であった	0.407	0.520	0.540
	(B-3) 印刷教材の難易度は適切だった	0.351	0.604	0.610
	(B-4) 印刷教材の内容は適切な分量であった	0.379	0.551	0.590
放送授業	(B-5) 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	0.386	0.556	0.626
	(B-6) 講師の熱意が十分に伝わった	0.424	0.495	0.554
	(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた	0.395	0.538	0.649
	(B-8) 【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0.319	0.519	0.531
印刷教材	(B-9) 印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった	0.385	0.498	0.555
	(B-10) 印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	0.355	0.633	0.679
	(B-11) 図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	0.292	0.466	0.527
	(B-12) 印刷教材は教材としてよくできていると感じた	0.355	0.592	0.706
通信指導・単位認定試験	(B-13) 通信指導のコメントは、納得のいくものだった	0.282	0.402	0.510
	(B-14) 通信指導は学習内容の理解に役立った	0.335	0.475	0.561
	(B-15) 単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった。	0.286	0.507	0.602
全体評価	(B-16) 授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った	0.379	0.521	0.624
	(B-17) 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった	0.448	0.633	0.742
	(B-18) 新しい知識が身につく視野が広がった	0.423	0.594	0.708
	(B-19) この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)	0.493	1.000	0.768
	(B-20) この科目の内容には全体として満足している(満足度)	0.446	0.768	1.000

まず、全体的な熱心度（取組姿勢）と全体評価の理解度、満足度との関係を見ると、熱心度と理解度は 0.493、熱心度と満足度は 0.446 の相関係数であり、熱心度と理解度・満足度との間には緩やかな相関が見て取れる。また理解度と満足度の相関係数は 0.768 と強い相関が見られ、理解度が高いと満足度も高いと言える。

(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」と各評価項目の相関を見ると、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」が相関係数 0.690 と強い相関が見られるが、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は相関係数 0.527 となっており、印刷教材中心の学習実態がうかがえる。さらに全体評価の各評価項目とも緩やかな相関が見られる。

(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」は、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」以外の各評価項目と相関が見られる。理解度は、放送授業や印刷教材の難易度・分かりやすさ、授業内容が興味や関心の高まるものであったかどうか、新しい知識が身につく視野が広がるものであったかどうかなど、さまざまな項目が要因となっている状況がうかがえる一方、取組姿勢とはあまり密接な関連は見られない。しかし、放送授業の存在意義を考えればさらなる改善が必要であろう。

(B-20)「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」は、各評価項目と相関が見られ、満足度を高める上でいずれの評価項目も影響していることが分かる。なかでも特に相関が強いのは、(B-17)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」、

(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」、(B-18)「新しい知識が身につく視野が広がった」である。科目の満足度を高める上では全ての要素が連動して満足度に寄与する必要があるが、特に印刷教材の分かりやすさ、興味・関心のもてる授業内容、視野が広がるような知識の習得などが重要なポイントと言える。

また、学部で行った分析と同様の方法で放送授業、印刷教材の改善点の分析を試みる。

(B-7)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」を基準に、この項目に対して 1、2 の評価を下した標本を母集団に各項目との相関係数を求めたのが（次頁表 2 - 10）である。

表2-10 【大学院】放送授業と各項目との相関係数

		(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた。 (評価1または2)
取組姿勢	(A-1) 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)	0.169
	(A-2) 放送授業を十分に視聴した	0.287
	(A-3) 印刷教材を熱心に学習した	-0.043
授業の難易度・分量	(B-1) 放送授業の難易度は適切だった	0.247
	(B-2) 放送授業の内容は適切な分量であった	0.285
	(B-3) 印刷教材の難易度は適切だった	0.055
	(B-4) 印刷教材の内容は適切な分量であった	-0.031
放送授業	(B-5) 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	0.556
	(B-6) 講師の熱意が十分に伝わった	0.552
	(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた	1.000
	(B-8) 【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0.334
印刷教材	(B-9) 印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった	0.244
	(B-10) 印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	0.185
	(B-11) 図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	0.157
	(B-12) 印刷教材は教材としてよくできていると感じた	0.120
通信指導・単位認定試験	(B-13) 通信指導のコメントは、納得のいくものだった	0.177
	(B-14) 通信指導は学習内容の理解に役立った	0.158
	(B-15) 単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった。	0.147
全体評価	(B-16) 授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った	0.181
	(B-17) 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった	0.237
	(B-18) 新しい知識が身につく視野が広がった	0.233
	(B-19) この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)	-0.002
	(B-20) この科目の内容には全体として満足している(満足度)	0.145

(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」(B-6)「講師の熱意が十分に伝わった」との相関が強い、ということは放送授業に対する低い評価の大きな改善点がこの項目であることを示唆している。

自由記述でも、講師に対する言及・要望が散見された。内容を結果を精査し、改善に生かすべきと考える。

最後に、(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」に対して1、2の評価を下した標本を母集団として同様に分析したものが(次頁表2-11)である。

表2-11 【大学院】印刷教材と各項目との相関係数

		(B-12)印刷教材は教材としてよくできていると感じた。 (評価1または2)
取組姿勢	(A-1)全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)	0.154
	(A-2)放送授業を十分に視聴した	0.099
	(A-3)印刷教材を熱心に学習した	0.052
授業の難易度・分量	(B-1)放送授業の難易度は適切だった	0.313
	(B-2)放送授業の内容は適切な分量であった	0.242
	(B-3)印刷教材の難易度は適切だった	0.339
	(B-4)印刷教材の内容は適切な分量であった	0.262
放送授業	(B-5)講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	0.363
	(B-6)講師の熱意が十分に伝わった	0.251
	(B-7)放送授業は教材としてよくできていると感じた	0.365
	(B-8)【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0.014
印刷教材	(B-9)印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった	-0.015
	(B-10)印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	0.371
	(B-11)図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	0.227
	(B-12)印刷教材は教材としてよくできていると感じた	1.000
通信指導・単位認定試験	(B-13)通信指導のコメントは、納得のいくものだった	0.206
	(B-14)通信指導は学習内容の理解に役立った	0.171
	(B-15)単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった。	0.111
全体評価	(B-16)授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った	0.218
	(B-17)学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった	0.335
	(B-18)新しい知識が身につく視野が広がった	0.269
	(B-19)この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)	0.139
	(B-20)この科目の内容には全体として満足している(満足度)	0.312

この結果から、印刷教材に対して低い評価を下す標本は、放送授業に対しても否定的評価を下す傾向にあるということがわかる。

放送授業に対して否定的評価を下す学生にとって、印刷教材の理解に放送授業が効果的な成果を伴っていないと考えられる。